吉武遺跡群

XVIII

飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書12

－古墳時代集落遺構編３－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第911集

2006

福岡市教育委員会

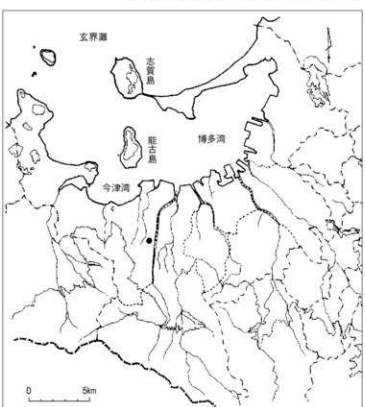
吉武遺跡群

XVIII

飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書12

－古墳時代集落遺構編３－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第911集

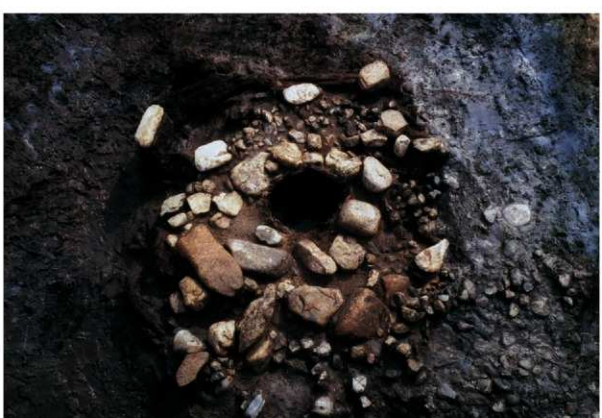


遺跡略号　YST4・6
調査番号　8335，8416

2006

福岡市教育委員会

1．第 4 次調査区遺構出土状況（南東から）



2．第 4 次調査SE01井戸出土状況（西から）

１．第４次調査８号支線道路SD01溝内土器出土状況（東から）

２．第６次調査Ⅱ区遺構出土状況（西から）

序

古来より大陸の門戸であった福岡市域には、東アジアとの交流を示す多くの文化財が市内各所に残されています。

この中でも特に、市西郊の室見川左岸に広がる吉武遺跡群は、弥生～奈良時代にかけての遺跡が多く分布する地域として知られています。

さて、この地域では、昭和56年度より飯盛・吉武地区農業基盤整備事業の施工に伴い、工事によってやむなく消滅する埋蔵文化財について、事前に発掘調査による記録保存が必要となり、当該年度より事業が完結する昭和60年度まで調査を継続しました。

発掘調査の結果、紀元前二世紀に遡る弥生時代の特定集団墓地や紀元前後の墳丘墓・大型建物、古墳時代中期の前方後円墳・円墳群および集落跡、奈良時代末～平安時代にかけての官衙或いは寺院跡と考えられる各時代の遺構が密度濃く検出されました。

本書は、古墳時代の集落を収録したものですが、検出遺構・出土遺物ともに大量なため、3分冊としています。

本書が埋蔵文化財の理解と認識を深める手助けとなり、また学術研究や社会教育の分野において活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に関わった飯盛・吉武土地改良組合、地元作業員および市農林水産局の方々、報告書作成に関わった方々を始め、本遺跡の史跡指定について強力なご理解とご協力をいただきました地権者の方々に対し心より感謝申し上げる次第であります。

平成18年3月31日

福岡市教育委員会
教育長　植木 とみ子

例　言

1. 本書は、飯盛・吉武地区土地改良事業（圃場整備）に伴い発掘調査を実施した福岡市西区大字飯盛・吉武地内に所在する吉武遺跡群の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、福岡市教育委員会文化部埋蔵文化財課が昭和56年度から昭和60年度にわたって実施した。

3. 発掘調査で検出した各遺構は、その種類毎に記号を付し、土壙をSK、溝状遺構をSD、竪穴住居をSC、掘立柱建物をSB、ピットをSP、甕棺墓をKと表記した。

4. 本書は、調査された遺構のうち、古墳時代集落を中心に報告するものである。

5. 本書に使用した遺構実測図は、調査担当者の他に別記の調査員が行い、また遺物実測は担当者の他に、井上加代子、平川敬治、米倉法子、濱田美紀、濱石正子、相原聡子、大庭康治、緒方俊輔が行った。

6. 本書に使用した遺物類の整理は、副田則子、松田弘子、花田友美子、土田由紀で行った。

7. 本書に使用した図面類の整図および製図は、安野　良、副田則子、土田由紀、米倉法子、濱田美紀、相原聡子が行った。

8. 本書に使用した写真のうち、遺構は下村　智、遺物を横山邦継が行った。

9. 本書で使用した図面方位は、すべて磁北である。真北は西偏6°21′である。

10. 本書は、横山邦継が執筆・編集を担当した。

11. 発掘調査によって出土した遺物や図面・写真類等の記録は収蔵要項に基づき整理を行い、埋蔵文化財センターに収蔵・活用する予定である。

12. 表紙の題字は杉山悦子氏（旧埋蔵文化財センター）にお願いした。記して感謝する次第です。

本 文 目 次

第 一 章　はじめに
1．調査に至る経過 …… 1
2．調査の組織 …… 1

第 二 章　遺跡の立地と環境 …… 5

第 三 章　第4次調査報告
概要
1．土壙 …… 7
2．井戸 …… 42
3．溝状遺構 …… 44
4．掘立柱建物 …… 68

第 四 章　第6次調査報告
概要
1．土壙 …… 82
2．溝状遺構 …… 102
3．掘立柱建物 …… 109

第 五 章　おわりに …… 117

挿 図 目 次

Fig. 1　周辺遺跡分布図（1/25,000）…… 5
Fig. 2　調査区位置図（第１～９次調査）…… 6
Fig. 3　第４次調査全体図 …… 8・9
Fig. 4　４次Ｊ－11・12地区SK01～09土壙出土状況実測図（1/60） …… 10
Fig. 5　４次Ｉ・Ｊ－11・12地区SK11～16・18・19土壙出土状況実測図（1/60） …… 12
Fig. 6　４次Ｉ・Ｊ－11・12地区SK17・20・21・22・24土壙出土状況実測図（1/60） …… 13
Fig. 7　土壙出土遺物実測図１（SK01～05・08・09・11・13・14・16～19・21・22・24・25)(1/4) … 14
Fig. 8　４次Ｉ－11・12地区SK25～27・29土壙出土状況実測図（1/60） …… 15
Fig. 9　４次Ｉ－11・12地区SK28・31～34土壙出土状況実測図（1/60） …… 16
Fig.10　４次Ｈ－11・12地区SK35・37～41・43土壙出土状況実測図（1/60） …… 17
Fig.11　土壙出土遺物実測図２（SK25～29・32・35・37・39～41・43）(1/4) …… 19
Fig.12　土壙出土遺物実測図３（SK46・47・51・54～57・60・61・63）(1/4) …… 20
Fig.13　４次Ｈ－11・12地区SK46・47・51・53～56土壙出土状況実測図（1/60） …… 21
Fig.14　土壙出土遺物実測図４（SK63～66・74・76）(1/4) …… 22
Fig.15　４次Ｆ・Ｇ－11・12地区SK57～59・63土壙出土状況実測図（1/60） …… 23
Fig.16　土壙出土遺物実測図５（SK76・88・89・90・93）(1/4) …… 25
Fig.17　４次Ｆ・Ｇ－11・12地区SK60・61・64土壙出土状況実測図（1/60） …… 26
Fig.18　土壙出土遺物実測図６（SK94～96・98・102・103・105～108）(1/4) …… 27
Fig.19　４次Ｆ－11・12地区SK65・66・74・76土壙出土状況実測図（1/60） …… 29
Fig.20　４次Ｋ－12・Ｊ－11・12地区SK88・89・96～103土壙出土状況実測図（1/60） …… 29
Fig.21　４次Ｋ－12地区SK90～95土壙出土状況実測図（1/60） …… 31
Fig.22　土壙出土遺物実測図７（SK108・109）(1/4) …… 32
Fig.23　４次２号支線道路・５号水路SK104～108・SH04土壙出土状況実測図（1/60） …… 33
Fig.24　土壙出土遺物実測図８（SK109）(1/4) …… 35
Fig.25　土壙出土遺物実測図９（SK109・110・115・117～119・123～125）(1/4) …… 36
Fig.26　４次26－１地区・８号支線道路SK109～117土壙出土状況実測図（1/60） …… 37
Fig.27　４次８号支線道路SK118～124土壙出土状況実測図（1/60） …… 39
Fig.28　４次２号・８号支線道路SK125～133土壙出土状況実測図（1/60） …… 40
Fig.29　土壙出土遺物実測図10（SK125～130・132）(1/4) …… 41
Fig.30　４次Ｆ・Ｉ－11・12地区・８号支線道路SE01～03井戸出土状況実測図（1/60） …… 43
Fig.31　井戸出土遺物実測図（1/4） …… 43
Fig.32　４次３号水路SD02溝出土状況実測図（1/00） …… 44
Fig.33　４次８号支線道路SD01・02・05溝土層断面図（1/00） …… 45
Fig.34　溝出土遺物実測図１（８号支線道路SD01）(1/4) …… 46
Fig.35　溝出土遺物実測図２（８号支線道路SD01・02）(1/4) …… 47
Fig.36　溝出土遺物実測図３（８号支線道路SD02・04・05）(1/4) …… 48
Fig.37　溝出土遺物実測図４（Ｉ・Ｊ－11・12SD01）(1/4) …… 49

Fig.38　溝出土遺物実測図５（Ｉ・Ｊ－11・12 SD01）(1/4) …… 50
Fig.39　溝出土遺物実測図６（Ｉ・Ｊ－11・12 SD01）(1/4) …… 51
Fig.40　溝出土遺物実測図７（Ｉ・Ｊ－11・12 SD01）(1/4、1/6) …… 52
Fig.41　溝出土遺物実測図８（Ｉ・Ｊ－11・12 SD01、５号水路SD01・02、３号水路SD02）(1/4) … 53
Fig.42　溝出土遺物実測図９（３号水路SD02・03・Ｌ－８・９SD01）(1/4) …… 54
Fig.43　４次Ｌ－８・９地区SD01溝出土木器実測図（1/4）（又鍬） …… 55
Fig.44　４次２号支線道路SD02溝出土木器実測図（1/4）（又鍬） …… 55
Fig.45　４次８号支線道路SD01・02溝出土木器実測図１（1/4）（木錘） …… 56
Fig.46　４次８号支線道路SD02溝出土木器実測図２（木錘・又鍬）(1/4) …… 57
Fig.47　４次３号水路SD02・03溝出土木器実測図（鋤・平鍬・梭・梯子・鍬柄等）(1/4) …… 58
Fig.48　４次５号水路SD02溝出土木器実測図（ねずみ返し）(1/4) …… 59
Fig.49　４次３号水路SD02溝出土木器実測図１（木錘・鍬柄・円盤）(1/4) …… 60
Fig.50　４次３号水路SD02溝出土木器実測図２（鞍前輪）(1/4) …… 61
Fig.51　４次３号水路SD02溝出土木器実測図３（準構造模造船）(1/4) …… 62
Fig.52　４次３号水路SD02溝出土木器実測図４（楯・梭等）(1/4) …… 63
Fig.53　４次Ｇ～Ｉ－11・12表採、Ｇ－11SK57土壙、Ｆ－11SK76土壙、Ｉ－11SD01溝、
Ｈ－11SD－03溝、SP－41柱穴出土木器実測図（木錘）(1/4) …… 65
Fig.54　４次Ｉ－12地区SD01溝出土木器実測図１（木錘・鍬柄・木槌・鋤）(1/4) …… 66
Fig.55　４次Ｉ－12地区SD01溝出土木器実測図２（不明木器）(1/4) …… 67
Fig.56　４次調査掘立柱建物群全体図 …… 69
Fig.57　４次SB01～08建物出土状況実測図（1/100） …… 70
Fig.58　４次SB09～14建物出土状況実測図（1/100） …… 71
Fig.59　４次SB15～20建物出土状況実測図（1/100） …… 73
Fig.60　溝出土遺物実測図10（Ｌ－８・９SD01・２号支線道路SD02）(1/4) …… 74
Fig.61　４次SB21～26建物出土状況実測図（1/100） …… 75
Fig.62　４次SB27～33建物出土状況実測図（1/100） …… 76
Fig.63　４次SB34～39建物出土状況実測図（1/100） …… 78
Fig.64　建物掘方出土遺物実測図（1/4） …… 79
Fig.65　４次SB40・41建物出土状況実測図（1/100） …… 80
Fig.66　４次SB42・43・44建物出土状況実測図（1/100） …… 81
Fig.67　第６次調査全体図 …… 83
Fig.68　６次SK139～147土壙出土状況実測図（1/60） …… 84
Fig.69　６次SK148～155土壙出土状況実測図（1/60） …… 86
Fig.70　６次SK01・09土壙出土木器実測図（1/4）（木錘） …… 87
Fig.71　６次SK156～163土壙出土状況実測図（1/60） …… 88
Fig.72　６次SK164～177土壙出土状況実測図（1/60） …… 89
Fig.73　土壙出土遺物実測図１（SK144・147・151・156～158・160・162・164）(1/4) …… 90
Fig.74　６次SK178～186土壙出土状況実測図（1/60） …… 91
Fig.75　６次SK187～198土壙出土状況実測図（1/60） …… 92

Fig.76　土壙出土遺物実測図２（SK165・170・172・173・177・179・181・183・185・188～190・196・197）（1/4）…… 93
Fig.77　６次SK199～203土壙出土状況実測図（1/60）…… 94
Fig.78　土壙出土遺物実測図３（SK200）（1/4、1/6）…… 95
Fig.79　６次SK204～213土壙出土状況実測図（1/60）…… 96
Fig.80　６次SK214～222土壙出土状況実測図（1/60）…… 97
Fig.81　６次SK239・242・244～252土壙出土状況実測図（1/60）…… 98
Fig.82　６次SK237・253～255土壙出土状況実測図（1/60）…… 99
Fig.83　土壙出土遺物実測図４（SK201・204～208・213～217）（1/4）…… 100
Fig.84　土壙出土遺物実測図５（SK218・220・224～226）（1/4）…… 101
Fig.85　土壙出土遺物実測図６（SK230・232・235～237・239・240・245・250・253・254）（1/4）… 102
Fig.86　６次Ⅰ区－SD01・02・03、Ⅱ区－SD02・03・05溝出土状況 …… 103
Fig.87　６次Ⅱ区－SD01・04溝出土状況 …… 104
Fig.88　６次Ⅲ区－SD01・02・06・07溝出土状況 …… 105
Fig.89　６次Ⅲ区－SD03～05・08溝出土状況 …… 106
Fig.90　溝出土遺物実測図１（Ⅰ区－SD01～03、Ⅱ区－SD01・03～05、Ⅲ区－SD01・02）（1/4）… 107
Fig.91　溝出土遺物実測図２（Ⅲ区－SD01・02・04・05）（1/4） …… 108
Fig.92　第６次調査掘立柱全体図 …… 110
Fig.93　６次SB45～58建物出土状況実測図（1/200）…… 111
Fig.94　６次SB59～71建物出土状況実測図（1/200）…… 112
Fig.95　６次建物掘方出土遺物実測図（1/4、3/4）…… 113
Fig.96　６次SB72～84建物出土状況実測図（1/200）…… 114
Fig.97　吉武遺跡群における古墳時代遺構全体図…… 118・119

図　版　目　次

PL.１　１．Ｌ－８・９地区SD01溝出土状況（東から）
　　２．26－１地区調査区全景（北から）
PL.２　１．26－１地区竪穴住居・建物出土状況（北から）
　　２．26－１地区SK109土壙・SB01建物出土状況（北から）
PL.３　２号支線道路全景（北から）
PL.４　１．２号支線道路SD03溝井堰出土状況（南から）
　　２．２号支線道路SH04・SK106・107土壙出土状況（東から）
　　３．２号支線道路SK108土壙出土状況（東から）
PL.５　１．７号支線道路SD01溝出土状況（東から）
　　２．７号支線道路SD02溝出土状況（北から）
PL.６　８号支線道路全景（東から）
PL.７　１．８号支線道路遺構出土状況（東から）
　　２．８号支線道路遺構出土状況（西から）

３．８号支線道路SD02・SK132土壙出土状況（西から）
４．８号支線道路SD01溝東辺遺物出土状況（西から）
PL.８　１．８号支線道路SD01溝土器類一括出土状況（東から）
２．８号支線道路SD01溝土器類一括出土状況（南から）
PL.９　１．８号支線道路SD05溝出土状況（東から）
２．８号支線道路SB02建物出土状況（東から）
PL.10　１．８号支線道路SK113・114・115土壙出土状況（南から）
２．８号支線道路SK117～120土壙・SD04溝・SE03井戸出土状況（西から）
PL.11　１．８号支線道路SK118～120土壙・SD04溝・SE03井戸出土状況（西より）
２．８号支線道路SK121～124土壙出土状況（西から）
PL.12　１．８号支線道路SK123～128土壙出土状況（西から）
２．８号支線道路SK126～131土壙・SD02溝出土状況（西から）
３．８号支線道路SE03井戸出土状況（南から）
４．８号支線道路SE03井戸完掘状況（西から）
PL.13　１．３号水路SD02溝出土状況（西から）
２．３号水路SD02溝内木製品出土状況（南から）
PL.14　１．３号水路SD02溝内杭列出土状況（南から）
２．３号水路SD02溝内木製鞍出土状況（北から）
PL.15　１．５号水路SK104土壙出土状況（南東から）
２．５号水路とSK105土壙出土状況（南から）
PL.16　K－12地区遺構検出作業全景（西から）
PL.17　１．I・J－11・12地区SD01溝出土状況（東から）
２．I・J－11・12地区SD01溝木製フォーク出土状況（南から）
PL.18　１．J－12地区SK02・03土壙出土状況（南から）
２．K－12地区土壙出土状況（東から）
PL.19　１．J－12地区SK05・06土壙出土状況（東から）
２．J－12地区SK08・09土壙出土状況（南から）
PL.20　１．G－12地区SK61土壙出土状況（北から）
２．F－12地区SK63土壙出土状況（南東から）
PL.21　１．F－11地区SK64土壙出土状況（南東から）
２．F－11地区土壙出土状況（南から）
PL.22　１．F－11地区SK65土壙出土状況（南東から）
２．F－11地区SK66土壙出土状況（南から）
PL.23　１．F－11地区SK76土壙出土状況（北東から）
２．F－11地区土壙出土状況（南から）
PL.24　１．K－12地区SK90～96土壙出土状況（南から）
２．K－12地区SK93土壙出土状況（南から）
PL.25　１．K－12地区SK97土壙出土状況（南東から）
２．K－12地区SK99土壙出土状況（北から）
PL.26　１．K－12地区SK101土壙出土状況（南東から）
２．K－12地区SK102土壙出土状況（南から）

PL.27　1．K－12地区建物群出土状況（西から）
　　2．K－12地区SB03建物出土状況（北東から）
PL.28　1．K－12地区SB04建物出土状況（北から）
　　2．K－12地区SB03・04建物、SK98土壙出土状況（西から）
PL.29　1．K－12地区SB05建物出土状況（北から）
　　2．K－12地区SB06建物出土状況（南から）
PL.30　1．J－12地区SB07・08建物出土状況（北東から）
　　2．J－12地区SB07・08・11・12建物出土状況（南から）
PL.31　1．J－12地区SB10建物出土状況（南東から）
　　2．J－12地区SB11・12建物出土状況（北東から）
PL.32　1．J－12地区SB11建物出土状況（南東から）
　　2．J－12地区SB12建物出土状況（北東から）
PL.33　1．G－11地区SB37建物、SK57土壙出土状況（南東から）
　　2．G－12地区SB38・39建物出土状況（南東から）
PL.34　1．F－11地区SB40建物出土状況（南東から）
　　2．F－11・12地区SB40・41建物出土状況（南東から）
PL.35　1．F－12地区SB42建物出土状況（南東から）
　　2．F－11地区SB43建物出土状況（南東から）
PL.36　1．F－11地区SB44建物出土状況（北西から）
　　2．I－12地区SE01井戸及び須恵器大甕出土状況（西から）
PL.37　1．I－12地区SE01井戸出土状況（西から）
　　2．F－11地区SE02井戸出土状況（南から）
PL.38　第６次調査Ⅰ・Ⅱ区全景（東から）
PL.39　1．Ⅱ区西部地区建物群出土状況（西から）
　　2．Ⅱ区南部地区建物群出土状況（北から）
PL.40　1．Ⅱ区西部地区建物群出土状況（西から）
　　2．Ⅱ区西部地区建物群出土状況（南西から）
PL.41　1．F～J地区建物群出土状況（北西から）
　　2．D・E－16・17地区SB46建物出土状況（南から）
PL.42　1．D・E－16・17地区SB47建物出土状況（北から）
　　2．１号幹線道路２区SB82建物出土状況（西から）
PL.43　1．M・N－17地区SB83建物出土状況（北西から）
　　2．M・N－17地区SB84建物出土状況（北から）
PL.44　第４次調査出土遺物
PL.45　第４次調査出土遺物
PL.46　第４次、６次調査出土遺物

表　目　次

Tab.1　吉武遺跡群調査一覧

第一章　はじめに

1．調査に至る経過

吉武遺跡群の発掘調査は、昭和55年（1980）６月11日付けで農林水産局農業構造改善部農業土木課（当時）から教育委員会文化部文化課（当時）に提出された「飯盛・吉武地区団体営圃場整備事業」の計画によって開始された。

当初の事業計画では、事業面積46.4haのうち、昭和55年度－3.6ha、昭和56年度－９ha、昭和57年度以降－33.8haを整備するものであった。このうち昭和55年度事業地区は、地形的には明らかに室見川の新しい氾濫原であると考えられることと工事施工の上でほとんど影響を受けない為に本調査からは除外した。

昭和56年度以降の事業地は、昭和44年に行われた九州大学による分布調査やその後の市教育委員会の遺跡分布調査によって、全域に弥生～古墳時代遺物が散布することが知られていた。

教育委員会文化課では、昭和56年度事業地（対象7.5ha）について試掘調査（56年６月16～19日・同７月８～10日）を実施し遺構内容の把握を行ったところ、弥生時代前期末～後期初めの甕棺墓群や竪穴住居跡・溝・柱穴群などの古墳時代にわたる遺構が全体に分布することが明らかとなった。

この後、この成果をもとに事業地のうち、造成工事に伴って遺構の失われる切り土、構造物（道路・水路）部分などの範囲を確定するために事業者と協議を重ね、昭和56年11月１日より本格的な調査を開始した。（第１次調査）

第１次調査以降、工事施工と発掘調査が時期的に重複するため、各事業年度での発掘調査規模を設計変更などで最低におさえるためのための協議が土地改良組合、文化課、事業指導課（農業土木課）とで定期的にもたれ、事業の円滑な推進がはかられた。

また、圃場整備で６次にわたって調査された吉武遺跡群のうち、豊富な青銅器武器・鏡・玉などの副葬品を伴う吉武高木墓地（第四・五次）や吉武大石弥生墓地（第六次）の一部は、弥生時代の墓制を考える上で学術的に非常に価値が高く、地権者の理解を得て国史跡「吉武高木遺跡」として永久に保存されることとなった。

2．調査の組織

昭和58年度の調査関係者は下記の通りである。

【調査委託】　農林水産局農業土木課、飯盛吉武地区土地改良組合
【調査主体】　福岡市教育委員会教育長西津茂美
【調査総括】　文化財部長　中田　宏
　　文化課長　生田征生
　　埋蔵文化財第２係長　折尾　学
【調査庶務】　埋蔵文化財第１係　岡島洋一、古藤国生
【調査担当】　発掘調査　下村　智・横山邦継、試掘調査　田中寿夫
【調査・整理調査員】　田中克子、緒方俊輔
【調査作業員】　村本健二、溝口武司、中山　章、牧　重幸、川田　初、橘　哲也、大賀敏明、
　　青柳貴子、青柳弘子、青柳陽子、池田由美、石橋洋子、井上カズ子、井上喜美子、
　　井上清子、井上千代子、井上トミ子、井上ヒデ子、井上麿智子、井上ムツ子、

鬼尾喜代子、岸田　浩、清末シズエ、倉光アヤ子、倉光京子、倉光千鶴子、
倉光イワ子、倉光スマ子、倉光ナツ子、倉光信子、倉光初江、小柳和子、
斉藤国子、柴田憲子、柴田タツ子、柴田春代、滝　良子、高松美智子、
筒井ひとみ、堤　直代、土斐崎つや子、富崎栄子、富崎フミ子、冨永ミツ子、
鳥飼タキ子、永井鈴子、中島栄子、中西ヒデ子、中西美由紀、中牟田チエ子、
中山サダ子、西島美千代、西原春子、野下久美子、原　幸子、原口マサ子、
平田節子、平田美絵子、三角清子、宮原富代、宮崎泰子、矢富富士子、柳井順子、
柳浦八重子、山口タツエ、結城千代子、吉岡朱美、吉岡津幾子、吉積ハル子、
吉積フサノ、横溝恵美子、横溝チエ子、脇坂マキノ

【整理作業員】　花畑照子、溝口博子、安野　良、副田則子、伊藤美紀、鳥飼悦子、宝　以佐子、
坂井香代子、持原良子

昭和59年度の調査関係者は下記の通りである。

【調査委託】　農林水産局農業土木課、飯盛・吉武土地改良組合

【調査主体】　福岡市教育委員会　教育長　西津茂美

【調査総括】　文化課長　生田征生
埋蔵文化財第2係長　折尾　学

【調査庶務】　埋蔵文化財第1係　岡島洋一、松延好文

【調査担当】　発掘調査　下村　智、横山邦継、常松幹雄　試掘調査　田中寿夫

【調査・整理調査員】　田中克子、岩本陽児、矢野建一、緒方俊輔

【調査作業員】　村本健二、松田定美、溝口武司、池上　宏、山下清作、平川謙一、沖　浩人、
吉岡勝美、辻繁一郎、川田　初、橘　哲也、亀井照義、北園　論、藤嶋博明、
甲斐美佐江、末松一馬、青柳貴子、青柳弘子、青柳陽子、池田由美、石橋洋子、
井上カズ子、井上喜美子、井上清子、井上千代子、井上トミ子、井上ヒデ子、
井上麿智子、井上ムツ子、鬼尾喜代子、川口シゲノ、岸田　浩、木村厚子、
清末シズエ、倉光アヤ子、倉光京子、倉光千鶴子、倉光信子、倉光初江、
小林恵美子、小林ツチエ、小柳和子、斉藤国子、坂田セイ子、柴田常人、
柴田タツ子、柴田春代、白坂フサヨ、末長鶴子、高田マサエ、滝　良子、
高松美智子、田中カヨ子、筒井ひとみ、土斐崎つや子、富崎栄子、富崎マチ子、
冨永ミツ子、舎川春江、永井鈴子、中島栄子、中牟田チエ子、中山サダ子、
西山秀子、能美須賀子、原　ハナエ、原口マサ子、平田千鶴子、平田美絵子、
堀尾久美子、松尾鈴子、松本育代、溝口洋子、宮原富代、宮崎泰子、森山早苗、
矢富富士子、柳井順子、柳浦八重子、山口タツエ、山下アヤ子、山本キクノ、
山田トキエ、結城千代子、吉積エミ子、吉田勝代、横田松ノ、横溝恵美子、
横溝カヨ子、横溝チエ子、吉武早苗、脇坂マキノ、脇山喜代子

【整理作業員】　花畑照子、溝口博子、別府加代子、矢野隆子、安野　良、副田則子、伊藤美紀

昭和60年度の調査関係者は下記の通りである。

【調査委託】　農林水産局農業土木課、飯盛・吉武土地改良組合

【調査主体】　福岡市教育委員会　教育長　西津茂美

【調査総括】　埋蔵文化財課長　柳田純孝
埋蔵文化財第２係長　飛高憲雄
【調査庶務】　埋蔵文化財第１係　岡島洋一、松延好文
【調査担当】　発掘調査　力武卓治、下村　智、常松幹雄、加藤良彦
【調査・整理調査員】　田中克子、岩本陽児、矢野建一、緒方俊輔、樋口秀信、進藤敏雄、
溝口孝司
【調査作業員】　村本健二、松田定美、溝口武司、池上　宏、山下清作、平川謙一、沖　浩人、
吉岡勝美、辻繁一郎、川田　初、橘　哲也、亀井照義、北園　論、小路永智明、
藤嶋博明、甲斐美佐江、末松一馬、青柳貴子、青柳弘子、青柳陽子、池田由美、
石橋洋子、井上カズ子、井上喜美子、井上清子、井上千代子、井上トミ子、
井上ヒデ子、井上麿智子、井上ムツ子、鬼尾喜代子、川口シゲノ、岸田　浩、
木村厚子、清末シズエ、倉光アヤ子、倉光京子、倉光千鶴子、倉光信子、
倉光初江、小林恵美子、小林ツチエ、小柳和子、斉藤国子、坂田セイ子、
柴田常人、柴田タツ子、柴田春代、白坂フサヨ、末長鶴子、高田マサエ、
滝　良子、高松美智子、田中カヨ子、筒井ひとみ、土斐崎つや子、富崎栄子、
富崎マチ子、冨永ミツ子、舎川春江、永井鈴子、中島栄子、中牟田チエ子、
中山サダ子、西山秀子、能美須賀子、原　ハナエ、原口マサ子、平田千鶴子、
平田美絵子、堀尾久美子、松尾キミ子、松尾鈴子、松本育代、溝口洋子、
宮原富代、宮崎泰子、森山早苗、矢富富士子、柳井順子、柳浦八重子、
山口タツエ、山下アヤ子、山本キクノ、山田トキエ、結城千代子、吉積エミ子、
吉田勝代、横田松ノ、横溝恵美子、横溝カヨ子、横溝チエ子、吉武早苗、
脇坂マキノ、脇山喜代子
【整理作業員】　花畑照子、溝口博子、別府加代子、矢野隆子、安野　良、副田則子、伊藤美紀

【発掘調査報告書】

①『古武高木－弥生時代埋葬遺跡の調査概要－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第143集」1986年
②『古武遺跡群－市道野方金武線建設に伴う発掘調査報告書－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第187集」1988年
③『古武遺跡群Ⅳ』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第194集」1989年
④『古武遺跡群Ⅴ－市道野方金武線建設に伴う埋蔵文化財の調査－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第303集」1992年
⑤『古武遺跡群Ⅵ－飯盛・古武圃場整備関係調査報告書Ⅰ－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第437集」1995年
⑥『古武遺跡群Ⅷ－飯盛・古武圃場整備関係調査報告書Ⅱ－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第461集」1996年
⑦『古武遺跡群Ⅸ－飯盛・古武圃場整備関係調査報告書３－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第514集」1997年
⑧『古武遺跡群Ⅹ－飯盛・古武圃場整備関係調査報告書４－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第580集」1998年
⑨『古武遺跡群ⅩⅠ－飯盛・古武圃場整備関係調査報告書５－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第600集」1999年
⑩『古武遺跡群ⅩⅡ－飯盛・古武圃場整備関係調査報告書６－－弥生時代墳墓の報告３－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第650集」2000年
⑪『古武遺跡群ⅩⅢ－飯盛・古武圃場整備関係調査報告７－－第Ⅰ・Ⅱ次調査の縄文時代・古墳時代から平安時代の調査報告－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第675集」2001年
⑫『古武遺跡群ⅩⅣ』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第731集」2002年
⑬『古武遺跡群ⅩⅤ－飯盛・古武圃場整備関係調査報告書９－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第775集」2003年

⑭『吉武遺跡群Ⅹ Ⅵ－飯盛・吉武圃場整備関係調査報告10－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第831集」2004年
⑮『吉武遺跡群Ⅹ Ⅶ－飯盛・吉武圃場整備関係調査報告11－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第864集」2005年
⑯『吉武遺跡群Ⅹ Ⅷ－飯盛・吉武圃場整備関係調査報告12－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第911集」2006年

Tab. 1　吉武遺跡群調査一覧（平成17年３月現在）

次数	調査番号	遺跡略号	調査地地籍	分布地図番号	調査期間	調査面積	担当者	文献
1	8102	YST－1	西区飯盛地区 (圃場整備１次)	092－A－12(0405)	1981.11.1～ 1982.3.5	12,000㎡	二宮忠司・田中寿夫 小林良彦	②・⑥ ⑧－⑫
2	8234	YST－2	西区飯盛地区 (圃場整備２次)	092－A－12(0405)	1982.9.1～ 1983.2.15	21,000㎡	二宮忠司	②・⑥ ⑧－⑫
3	8235	YST－3	西区飯盛地区 (田飯盛線１次)	092－A－12(0405)	1982.9.22～ 1983.2.12	5,200㎡	山崎龍雄 二宮忠司	①
4	8335	YST－4	西区吉武地区 (圃場整備３次)	092－A－10-12(0405)	1983.9.12～ 1984.3.24	25,000㎡	下村　智 横山邦継	②・⑧ －⑪
5	8415	YST－5	西区飯盛地区 (田飯盛線２次)	093－A－10(0405)	1984.4.13～ 1984.5.31	1,600㎡	濱石哲也 二宮忠司	④
6	8416	YST－6	西区吉武地区 (圃場整備４次)	093－A－10(0405)	1984.7.1～ 1985.3.20	36,000㎡	横山邦継・下村　智 常松幹雄	②・⑥ ⑧－⑪ ⑬・⑭
7	8426	YST－7	西区吉武地区 (野方金武線１次)	093－A－7(0405)	1985.3.26～ 1985.5.5	1,050㎡	横山邦継 下村　智	③
8	8518	YST－8	西区吉武高木地区 (圃場整備５次)	093－A－10-12(0405)	1985.7.2～ 1985.7.24	470㎡	横山邦継	②・⑧ －⑪・/ ①・⑭
9	8535	YST－9	西区吉武地区 (圃場整備６次)	093－A－10(0405)	1985.8.1～ 1986.3.31	23,000㎡	力武卓治・下村　智 常松幹雄・加藤良彦	②・⑧ －⑪・ ⑬・⑭
10	8650	YST－10	西区吉武地区 (圃場整備７次)	092－A－12(0405)	1986.11.17～ 1987.2.27	5,000㎡	力武卓治 常松幹雄	未刊
11	8662	YST－11	西区飯盛地区 (野方金武線６次)	093－A－2(0405)	1987.3.1～ 1987.5.10	3,780㎡	二宮忠司 佐藤一郎	⑤
12	8714	YST－12	西区飯盛地区 (野方金武線７次)	093－A－2(0405)	1987.6.1～ 1987.9.11	2,810㎡	二宮忠司 佐藤一郎	⑤
13	8752	YST－13	西区吉武地内 (圃場整備８次)	093－A－2(0405)	1988.3.1～ 1988.3.31	1,000㎡	力武卓治 常松幹雄	未刊
14	8838	YST－14	西区吉武地内 (圃場整備９次)	093－A－2(0405)	1988.7.25～ 1988.9.16	724㎡	山崎龍雄	未刊
15	9940	YST－15	西区吉武地内 (下水道第１次)	093－A－2(0405)	1999.9.6～ 1999.9.8	37㎡	大塚紀宣	未刊
16	0311	YST－16	西区飯盛地内 (下水道第２次)	093－A－2(0405)	2003.5.9～20 2003.5.18	62㎡	松浦一之介	未刊
17	0363	YST－17	西区吉武地内 (史跡整備１次)	093－A－2(0405)	2004.1.19～20 2004.3.26	753㎡	本田浩二郎	未刊
18	0483	YST－18	西区吉武地内 (史跡整備２次)	093－A－2(0405)	2005.1.26～20 2005.3.9	720㎡	宮井善朗	未刊
19	0534	YST－19	西区吉武地内 (史跡整備３次)	093－A－2(0405)	2005.7.19～20 2005.9.22	970㎡	長家　伸	未刊

第二章　遺跡の立地と環境

福岡平野西部に位置する早良平野は、室見川を主要な河川として、平行して博多湾に注ぐ東部の金屋川、西部の名柄川・十郎川などによって形成され、氾濫原中央部付近では複雑な微高地が認められ、縄文時代以来の生産活動の舞台となっている。

また、平野の西辺は背振山塊より北へ伸びる長垂丘陵によって西側の今宿平野と区別することができるが、この丘陵の裾部には日向川などの小河川によって形成された標高30～20m程の広大な扇状地が北側に傾斜しながら広がっており、吉武遺跡群を含む平野西側の主要遺跡はこの扇状地に展開する。一方、平野の東辺は、南方の背振山塊から派生した油山の小支脈である飯倉丘陵付近にあると考えられる。同丘陵は、平野に接する比較的低平な丘陵地帯で、末端部は浅い解析谷を多く形成している。更に、室見川下流右岸には阿蘇火砕流によって形成された有田丘陵が知られる。規模は、南北ほぼ1km・東西700m前後で、標高12mほどの南北に長い丘陵で、後期旧石器から縄文中期～後期、弥生前期～後期、古墳前期～後期、古代、中世、近世と間断無く続く拠点遺跡をなしている。

特に、弥生時代前期初頭の環濠集落・甕棺墓地をはじめとして古墳時代前～後期集落が丘陵全域に

Fig.1　周辺遺跡分布図（1/25,000）

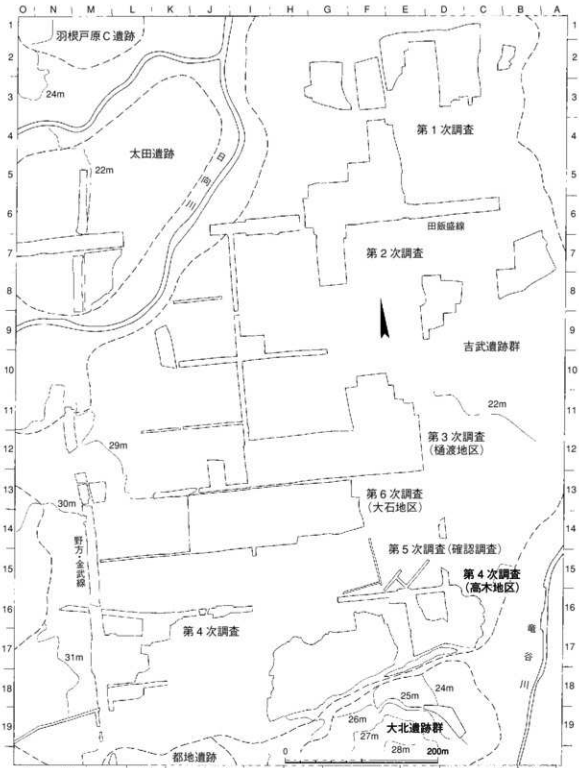


Fig. 2　調査区位置図（第１～９次調査）

点在し、中には古墳前期溝で韓国伽耶系陶質土器を共伴した溝遺構なども知られる。

また、平野中央部の氾濫源の微高地は、下流から上流域の平野最奥部まで分布するが、その中央部の田村遺跡群や四箇遺跡群などでは縄文時代後期集落、弥生時代前期～中期にかけての支石墓を含む甕棺墓地・集落とともに、周辺の低湿地には縄文後期湿地層や古墳時代の木田関連遺構等が密度濃く分布する。最奥部の入部遺跡群では、弥生前期末から集落が開始され、中期初頭期の甕棺墓地で細形

銅剣や銅鉾の副葬が知られ、更に継続する中期後半期では不整な方形溝に囲まれた特定集団墓を形成している。埋葬主体となる甕棺からは、鉄製武器を主とした副葬品が出土している。また、右岸地域の山麓部にあたる重留B遺跡群や飯倉B遺跡などでは、方形竪穴住居・掘立柱倉庫・溝等からなる6世紀後半代の古墳後期集落を主に、細形銅剣類副葬の弥生前期末～中期甕棺墓地、小型倣製鏡を副葬した弥生後期墓地などをみることができる。また、右岸地域に分布する古墳は、古式の横穴式石室をもつ小型の前方後円墳の梅林古墳や早良平野最大の前方後円墳である拝塚古墳などの主要な古墳の他に、油山南西側の山麓に点在する干隈古墳群・七隈古墳群・荒平古墳群など6世紀後半以降に形成された小円墳群が知られる。

一方、室見川左岸地域の遺跡群は、背振山から北に延びる山塊にある飯盛山の東麓に形成された広大な扇状地上に立地する。その中で中心となるのは吉武高木遺跡群である。遺跡は、弥生時代前期後半から後期の特徴ある集落・墓地、古墳時代前～後期の集落・墓地、古代官衙等で長期間・大規模にわたる。弥生の集落は、遺跡北側から開始され、後期には全域に及ぶ。また、墓地では、これまで約1200基の甕棺墓等が検出され、前期末～中期初頭期には半島製青銅武器・鏡・玉類を副葬した吉武高木・大石墓地が形成され、中期中葉以後では漢系銅器類を副葬する樋渡墳丘墓が造営された。古墳時代では全期間を通じ、竪穴住居・掘立柱倉庫・土壙からなるまとまった集落が全域に形成され、周辺部に古墳群の造営もなされた。この南側には弥生墳丘墓が検出された金武遺跡群等が知られる。また、北西側には、弥生後期から古墳時代の集落や平安時代の製鉄遺構が特徴の羽根戸原C遺跡群がある。

また、北西側の西端地域にあたる野方遺跡は、弥生後期から古墳前期にあたる、市域では数少ない環濠集落で、濠外につくられた箱式石棺墓地から舶載鏡片や玉、鉄器などの副葬が知られる。遺跡は地理的に、当時の奴国から怡土国へ通じる要衝の地にある。

また、左岸地域に分布する古墳は、南部の金武古墳群で6世紀末～7世紀初の夫婦塚方墳や6世紀後半期の装飾墳を有する金武K群、5世紀前半の樋渡前方後円墳・方墳と6世紀代の円墳群からなる吉武S群が分布する。北西側の丘陵部には、割竹型木棺を内部主体とする小型の前方後円墳を始原とし、この地域ではもっとも大規模な後期群集墳である羽根戸古墳群が知られる。更に、これ以北でも野方古墳群、長垂古墳群などが山麓に沿い形成されている。

第三章　第4次調査報告

概　要　昭和58年（1983）度に実施された吉武遺跡群第四次調査は、調査期間8ヶ月、調査面積約36,000㎡に及び、道路・水路・田面整備にかかる遺跡のほぼ中央部付近を調査したこととなる。

今回報告するのは既報告の竪穴住居を除いた古墳時代の生活遺構である。当時の地形は、南西から北東方向に自然流路が網目状に巡り、この間の丘陵部に集落が展開する状況である。報告する遺構は、不整形の土壙134基、井戸跡3基、掘立柱建物44棟、溝状遺構21条である。このうち土壙と建物は重複がみられ、時期差がある。また、井戸は自然流路の岸辺には井筒に刳り抜き材を使用したものがある。さらに、溝状遺構では、遺棄された大量の土師器・須恵器と共に農具、模造船、馬具等の木製品の出土が目立っている。

1．土壙（Fig.3～29、PL.2～26・44）

土壙は、第8号支線道路調査区東側や掘立柱建物の集中するI－K－12地区周辺に集中して検出さ

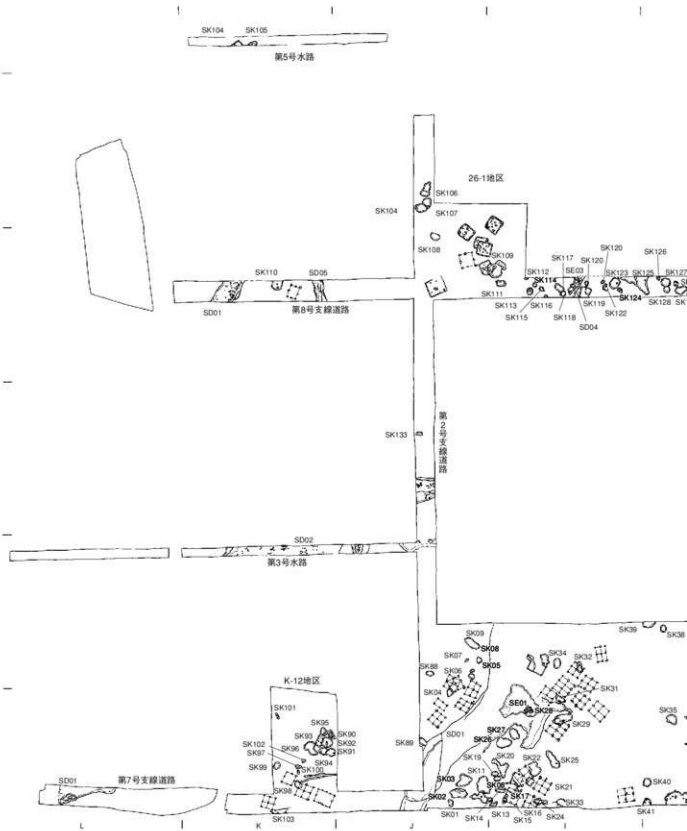
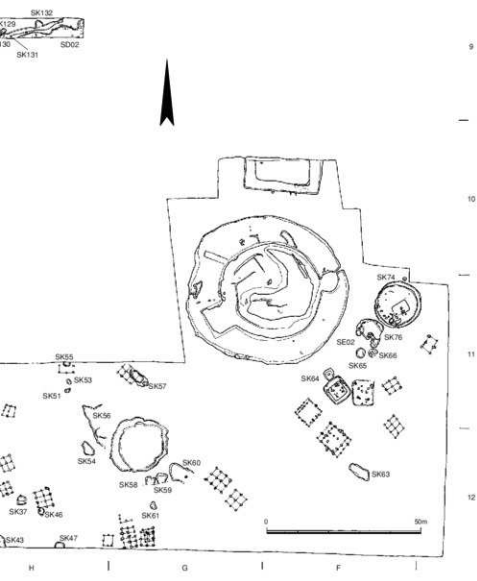


Fig. 3　第４次調査全体図


SK132
SK131
SD02
SK74
SK76
SE02
SK66
SK65
SK64
SK55
SK53
SK51
SK57
SK56
SK54
SK58
SK60
SK59
SK61
SK63
SK37
SK46
SK43
SK47
0
50m
H
G
F
8
9
10
11
12

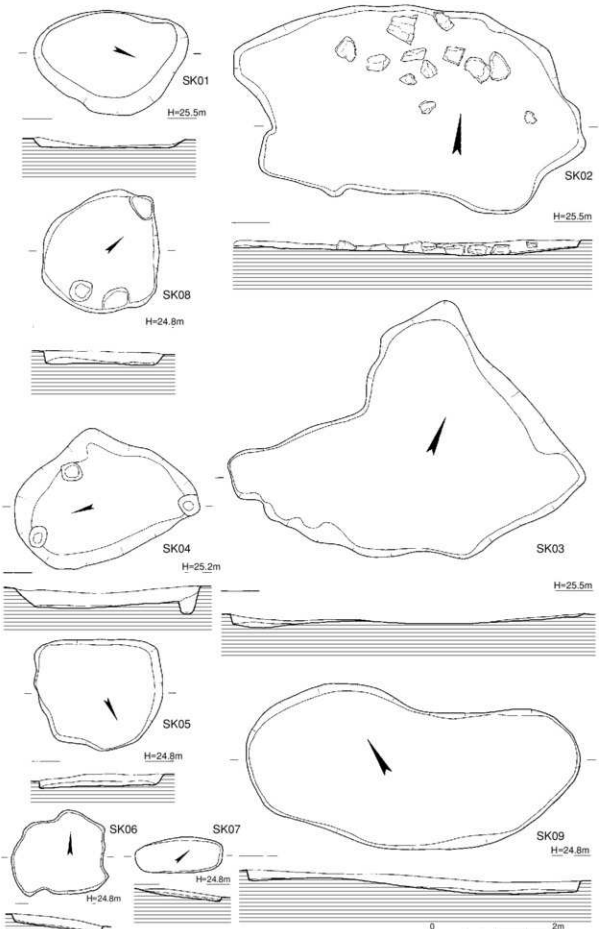


Fig.4　4次J－11・12地区SK01～09土壙出土状況実測図（1/60）

れた。形状は、不整形のものが多く、ピットサイズから浅い皿状の竪穴まで様々である。以下、個別の土壙と出土遺物について述べる。

SK01土壙（Fig. 4 ・ 7） J－12地区で検出した不整円形の小型土壙である。壙内より06001の土師器甕破片等が少量出土した。

SK02土壙（Fig. 4 ・ 7） J－12地区で検出した長方形土壙で、残りは浅く、内部に角礫が投入されている。土壙内からは、06002の須恵器横瓶の口縁破片や06003の口縁下に波状文を巡らす須恵器広口壺の破片等が出土した。

SK03土壙（Fig. 4 ・ 7） J－12地区で検出した大型の不整形土壙である。削平のため、残りは非常に浅い。土壙内からは、06004の立ち上がりが低く、浅い須恵器杯身や06005の土師器マリ、06006の土師器甕等の破片が出土した。

SK04土壙（Fig. 4 ・ 7） J－12地区で検出した小型の不整方形土壙である。土壙内からは、06007の器高が低く、天井部との境が沈線となる須恵器杯蓋や06008の杯部中位に把手をもつ須恵器無蓋高杯、06009の浅い杯部を持つ土師器高杯等の破片が出土した。

SK05土壙（Fig. 4 ・ 7） J－12地区で検出した小型の不整方形土壙である。土壙内からは、06010の非常に低い立ち上がりを持つ杯部に高台を付したいわば須恵器有蓋高台杯の破片などが出土した。

SK06土壙（Fig. 4 ・ 7） J－12地区で検出した小型の不整円形土壙である。土壙の床面は東側に傾斜しており、当時の地形方向に掘削されている。土壙内からは、土師器甕破片が少量出土した。

SK07土壙（Fig. 4 ・ 7） J－11地区で検出した長辺が1.4m・短辺0.5mの長方形土壙である。土壙の床面は、SK06と同様に北東側に傾斜する。土壙内からは、土師器甕破片が少量出土している。

SK08土壙（Fig. 4 ・ 7） J－11地区で検出した不整方形土壙である。土壙内からは、06011の口縁部が高く、天井部の器壁が厚い須恵器杯蓋や06012の杯部の口縁が直線的に外方に開く土師器高杯等の破片が出土した。

SK09土壙（Fig. 4 ・ 7） J－11地区で検出した大型の隅丸長方形土壙である。床面は東に傾斜する。土壙内からは、06013の口縁部が湾曲気味の須恵器杯蓋や06014のやや内径する高い立ち上がりを有する須恵器杯身、06015の口縁が緩く直線的に開く土師器マリや06016の口縁端部を小さく外方に開く土師器マリ等の土器破片の他に、06017のヘラで面取りをし、長辺が 8 cm・短辺 3 cm・孔径 1 cm程度の大型管状土錘の出土もあった。

SK11土壙（Fig. 5 ・ 7） J－12地区で検出した長辺 6 mを測る大型の不整形土壙である。床面はやや皿状に緩く窪む。土壙内からは、06018の小型で、たちあがりが非常に低く、また浅い須恵器杯身等の破片が出土した。

SK12土壙（Fig. 5） J－12地区南端で検出した非常に不整な土壙である。規模は、長編が7.5m以上を測り、削平のため残りは非常に悪い。土壙内からは、須恵器甕及び杯身等の破片が出土している。

SK13土壙（Fig. 5 ・ 7） J－12地区南端で検出した不整形土壙で、南側は調査区外のため、全体の規模は不明である。土壙内からは、06019の玉縁状口縁を有し、口縁下に突帯を挟んで細かい波状文を巡らす須恵器広口壺等の破片が出土した。

SK14土壙（Fig. 5 ・ 7） J－12地区南端で検出した隅丸長方形土壙である。長辺が3.2m・短辺1.2m・深さ0.2mを測る規模である。土壙内からは、06020の立ち上がりが低く、ほぼ直線的で全体的に薄つくりの須恵器杯身等の破片が出土した。

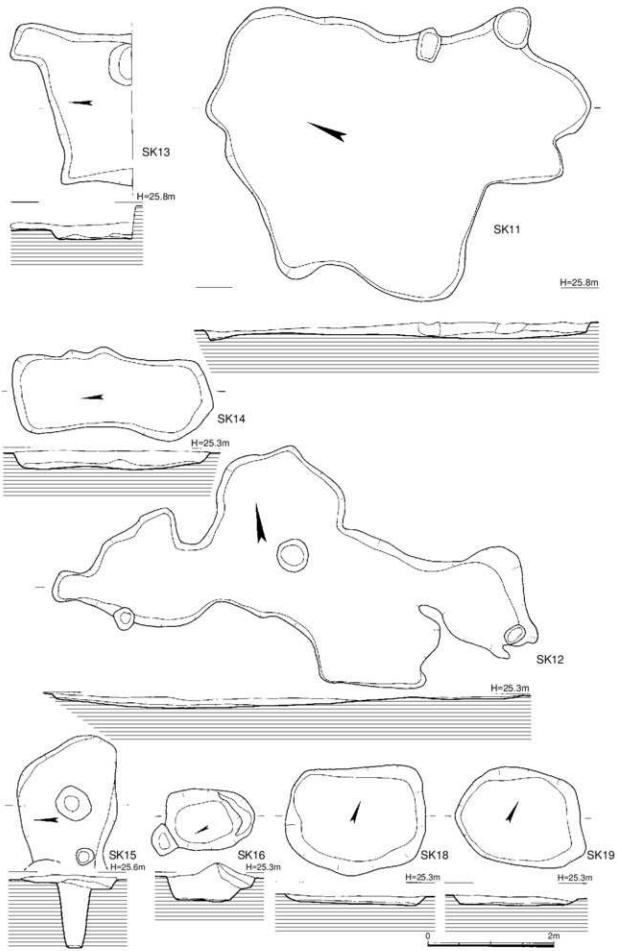


Fig. 5　4次Ⅰ・Ｊ－11・12地区SK11～16・18・19土壙出土状況実測図（1/60）

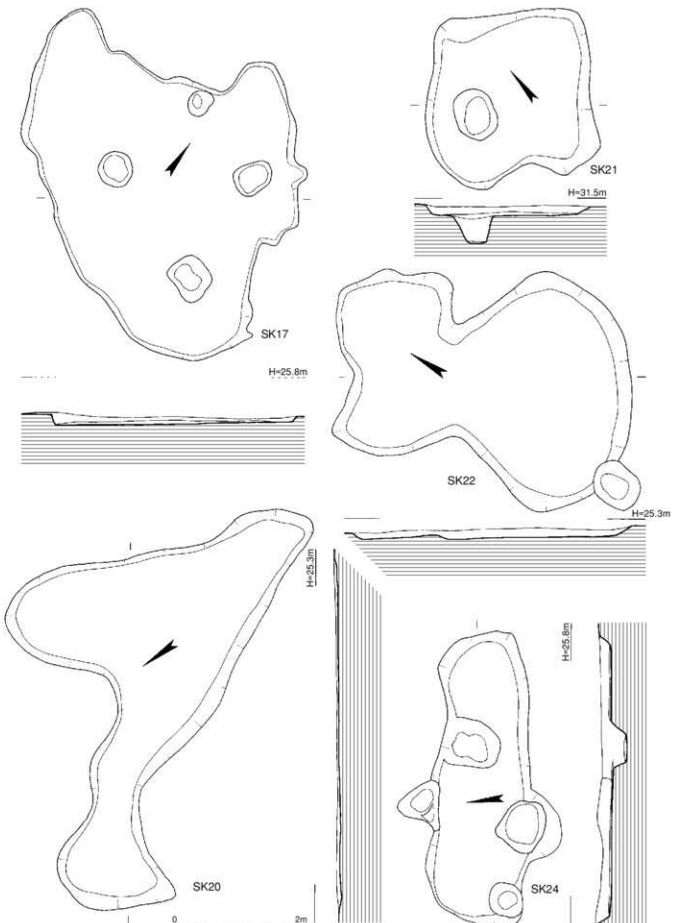


Fig. 6　4次Ⅰ・Ｊ－11・12地区SK17・20・21・22・24土壙出土状況実測図（1/60）

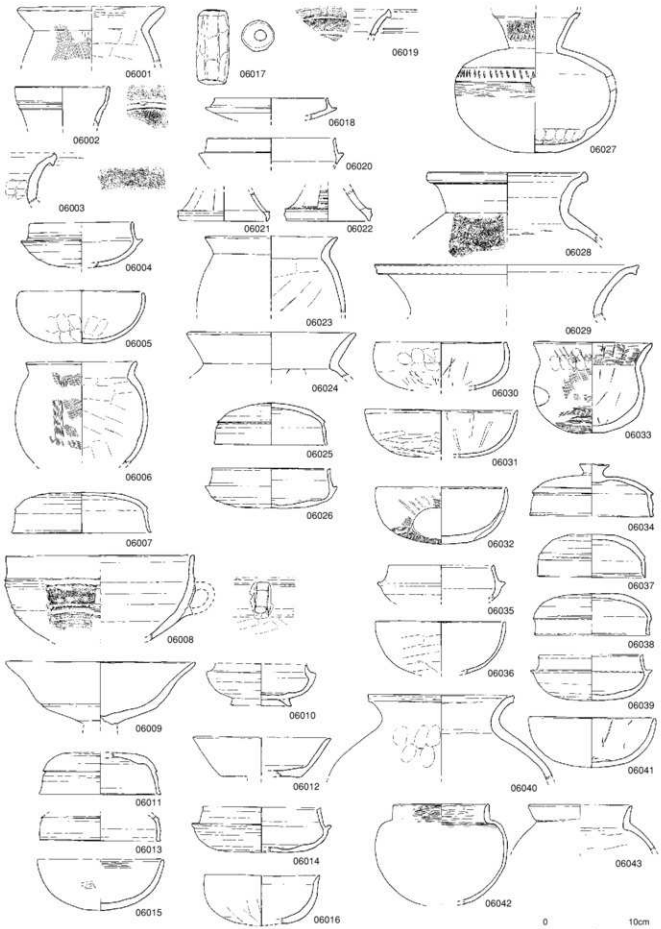


Fig. 7　土壙出土遺物実測図１（SK01～05・08・09・11・13・14・16～19・21・22・24・25）（1/4）

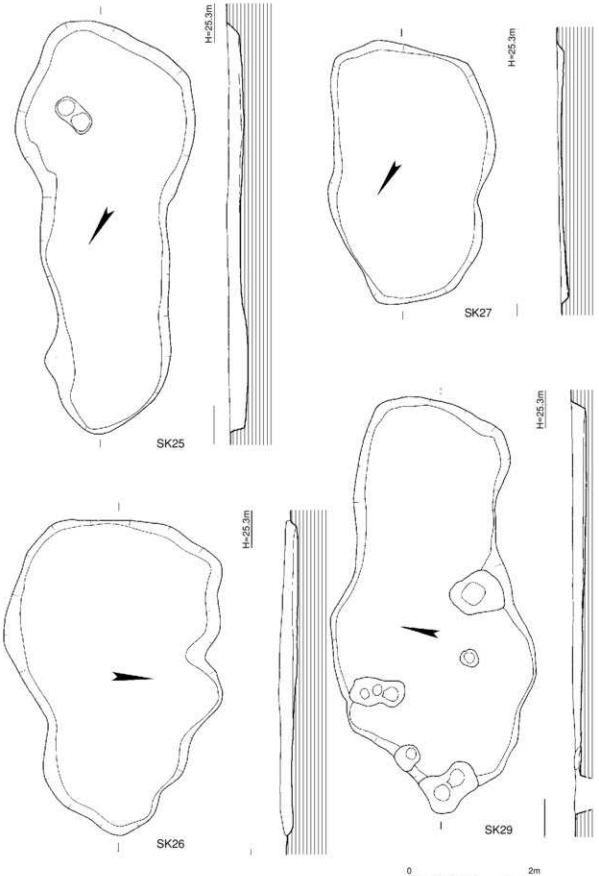


Fig. 8　4次Ⅰ－11・12地区SK25～27・29土壙出土状況実測図（1/60）

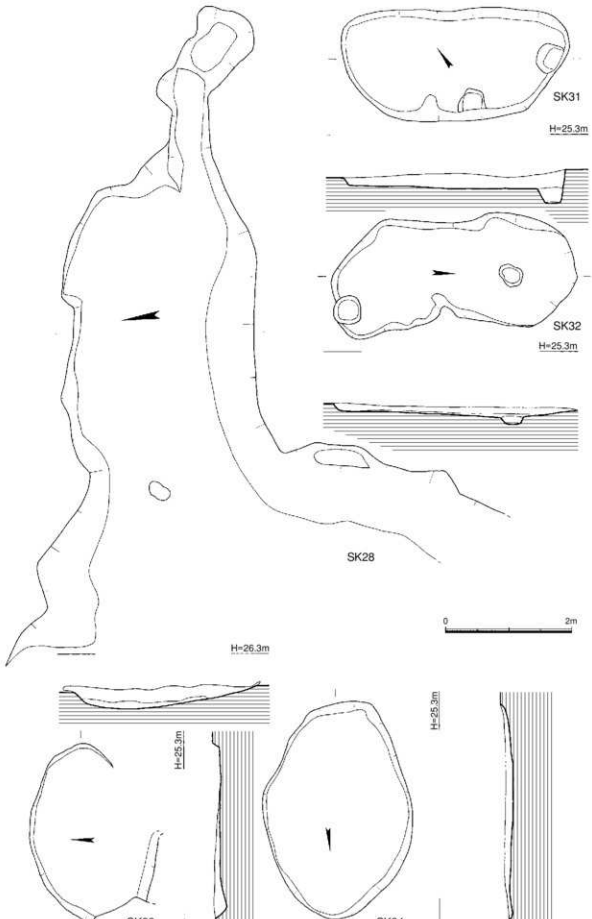


Fig. 9　4次Ⅰ－11・12地区SK28・31～34土壙出土状況実測図（1/60）

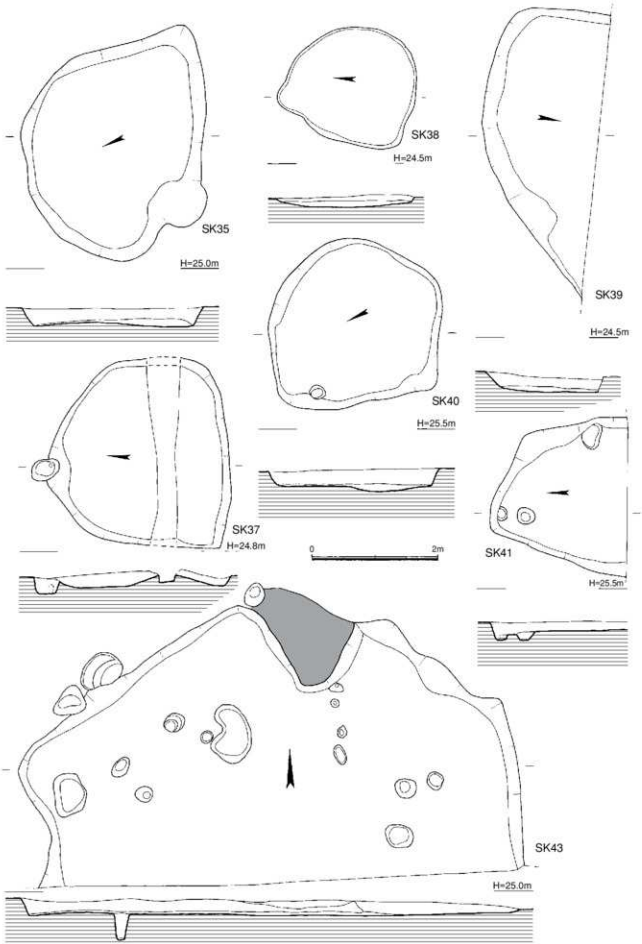


Fig.10　4次H－11・12地区SK35・37～41・43土壙出土状況実測図（1/60）

SK15土壙（Fig.5） J－12地区南端で検出した不整長方形土壙である。中央部のピットは時期の異なるものである。時期を示す土器類の特徴的なものは出土しなかった。

SK16土壙（Fig.5・7） J－12地区南端で検出した小型の長方形土壙である。土壙内からは、06201の短脚長方形透かしを有する須恵器高杯等の破片が出土した。

SK17土壙（Fig.6・7） J－12地区南端で検出した長辺が5mを越える大型の不整形土壙である。土壙内からは、06022の端部が玉縁をなし、短脚で長方形透かしを施した須恵器高杯等の破片が出土した。

SK18土壙（Fig.5・7） I－12地区南端近くで検出した小型の長方形土壙である。土壙内からは、06023の口縁部が短く外方に開く土師器甕と共に須恵器杯身破片も出土した。

SK19土壙（Fig.5・7） I－12地区南端近くで検出した小型の不整円形土壙である。土壙内からは、06024の口縁部が長く、外方に開く土師器甕の他、須恵器甕破片も出土した。

SK20土壙（Fig.6） I－12地区南端近くで検出した不整形土壙である。土壙内からは、図化はできないが、須恵器高杯・甕等の破片が出土した。

SK21土壙（Fig.6・7） I－12地区南端近くで検出した小型の不整方形土壙である。床面のピットは建物の柱穴である。土壙内からは、06027の須恵器中型はそう、06028の胴部外面の格子タタキを磨り消した広口壺、06029の須恵器大型広口壺、口縁部の長い須恵器杯蓋06025と杯身06026、土師器マリの06030・06031・06032や06033の頸部のしまりのない小型丸底壺等の破片が出土した。

SK22土壙（Fig.6・7） I－12地区南端近くで検出した大型の不整形土壙である。長辺は、4.5m以上を測る。土壙内からは、06034のやや古手の摘み付き杯蓋破片などが出土した。

SK24土壙（Fig.6・7） I－12地区南端近くで検出した長方形土壙である。長・短辺が4.5×1.5m、深さ0.2mを測る。土壙内からは、06035の口縁内側に段を有する生焼けの須恵器杯身や06036の土師器マリ等の破片が出土した。

SK25土壙（Fig.7・8・11） I－12地区中央近くで検出した長辺が6.5mを越える大型の長方形土壙である。土壙内からの出土遺物は多く、口縁端部内面に段を有する06037・06038の須恵器杯蓋や立ち上がりの高い06039の須恵器杯身、06040の口縁が短く、外面磨り消しの須恵器甕、06041の土師器マリ、06042の須恵器直口壺、06043～06045の土師器甕等の破片が出土した。

SK26土壙（Fig.8・11） I－12地区の自然流路際で検出した大型の不整長方形の土壙である。土壙内からは、06046の須恵器無蓋高杯、06047・06048の土師器マリ、06049の杯部の屈曲の殆ど無い土師器高杯等が出土した。

SK27土壙（Fig.8・11） I－12地区の自然流路際で検出した長辺が6.5mを測る大型の長方形土壙である。土壙内からは、06051の土師器甕や06050の土師器マリ等が出土した。

SK28土壙（Fig.9・11） I－12地区の自然流路際で検出した入江状の不整形土壙である。土壙内からは、口縁端部内面に段を有する須恵器杯蓋06052や同杯身06053、06054の小型はそう、06055の広口壺等の破片が出土した。

SK29土壙（Fig.8・11） I－12地区の自然流路際で検出した長辺が6.5m以上の大型土壙である。土壙内からは、06056・06057の須恵器杯蓋、同杯身の06058、杯胴部に波状文を施した無蓋高杯の06059、大型土師器甕の06060等が出土した。

SK31土壙（Fig.9） I－12地区の北側付近で検出した小型の不整長方形の土壙である。土壙内からは、天井部に波状文を施した須恵器杯蓋破片が出土した。

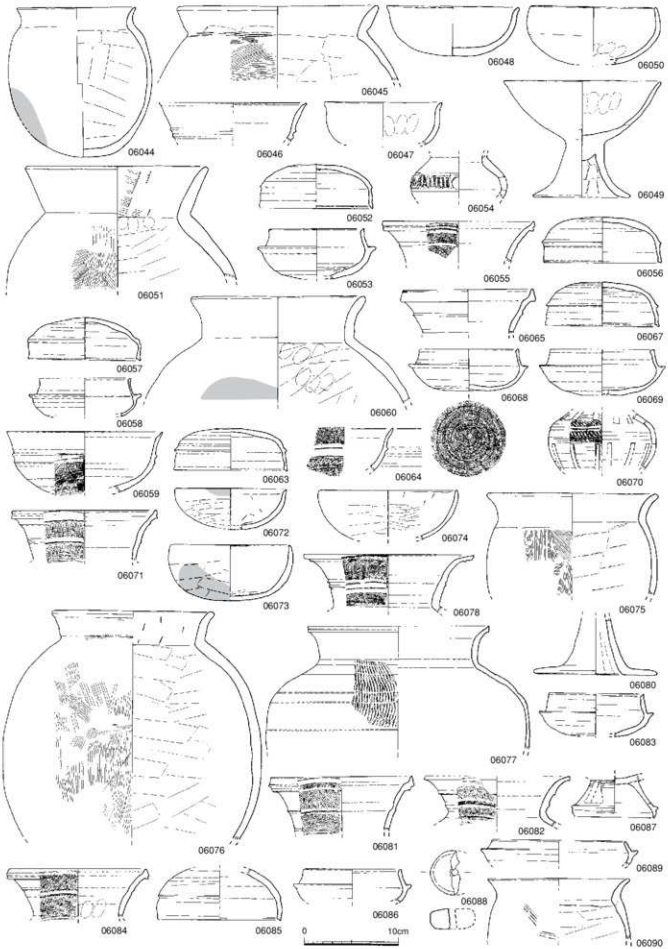


Fig.11　土壙出土遺物実測図２（SK25～29・32・35・37・39～41・43）（1/4）

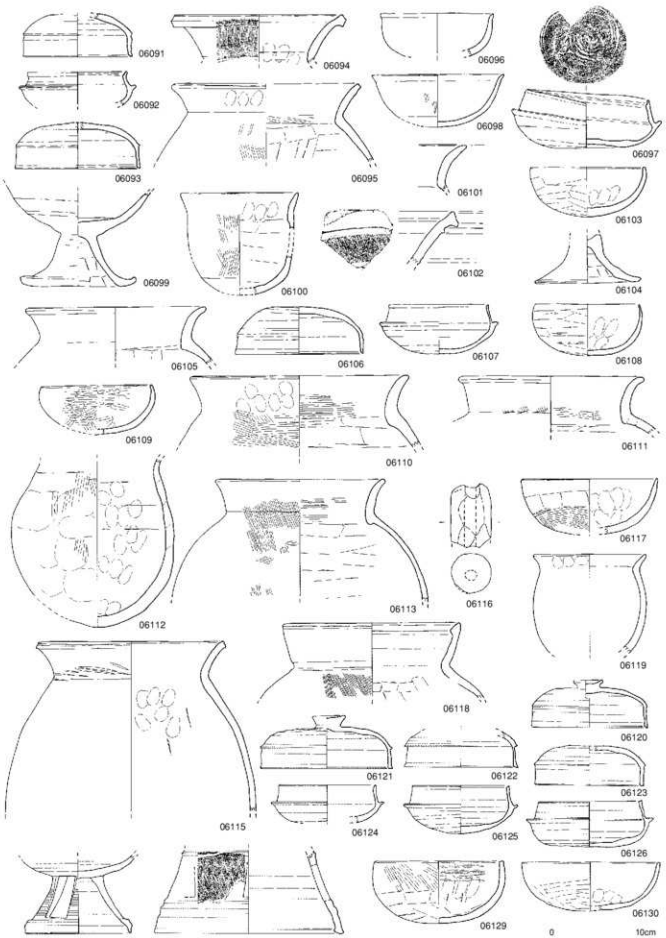


Fig.12　土壙出土遺物実測図３（SK46・47・51・54～57・60・61・63）（1/4）

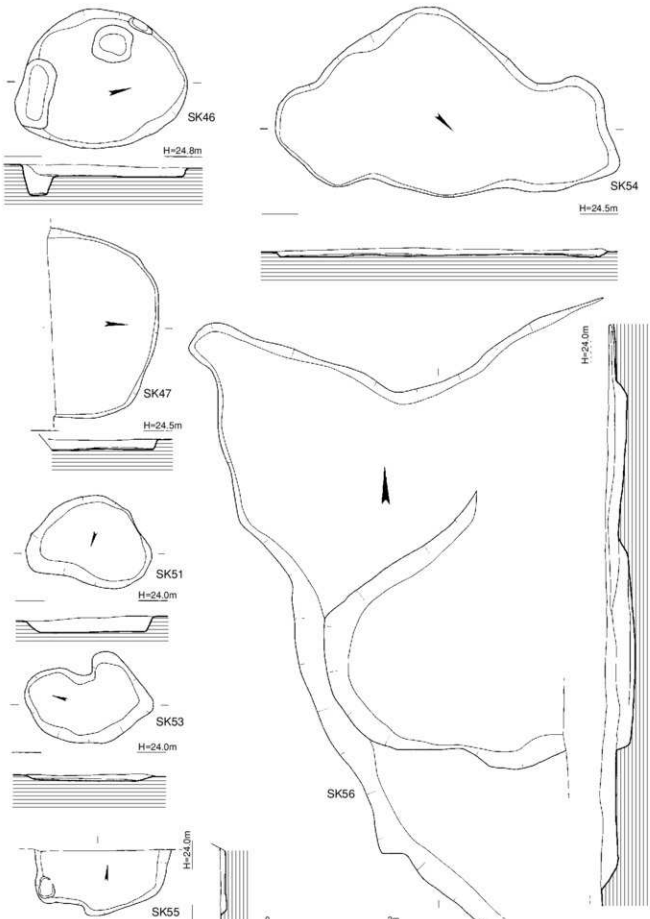


Fig.13　4次H－11・12地区SK46・47・51・53～56土壙出土状況実測図（1/60）

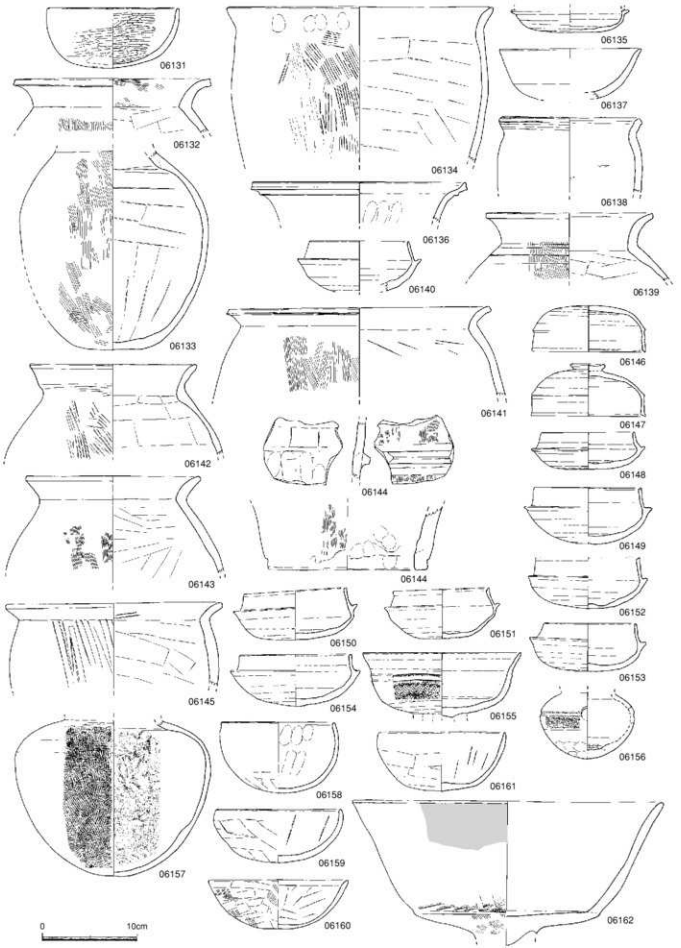


Fig.14　土壙出土遺物実測図４（SK63～66・74・76）（1/4）

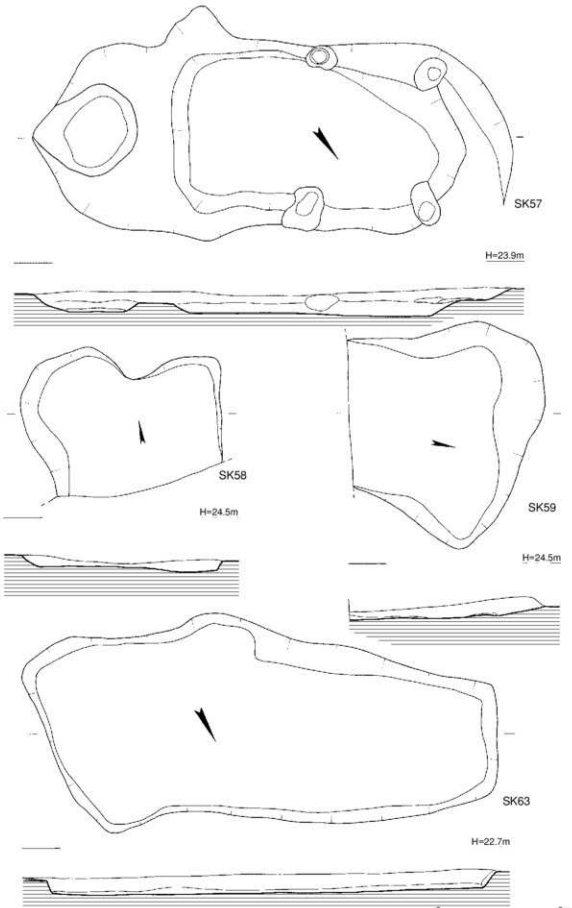


Fig.15　4次F・G－11・12地区SK57～59・63土壙出土状況実測図（1/60）

SK32土壙（Fig.9・11） Ⅰ－11地区の南側付近で検出した不整長方形の土壙である。土壙内からは、06063の須恵器杯蓋、同無蓋高杯の06064及び06065の広口壺等が出土した。

SK33土壙（Fig.9） Ⅰ－12地区の南端付近で検出した小型の楕円形土壙である。土壙内からは、図化できる特徴的土器類は出土していない。

SK34土壙（Fig.9） Ⅰ－11地区の南端付近で検出した楕円形土壙である。土壙内からは、図化できる特徴的土器類は出土していない。

SK35土壙（Fig.10・11） Ｈ－12地区の北側付近で検出した不整形土壙である。出土遺物は、06067の須恵器杯蓋、09068・09069の同杯身、頸部・胴部下半に透かしを巡らした須恵器はそう06070、同広口壺の06071、06072～06074の土師器マリ、同甕の06075・06076が出土した。

SK37土壙（Fig.10・11） Ｈ－12地区の南側付近で検出した不整方形土壙である。出土遺物には、波状文を巡らした須恵器広口壺06078、平行叩きに横沈線文を施した同甕06077、土師器高杯06080がある。

SK38土壙（Fig.10） Ｈ－11地区の北端付近で検出した不整円形土壙である。

SK39土壙（Fig.10・11） Ｈ・Ⅰ－11地区の北端付近で検出した土壙である。出土遺物には、06081・06082の須恵器広口壺等がある。

SK40土壙（Fig.10・11） Ⅰ－12地区の南端付近で検出した小型の不整円形土壙である。出土遺物には、06083の須恵器杯身や06084の同広口壺がある。

SK41土壙（Fig.10・11） Ｈ－12地区の南端付近で検出した不整形土壙である。出土遺物には、須恵器杯蓋06085、同杯身06086、同短脚三角透かしを持つ高杯06087、土製紡錘車06088がある。

SK43土壙（Fig.10・11） Ｈ－12地区の南端付近で検出した長辺が7.5mを越える大型土壙である。出土遺物には、低い立ち上がりの須恵器杯身06089、土師器甕06090がある。

SK46土壙（Fig.12・13） Ｈ－12地区の南側付近で検出した小型の不整円形土壙である。出土遺物には、須恵器杯蓋06091、同杯身06092等がある。

SK47土壙（Fig.12・13） Ｈ－12地区の南端付近で検出した不整円形土壙である。出土遺物には、須恵器杯蓋06093、同広口壺06094、土師器甕06095等がある。

SK51土壙（Fig.12・13） Ｈ－11地区の北端付近で検出した小型の不整円形土壙である。出土遺物には、土師器マリ06096等がある。

SK53土壙（Fig.13） Ｈ－11地区の北端付近で検出した小型の不整形土壙である。出土遺物には、須恵器甕破片がある。

SK54土壙（Fig.12・13） Ｈ－11地区の北端付近で検出した不整長方形の土壙である。出土遺物には、須恵器杯身06097、土師器マリ06098、同高杯06099、同小型甕06100等がある。

SK55土壙（Fig.12・13） Ｈ－11地区の北端付近で検出した不整形土壙である。出土遺物には、土師器甕06101等がある。

SK56土壙（Fig.12・13） Ｈ－11・12地区の境付近で検出した窪み状の土壙である。出土遺物には、須恵器大型甕06102、土師器マリ06103、同高杯脚部06104、同甕06105等がある。

SK57土壙（Fig.12・15） Ｈ－11・12地区の境付近で検出した不整長方形の土壙である。出土遺物には、須恵器杯蓋06106、同杯身06107、土師器マリ06108・06109、同甕06110・06111・06112・06113等がある。

SK58土壙（Fig.15） Ｇ－12地区の中央付近で検出した不整形土壙である。

SK59土壙（Fig.15） Ｇ－12地区の中央付近SK58と並列して検出した不整形土壙である。

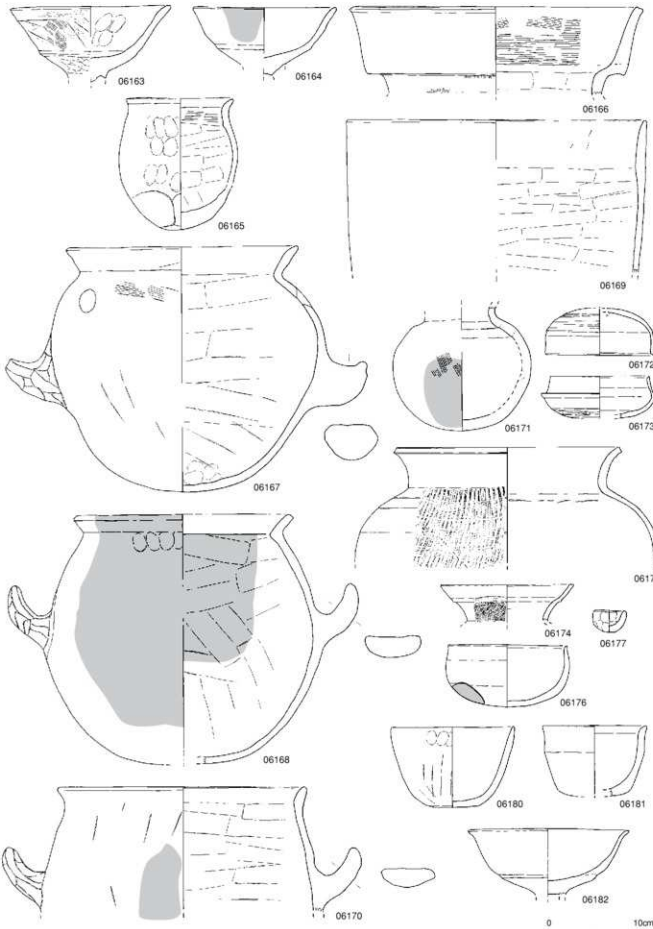


Fig.16　土壙出土遺物実測図５（SK76・88・89・90・93）（1/4）

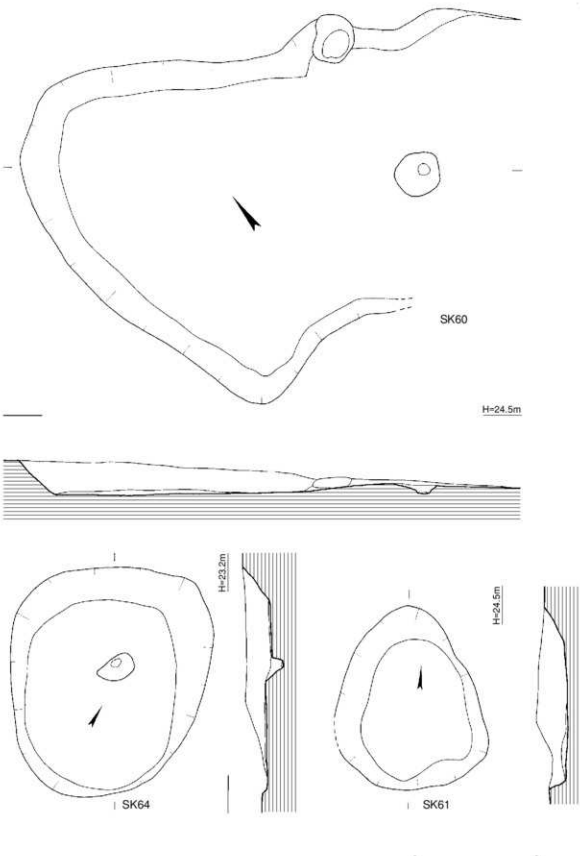


Fig.17　4次F・G－11・12地区SK60・61・64土壙出土状況実測図（1/60）

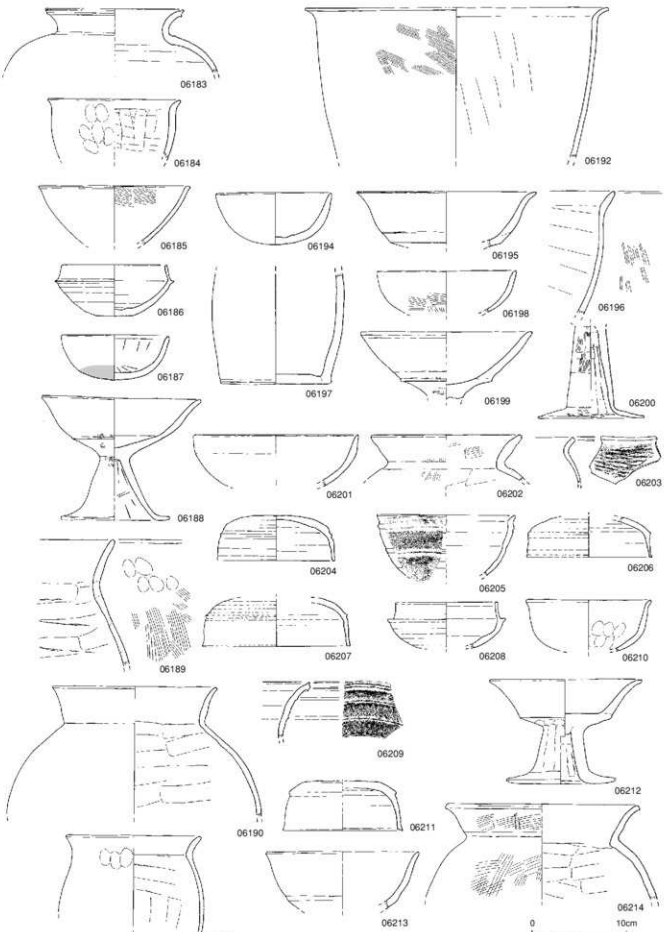


Fig.18　土壙出土遺物実測図６（SK94～96・98・102・103・105～108）（1/4）

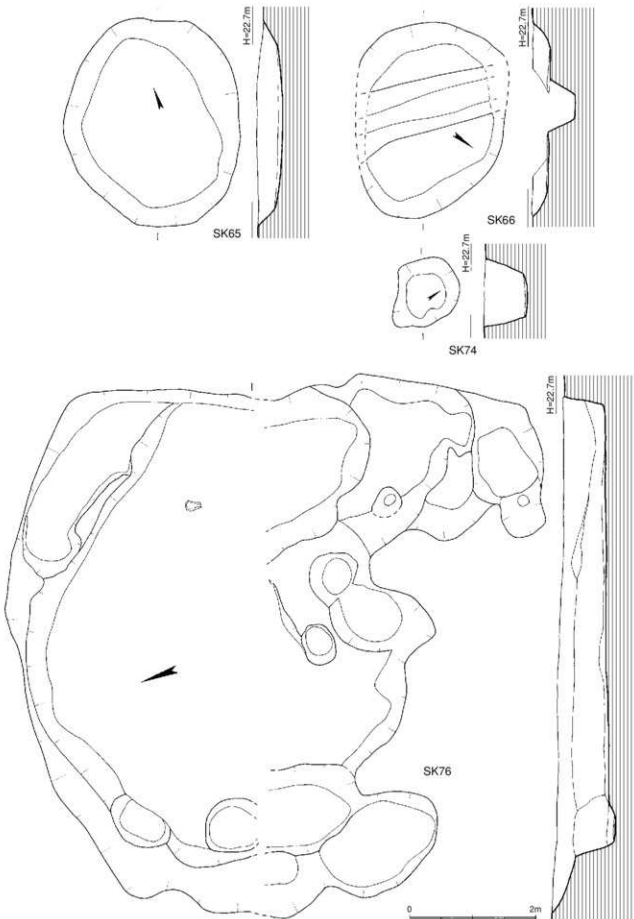


Fig.19　4次F－11・12地区SK65・66・74・76土壙出土状況実測図（1/60）

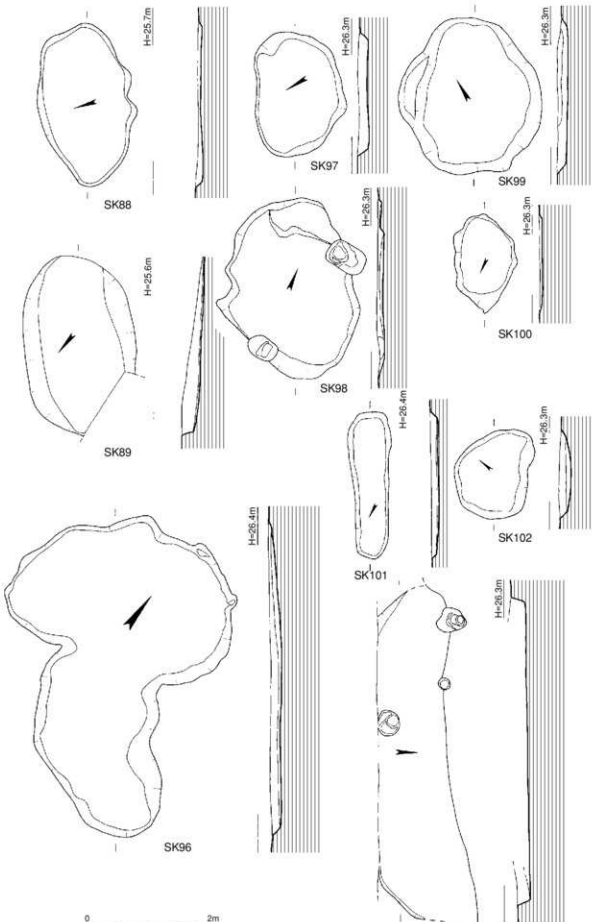


Fig.20　4次K－12・J－11・12地区SK88・89・96～103土壙出土状況実測図（1/60）

SK60土壙（Fig.12・17） G－12地区の中央付近で検出した不整長方形土壙である。出土遺物には、土師器甕06115や大型管状土錘破片06116等がある。

SK61土壙（Fig.12・17） G－12地区の南側付近で検出した小型の楕円形土壙である。出土遺物には、土師器マリ06117、同甕06118・06119等がある。

SK63土壙（Fig.12・14・15） F－12地区の中央付近で検出した長辺が7mを越える大型の長方形土壙である。出土遺物には、須恵器摘み付き杯蓋の06120・06121、通常の杯蓋06122・06123、同杯身06124・06125・06126、長方形透かしを有する短脚高杯06127、同器台脚06128、土師器マリ06129・06130・06131、同甕06132・06133・06134等がある。

SK64土壙（Fig.14・17） F－11地区の南側付近で検出した不整方形の土壙である。出土遺物には、須恵器杯身06135、同広口壷06136、土師器マリ06137、同甕06138等がある。

SK65土壙（Fig.14・19） F－11地区の中央付近で検出した小型の不整円形土壙である。出土遺物には、肩部に沈線を巡らす土師器甕06139等がある。

SK66土壙（Fig.14・19） F－11地区の中央付近で検出した不整楕円形土壙である。出土遺物には、須恵器杯身の06140や大型の土師器甕06141、同中型甕06142・06143等がある。

SK74土壙（Fig.14・19） F－11地区の北端付近で検出した小型の不整円形土壙である。出土遺物には、円筒埴輪の突帯部と底部破片の06144や外面ヘラナデの著しい土師器甕06145等がみられる。

SK76土壙（Fig.14・16・19） F－11地区の中央部付近で検出した大型の不整長方形土壙である。規模は、長辺8m、短辺7m、深さ0.9mを測る。出土した遺物は、非常に多量ある。須恵器では杯類が多く、杯蓋06146、摘み付き杯蓋06147、立ち上がりが高く、内面端部に段を有する杯身06149・06150・06151・06152やこれを持たない杯身06148・06153・06154、胴部に一条の波状文を施した無蓋高杯06155、胴部に波状文を施す小型はそう06156、胴部外面の平行タタキを平行線状にナデ消した壷06157がある。また、土師器では、口縁下にヘラ調整を加えたマリ06158・06159・06160・06161、通常の3倍近いサイズの大型高杯06162、浅い杯部を持つ高杯06163・06164、小型甕06165、二重口縁壷06166、把手付き大型甕06167・06168・06170や同甑06169等が出土した。

SK88土壙（Fig.16・20） J－11地区の南端部付近で検出した長楕円形の小型土壙である。出土遺物には、土師器中型丸底壷06171等がみられる。

SK89土壙（Fig.20） J－12地区の中央部付近で検出した長楕円形の小型土壙である。

SK90土壙（Fig.16・21） K－12地区の東側付近で検出した底面の不安定な長方形土壙である。出土遺物には、平行タタキに平行沈線を施す須恵器甕06175や口縁下に波状文を施すはそう06174、土師器マリ06176、手捏ね土器16177がみられる。

SK91土壙（Fig.21） K－12地区の東側付近で検出した不整円形土壙である。出土遺物には、土師器、須恵器甕等がみられる。

SK92土壙（Fig.21） K－12地区の東側付近で検出した不整円形の土壙である。出土遺物には、土師器鉢・マリ、須恵器杯・甕の小破片がある。

SK93土壙（Fig.16・21） K－12地区の東側付近で検出した長方形土壙である。床面には炭化物の集中する箇所が見られる。出土遺物には、土師器の小型鉢06180・06181や杯下端部に段を有する高杯06182がみられる。

SK94土壙（Fig.18・21） K－12地区の東側付近で検出した不整円形の土壙である。西側床面近くに炭化物の集中が見られる。出土遺物には、須恵器短頸甕06183や土師器甕06184がみられる。

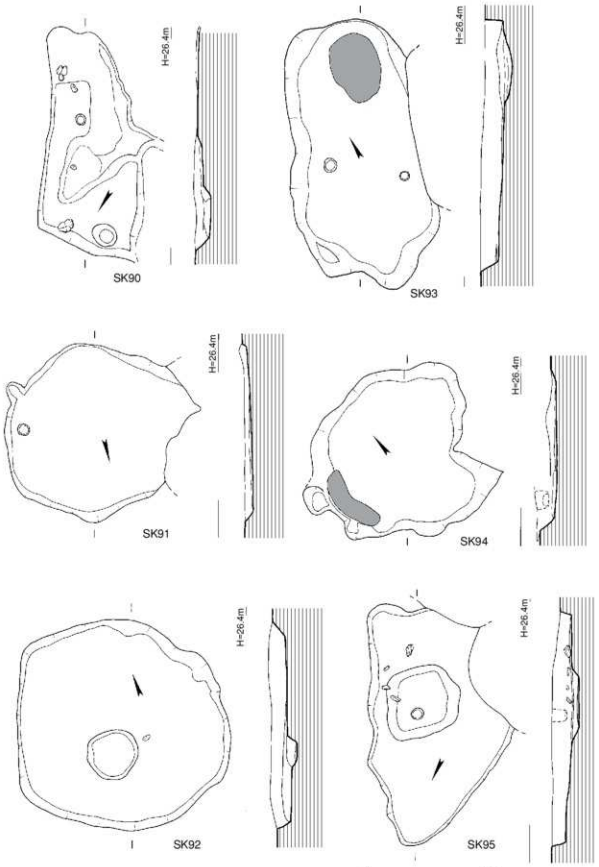


Fig.21　4次K－12地区SK90～95土壙出土状況実測図（1/60）

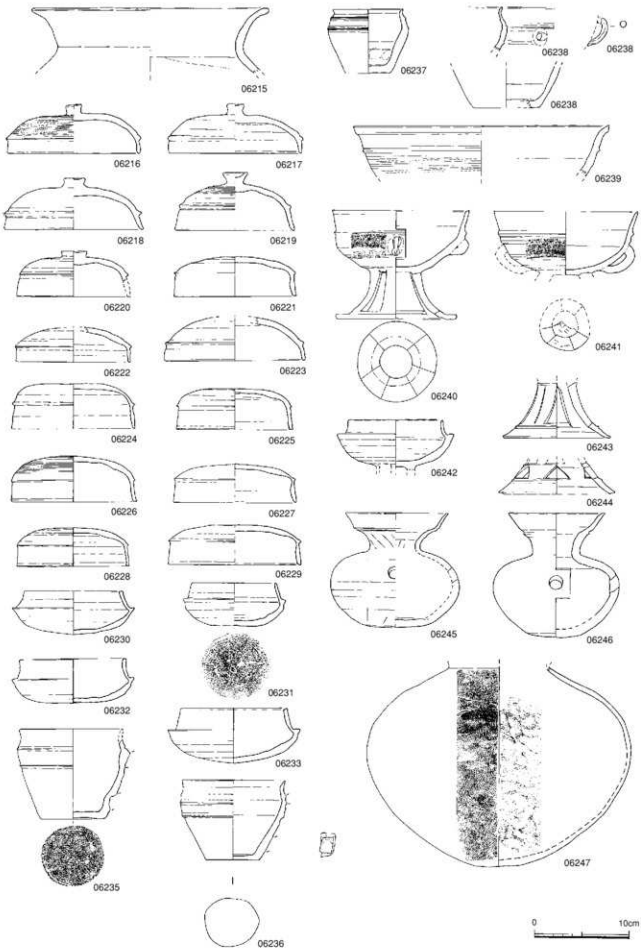


Fig.22　土壙出土遺物実測図７（SK108・109）（1/4）

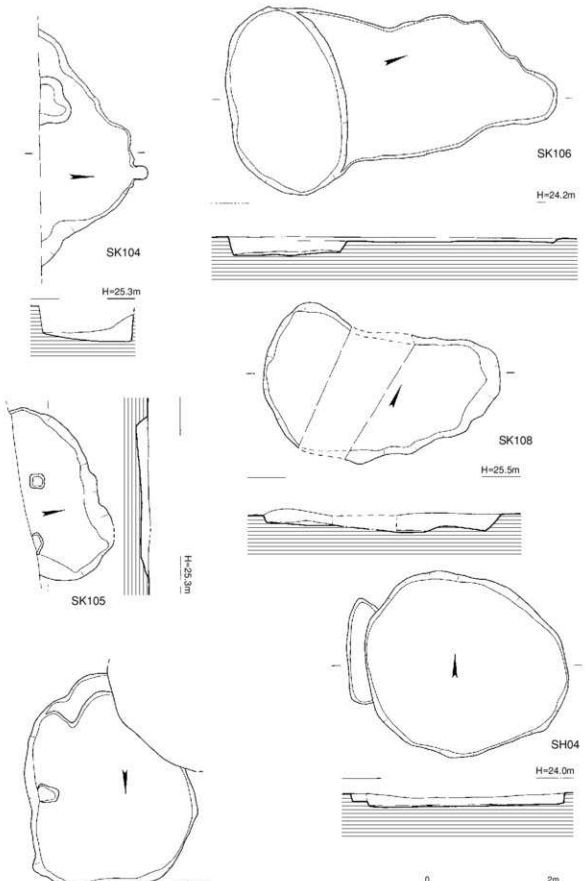


Fig.23　4 次 2 号支線道路・5 号水路SK104～108・SH04土壙出土状況実測図（1/60）

SK95土壙（Fig.18・21） K−12地区の東側付近で検出した不整形土壙である。出土遺物には、薄手の土師器鉢06185や砥石等がみられる。

SK96土壙（Fig.18・20） K−12地区の東側付近で検出した甕棺形の大型土壙である。出土遺物には、不安定な平底をなす須恵器杯身06186や土師器マリ06187、杯部の下端に緩い段を有し、脚端部が跳ね上がる高杯06188、口縁部の長い薄手の甕06189、短く開く口縁部をもつ甕06190、小型甕06191、大型の甑06192等がみられる。

SK97土壙（Fig.20） K−12地区の中央付近で検出した小型の長円形土壙である。出土遺物には、須恵器甕破片等がある。

SK98土壙（Fig.18・20） K−12地区の中央付近で検出した不整楕円形の土壙である。出土遺物には、土師器マリ06194、杯下部に段を有する高杯06195、中型甑06196、平底甕で韓国軟質土器と考えられる0619?等が見られる。

SK99土壙（Fig.20） K−12地区の西側付近で検出した不整円形土壙である。出土遺物には、土師器高杯破片が見られる。

SK100土壙（Fig.20） K−12地区の中央付近で検出した小型の不整円形土壙である。遺物には、土師器高杯破片等が見られる。

SK101土壙（Fig.20） K−12地区の北西付近で検出した長・短辺が2.3×0.6mを測る長方形土壙である。遺物には、土師器甕破片が見られる。

SK102土壙（Fig.18・20） K−12地区の中央付近で検出した小型の不整円形土壙である。出土遺物には、土師器マリ06198、杯下端に段を有する高杯06199、円筒状の筒部に長い脚をもつ高杯06200が見られる。

SK103土壙（Fig.18・20） K−12地区の中央付近で検出した不整円形土壙の一部である。出土遺物には、土師器マリ06201や同甕06202等が見られる。

SK104土壙（Fig.23） 5号水路西側の南壁で検出した不整形土壙である。遺物には、土師器甕破片が見られる

SK105土壙（Fig.18・23） 5号水路西側の南壁で検出した不整な長方形土壙の一部である。出土遺物としては、口縁が「く」字に屈曲する硬質の土師質土器で、外面に横の荒いタタキを施す06203が見られる。

SK106土壙（Fig.18・23） 2号支線道路調査区北側で検出した不整形土壙である。出土遺物には、やや肉厚の須恵器杯蓋06204や胴部に二条の波状文を巡らす小型器台06205等が見られる。

SK107土壙（Fig.18・23） 2号支線道路調査区北側で検出した不整長方形の土壙である。出土遺物には、須恵器杯蓋の06206・06207や、同杯身06208、同広口壺06209、土師器マリ06210等が見られる。

SK108土壙（Fig.18・22・23） 2号支線道路調査区北側で検出した不整長円形の土壙である。出土遺物には、須恵器杯蓋06211、土師器高杯06212・06213、同甕06214・06215が見られる。

SK109土壙（Fig.22・24〜26） 26−1地区南側で検出した大型の土壙である。長・短辺長が6×5m、深さ0.4〜0.5mを測り、埋土には須恵器杯・土師器マリを中心に焼土を混じて大量の遺物が廃棄されていた。図化した土器類はそれらの一部である。須恵器では、天井部に摘みを有し、しっかりした造りの杯蓋06216・06217・06218・06219・06220・06223や摘みを持たず定型化された杯蓋06221・06222・06224・06225・06226・06227・06228・06229が認められる。また、杯身では、内傾する立ち上がり内面端部に段を有する06232・06233とこれを有しない06231とが区別される。

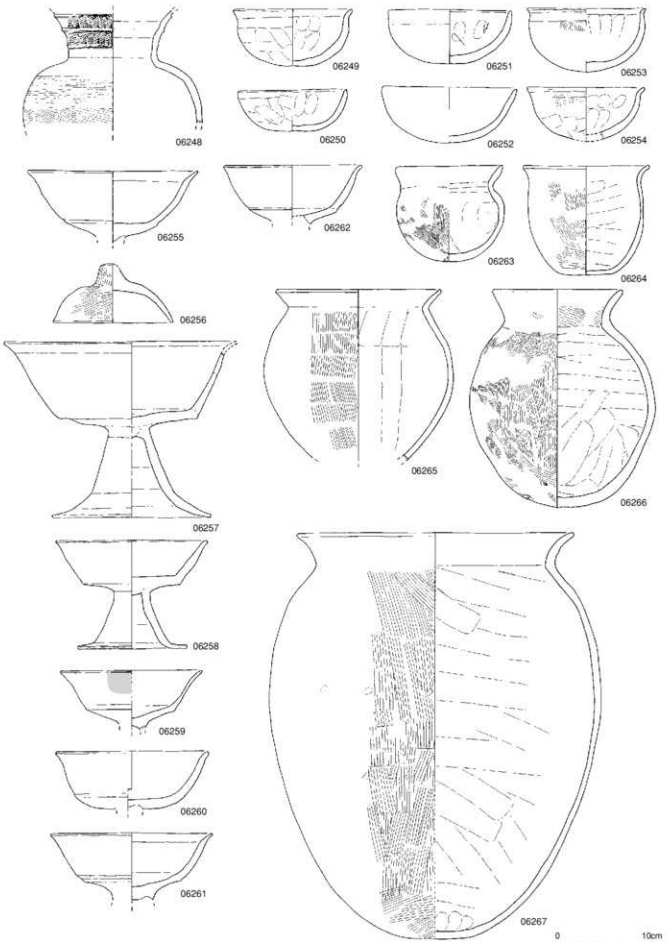


Fig.24　土壙出土遺物実測図８（SK109）（1/4）

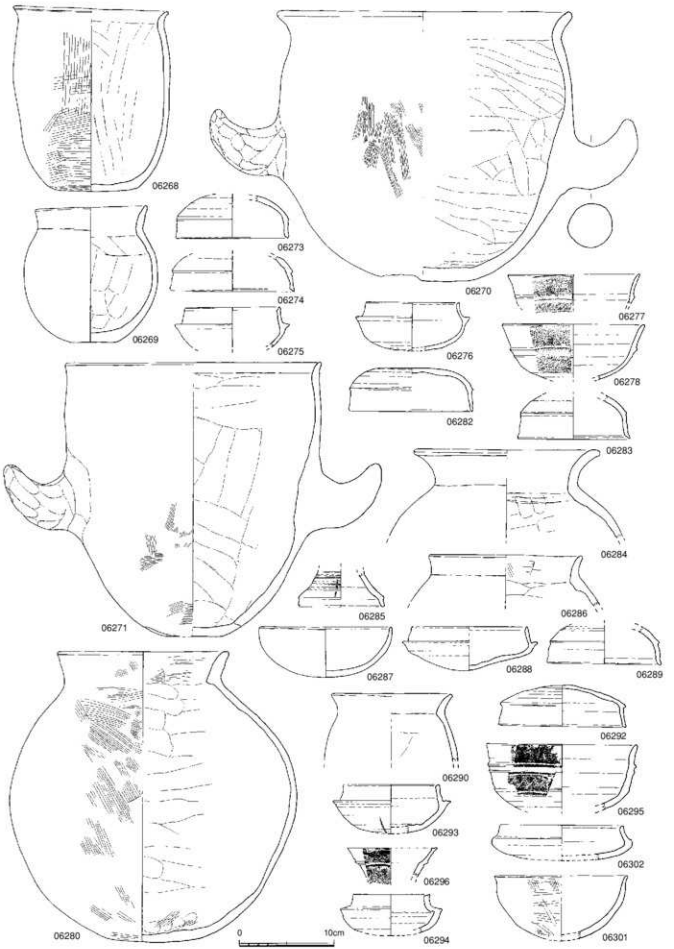


Fig.25　土壙出土遺物実測図９（SK109・110・115・117～119・123～125）(1/4)

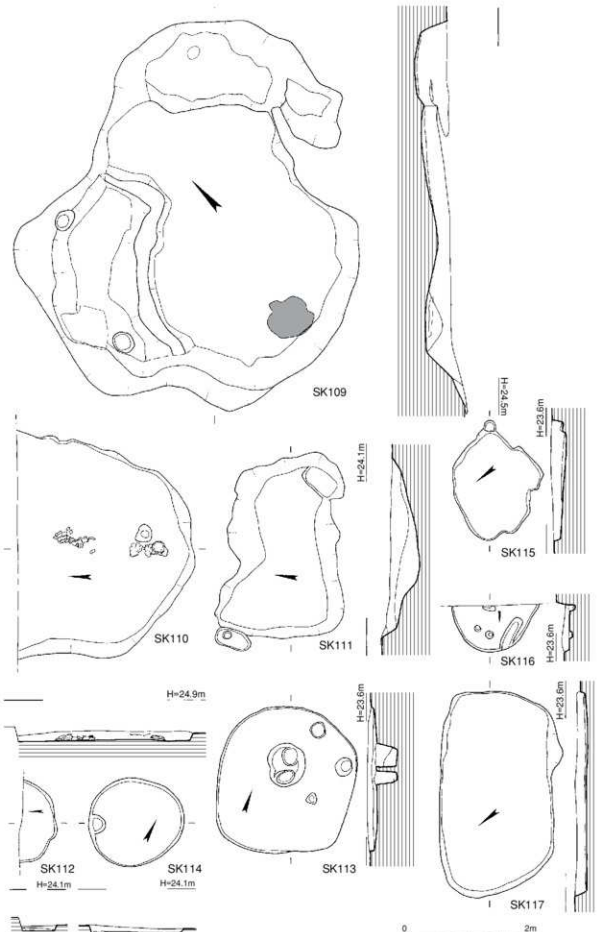


Fig.26　4 次26－1 地区・ 8 号支線道路SK109～117土壙出土状況実測図（1/60）

次に、同ジョッキ型土器には06235・06236・06238があり、やや小型の06237も見られる。須恵器大型器台06239、杯部に摘み状の平たい把手を持つ無蓋高杯06240や断面が円棒状の把手を持つ無蓋高杯06241、有蓋高杯06242、脚部に長方形透かしを持つ06243・三角透かしを持つ06244等の高杯も知られる。また、はそうも中型の完器06245・06246がある。甕は、半球状胴部に細かい平行タタキを施した06247や頸部に波状文、胴部にカキ目を施した06248がある。また、土師器には、マリにはヘラナデやハケメを施す06249・06250・06251・06252・06253・06254、高杯はほぼ定型的な器形で、06255・06257・06258・06259・06260・06261・06262等が見られる。また、異形ではあるが、外面ハケメ調整の土師器蓋06256がある。小型丸底壺06263や小型鉢06264も見られる。甕類は、シャープな造りの06265以外は06266や06267・06269のように在地のものが多い。また、甕06268は、平底で僅かに開く口縁を有し、細かいハケメを施し、精緻な造りである。韓国の軟質土器甕と考えられる。また、把手付き甕は、06270・06271のような二形態のものが出土した。

SK110土壙（Fig.25・26）　8号支線道路調査区西側の北壁で検出した不整長方形土壙の一部である。床面には土師器甕などの破片が原位置で残っていた。出土遺物には、天井が低く、口縁も短い杯蓋06273・06274や立ち上がりは低いが、内面端部に段を有する杯身06275・06276等と共に大・小の差はあるが、共に杯部の下半に一条の波状文を巡らす無蓋高杯06277・06278等の須恵器が見られる。また、土師器大型甕06280も伴っている。

SK111土壙（Fig.26）　26－1地区南側付近で検出した不整な長方形土壙である。床面は不安定である。出土遺物には、土師器甕破片が見られる。

SK112土壙（Fig.26）　8号支線道路調査区中央付近で検出した小型の円形土壙の一部である。出土遺物には、須恵器甕・杯破片が見られる。

SK113土壙（Fig.26）　8号支線道路調査区中央付近で検出した隅丸方形の土壙である。湿度遺物には、土師器の甕・高杯破片が見られる。

SK114土壙（Fig.26）　8号支線道路調査区中央付近で検出した直径1.4m程度の小型円形土壙である。出土遺物には、須恵器の杯・甕破片が見られる。

SK115土壙（Fig.25・26）　8号支線道路調査区中央付近で検出した不整円形土壙である。出土遺物には、須恵器で、口縁部が直立する杯蓋06282や外方に踏ん張るタイプの杯蓋06283が見られる。また、土師器には口縁部が外開するタイプの甕06284等がある。

SK116土壙（Fig.26）　8号支線道路調査区中央付近で検出した小型円形土壙の一部である。

SK117土壙（Fig.25・26）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した不整な長方形土壙である。出土遺物には、須恵器で、短脚の長方形透かしかと見られる高杯脚06285や口縁が短く外開する土師器甕06286等がある。

SK118土壙（Fig.25・27）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した小型の不整長方形土壙である。出土遺物には、端正な造りの土師器マリ06287が見られるが、他に須恵器の杯・高杯破片等も知られる。

SK119土壙（Fig.25・27）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出したやや大型の長方形土壙である。削平のために残りは悪い。出土遺物には、ひずんだ須恵器杯身06288の他に須恵器はそうや土師器甕の破片が見られる。

SK120土壙（Fig.27）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した小型の不整形土壙である。出土遺物には、土師器高杯破片が見られる。

SK121土壙（Fig.27）　8号支線道路調査区の東寄りで検出した小型の不整円形土壙である。出土

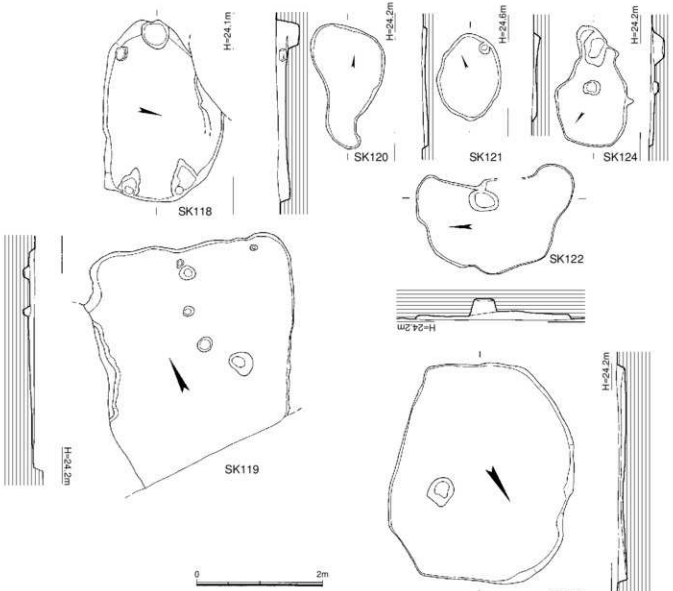


Fig.27　4次8号支線道路SK118～124土壙出土状況実測図（1/60）

遺物には、土師器甕破片が少量見られる。

SK122土壙（Fig.27）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した不整形土壙である。

SK123土壙（Fig.25・27）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した隅丸長方形土壙である。出土遺物には、口縁部等の造りの鈍い須恵器杯蓋06289や土師器の甕・甑破片が見られる。

SK124土壙（Fig.25・27）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した不整な長円形の土壙である。出土遺物には、小型の土師器甕06290の他に須恵器甕破片も見られる。

SK125土壙（Fig.25・28・29）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した大型の段落ち状遺構の一部である。出土遺物には、薄手の低い天井部の須恵器杯蓋06292や口径の小さい杯身06293・受け部が傾斜し、口縁が短く立ち上がる杯身06294・器高が低く、体部から直接に立ち上がる口縁を持つ杯身06302等の須恵器がある。また、杯下半部に一条の波状文を施す無蓋高杯06295や口縁端部が跳ね上げ状となる須恵器はそう06296がある。他に三角透かしを下方2段、上方に長方形透かしを施した

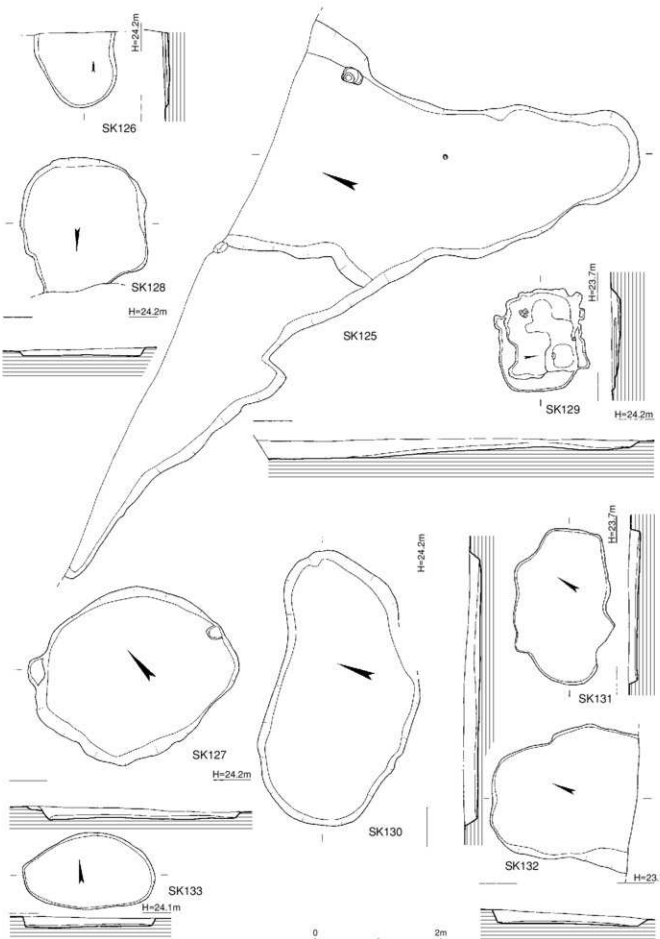


Fig.28　4次2号・8号支線道路SK125～133土壙出土状況実測図（1/60）

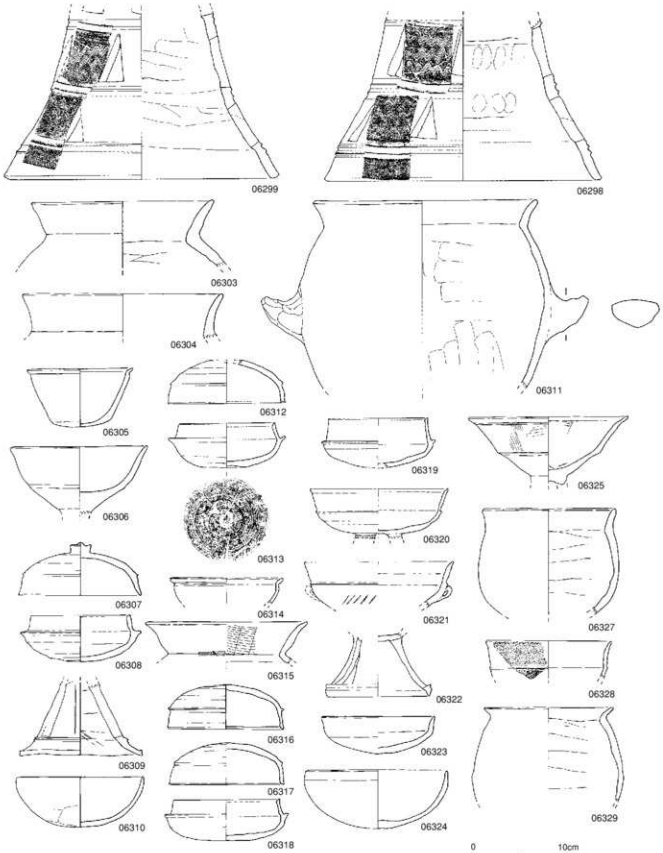


Fig.29　土壙出土遺物実測図10（SK125～130・132）（1/4）

大型器台の脚部06299・06298が見られる。また、土師器では、鉢06301や中型の甕06303が伴って出土している。

SK126土壙（Fig.28・29）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した小型の長円形土壙の一部である。出土遺物には、外開する口縁部を有する土師器甕06304等が見られる。

SK127土壙（Fig.28・29）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した不整円形の土壙である。出土遺物には、不安定な平底を持つ土師器鉢06305や杯部が深く、筒部の小さい土師器高杯06306等が見られる。

SK128土壙（Fig.28・29）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した小型の隅丸方形土壙である。出土遺物には、ボタン状の摘みを持つ須恵器杯蓋06307や、立ち上がりの低い須恵器杯身06308、脚に長方形透かしを持つ須恵器高杯06309、丁寧な造りの土師器マリ06310、大型の把手付き甕06311等が伴っている。

SK129土壙（Fig.28・29）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した小型の不整長方形土壙である。出土遺物には、天井部との境に鈍い突帯を巡らす須恵器杯蓋06312や立ち上がりの内面端部が段をなす須恵器杯身06313や土師器小型鉢06314、土師器甕06315などが見られる。

SK130土壙（Fig.28・29）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した不整な長方形土壙である。出土遺物には、天井部との境に鋭い突帯を巡らす須恵器杯蓋06316や緩い造りの杯蓋06317、器高が低く、立ち上がり内面に段を持つ須恵器杯身06318や立ち上がりの非常に高い杯身06319が見られる。また、浅い杯部の須恵器無蓋高杯06320や低い把手を持つ無蓋高杯06321がある。短脚長方形透かしを持つ須恵器高杯06322も見られる。土師器では、口縁部の立ち上がる杯06323や丁寧な造りのマリ06324、浅い杯部を持つ高杯06325、小型の鉢06327も伴っている。

SK131土壙（Fig.28）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した小型の不整長方形土壙である。出土遺物には、土師器高杯や須恵器杯蓋の破片が見られる。

SK132土壙（Fig.28・29）　8号支線道路調査区の東寄り付近で検出した不整な長方形土壙である。出土遺物には、杯下半部に波状文を施す須恵器無蓋高杯06328や小型の土師器甕06329等が見られる。

以上で4次調査の各土壙について形状と主要な出土遺物を列挙してきたが、紙面の制限から個別遺構の埋積状況や出土遺物についての形状の特徴・細部の調整・法量等についても十分に触れることができなかった。

土壙については、全体としてその埋土は暗褐色～黒褐色の粘質土である場合が多かった。また、各土壙からの出土遺物は、土師器を主体として須恵器が混じる様相であったが、中には後述する溝状遺構の出土の大型管状土錘や木錘とした紡錘形の木製品と共通するものも見られた。また、溝状遺構内の遺物に比較すると地表にあったためか土壙出土のものは器面の消耗が各遺物とも顕著である。

木製遺物についての追加報告を行うと、土壙から出土した木錘状製品は、Fig.53に示した。

SK16土壙1点（21659）、SK57土壙1点（21041）、SK76土壙6点（21661・21662・21663・21665・21666）、SP41ピット1点（21658）、G・Ⅰ－11・12地区表面採集品1点（21660）などがある。

2．井　戸（Fig.3・30・31、PL.36・37）

井戸遺構と考えられるのは、4次調査で3基が検出された。Ⅰ－12地区のSD01溝東岸のSE01井戸、Ｆ－11地区のSE02井戸、それに8号幹線道路東側寄りのSE03井戸である。

SE01井戸（Fig.30・31、PL.36・37）

自然流路SD01溝東岸の湾入部に位置する。50×40cmサイズの空洞の木材を井筒に使用し、周辺に

は約２m四方に大型の角礫を方形に敷き詰めて井戸としている。現存する深さは約40cm程度である。方形の石敷きの辺には角材が周辺に添えられている。共伴する遺物は井戸内から出土していないが、近接する溝内で完形の大型須恵器甕06668が出土しており、古墳時代中期の井戸と考えて良い。

SE02井戸（Fig.30・31、PL.37）

樋渡古墳の東側に隣接して検出され、大型土壙SK76と切り合っている。１×1.7mの長楕円形の中央に直径0.9mの竪穴を掘った素掘り井戸である。深さは、約1.1m程度である。出土遺物には、丁寧な造りの土師器マリ06669や土師器甕06670・06671等が見られる。

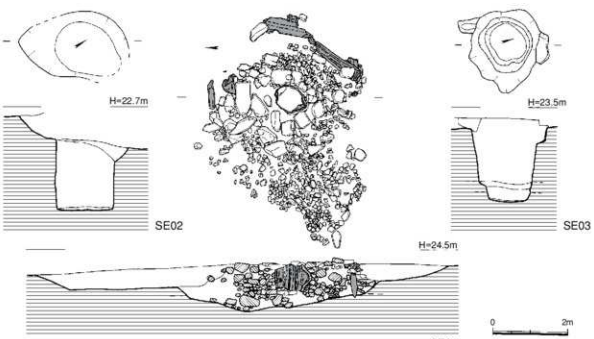


Fig.30　４次Ｆ・Ｉ－11・12地区・8号支線道路SE01～03井戸出土状況実測図（1/60）

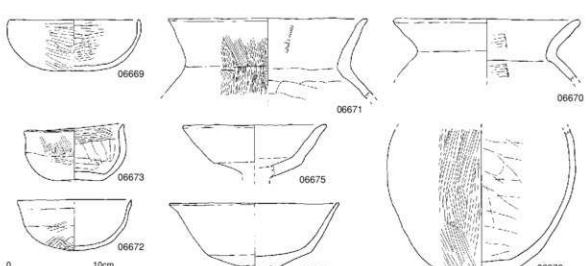


Fig.31　井戸出土遺物実測図（1/4）

SE03井戸（Fig.30・31）

８号支線道路東側で見つかった井戸で、掘り方が1.3×1.1m規模の長楕円形をなす。特に他の施設の痕跡は見つからないので素掘りと考えられる。深さ1.3mを測り、底部はやや丸く窪む。共伴する遺物には、土師器マリの06672・06673や杯部口縁が直線的に開く土師器高杯の06674・06675、土師器中型甕などが埋土内から出土した。

３．溝状遺構（Fig.３・32～55、PL.１～17・45・46）

自然流路の溝は、調査区全体ではほぼ南西から北東方向に流下していることは考えられるが、それぞれの溝がどのように連絡しているのかは調査範囲との関連で十分に把握することは困難であった。

溝は、調査区の南から記すと、Ⅰ・Ｊ－11・12地区に１条（SD01）、７号支線道路調査区にⅠ条（SD01）、３号水路調査区１条（SD02）、２号支線道路調査区１条（SD02）、８号支線道路調査区４条（SD01・02・04・05）、Ｌ－８・９調査区１条（SD01）、５号水路調査区１条（SD01）の10条が検出された。

各調査区から検出した溝の埋土は、粘質の有機質土が多く、多くの土師器・須恵器・陶質土器等と共に、鍬などの農具、鞍などの馬具、機織具、槽、刳物などの木製品が共伴して出土した。全てを報告できないために、特徴ある土器類や木製品・土製品を選択して掲載した。以下、各調査区の溝とその出土品について記す。

（８号支線道路調査区）（Fig.３・33～36・45・46、PL.６～12・44・45）

SD01溝（Fig.３・33～35）

調査区西端部で検出した北側に流れる幅７mほどの直線的な溝である。底面はほぼ平らで、岸辺の立ち上がりも緩い。最下層の黄褐色砂質土層に板材等を包含する。出土遺物には土器類が数多く含まれていた。

須恵器には、胴部にカキ目を施した無蓋高杯06330、胴部に波状文・カキ目を施した無蓋高杯06331、小型高杯06332、中型はそう06333・小型はそう06334・06335、小型のジョッキ型土器06336、口縁部の立ち上がりが内傾し、端部に段を持つ杯身06350・06351や口縁直下に丁寧な波状文を施した広口壺06360などが見られる。また、土師器には、やや大型で、精緻な生地を用い、二次穿孔のある二重口縁丸底壺06337と重心が胴部下半にある通常タイプの小型丸底壺06339・06354・06355がある。また、口縁部を小さく引き出したマリ06345・06352、小型手捏ね土器06348もある。高杯は、杯部下半が膨らみ、端部が段をなし、緩やかに伸びる口縁部を有するタイプが多く、06342・06347・06343・06346・06353・06358がこれにあたる。

また、甕類は、06338のように内湾気味に外開する口縁部と半球状の胴部を有し、肩部に一条沈線を巡らす布留式土器系統の土器以外は、06340・06341・06349・06344・06356・06357・06359・06361のように地元系土器が圧倒的に多い。

Fig.32　４次３号水路SD02溝出土状況実測図（1/100）

SD02溝（Fig.３・33・35・36・45・46）

調査区東端で検出した東西に流れる不整溝である。南岸が未検出である。遺物は非常に多量出土した。また、南壁の第４層の灰褐色粘質土には木錘状製品が包含されていた。

（**土器類**）須恵器では、広口壺06363、小型杯蓋06365、短脚円形透かし高杯06371、杯蓋06385、杯身06379・06386、短脚有蓋高杯06380、大型ジョッキ型土器06387、大型器台06388、格子タタキの甕06389がある。また、大型管状土錘06364・06370・06378や外面格子タタキを施した軟質土器甕06362がある。土師器には、マリ06366・06375、高杯では06367・06368・06373・06376・06390・06382・06383・06390等特徴がある。他に二重口縁壺06369、底部に焼成前穿孔のある鉢06384、甕類06372・06374・06377・06391がある。また、把手付きの大型甕06392・06393も見られる。

（**木製品**）木錘状製品としているものがまとまって出土した。完形品の21621では、頭部に抉りを入れて、帽子状に整え、中央部は紡錘状で、下端は両面から切りそいで中央に長方形の穴を穿っている。長さ22cm・厚さ６cm程度のサイズである（Fig.45・46）。また、収縮してしまった二股鍬21607もある。

SD04溝（Fig.３・36）

調査区の東側付近で検出した幅２m弱の南北溝である。出土遺物には、口縁部の短い須恵器杯身06394、大型摘みで、器色が黒色に近い杯蓋06395、短脚の高杯06396、断面円形の大型把手06397がある。また、土師器にはマリ06398、高杯06399、大型の直口壺06400、把手が下方を向き、底部穿孔が花弁状をなす大型甕06402、中空の小型器台06401等が出土した。

SD05溝（Fig.３・33・36）

調査区西側で検出した幅３mほどの浅い溝で、覆土は全体に砂質土が多く、激しく流れた痕跡がある。出土遺物には、裾部に低い突帯を巡らした小型高杯06403等がある。

（**Ⅰ・Ｊ－11・12調査区**）（Fig.３・37～41・53～55、PL.17・45）

SD01溝（Fig.３・37～41・53～55）

調査区を南西から北東方向に流れる浅い自然流路である。北側では幅が広がり、拡散している。

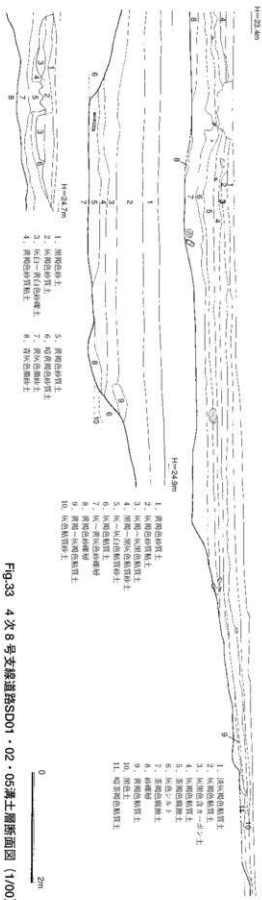


Fig.33　４次８号支線道路SD01・02・05溝土層断面図（1/100）

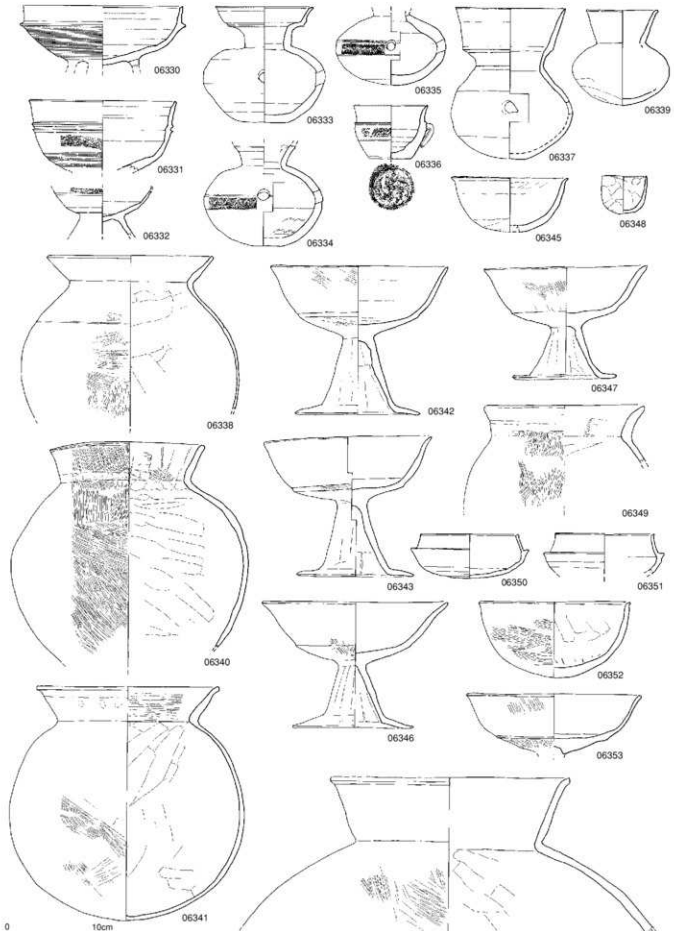


Fig.34　溝出土遺物実測図１（８号支線道路SD01）(1/4)

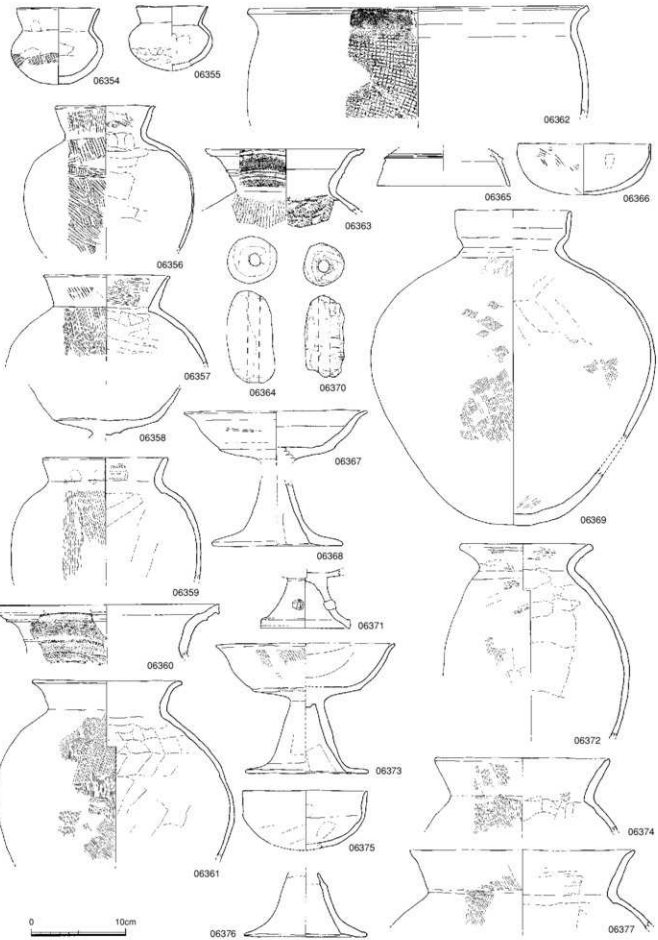


Fig.35　溝出土遺物実測図２（８号支線道路SD01・02）(1/4)

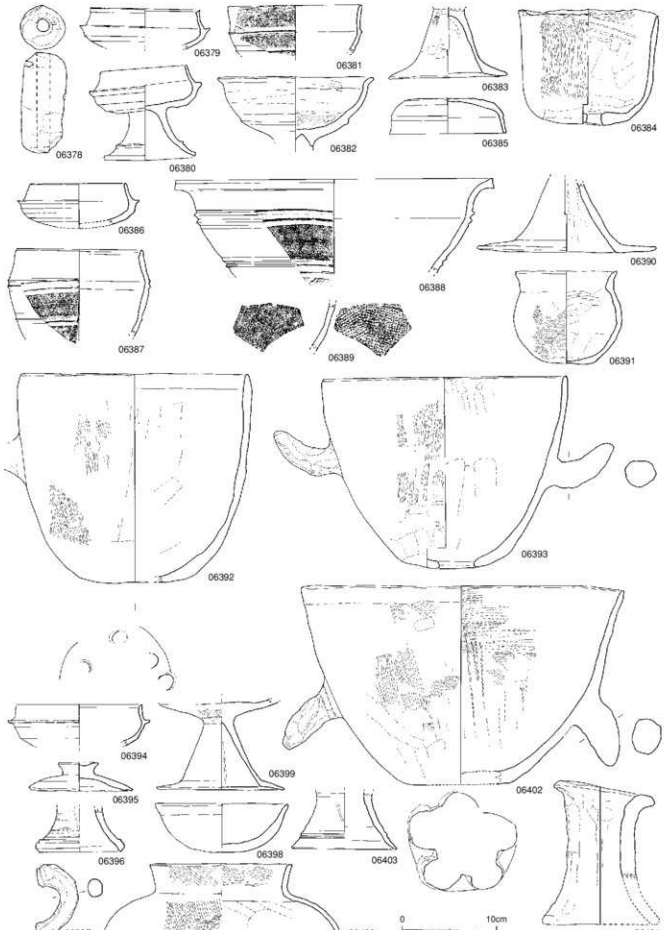


Fig.36　溝出土遺物実測図３（８号支線道路SD02・04・05）（1/4）

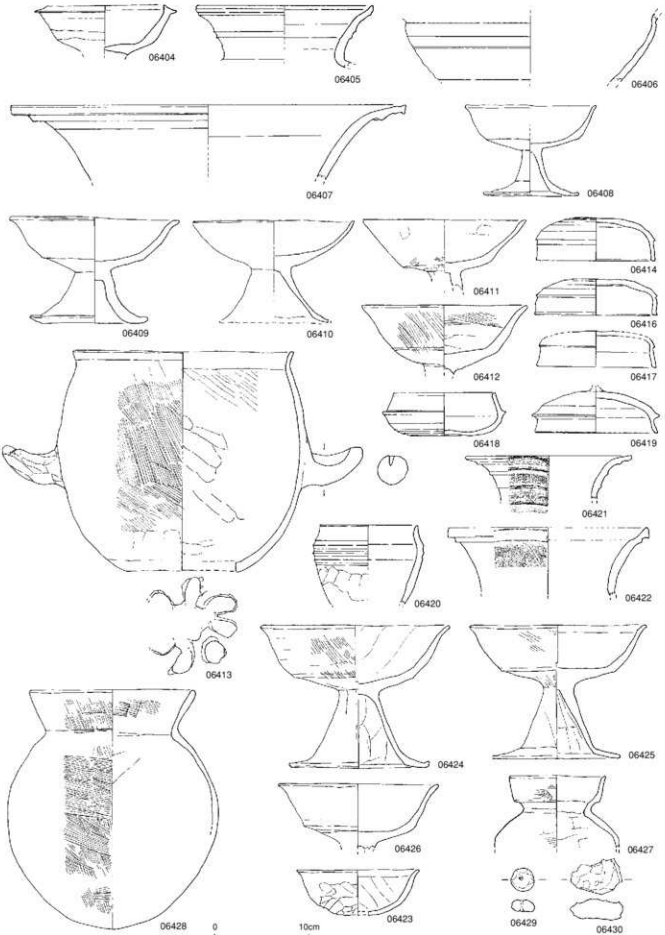


Fig.37　溝出土遺物実測図４（Ⅰ・Ｊ－11・12 SD01）（1/4）

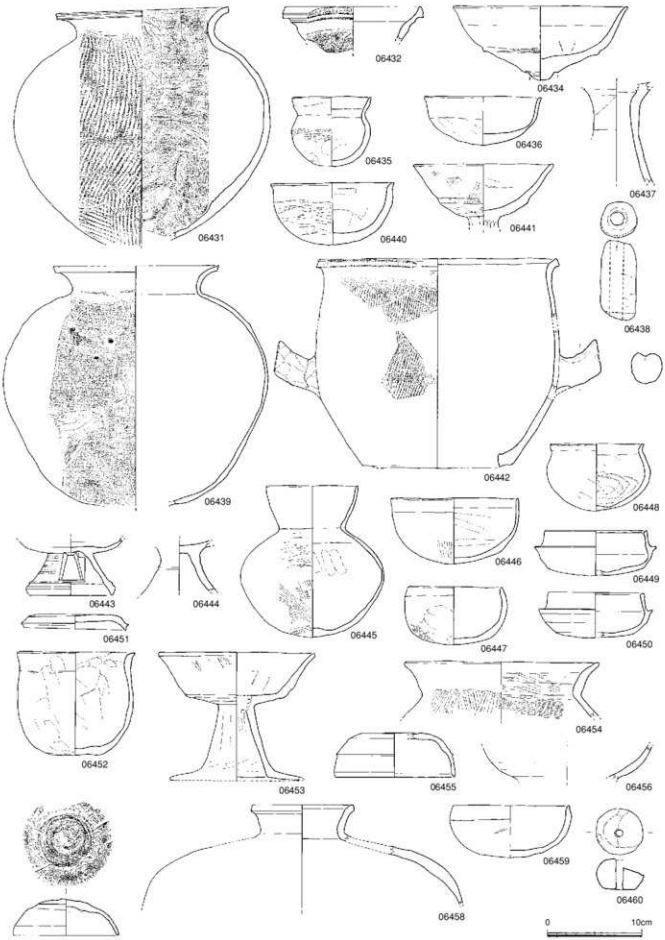


Fig.38　溝出土遺物実測図５（Ⅰ・Ｊ－11・12 SD01）（1/4）

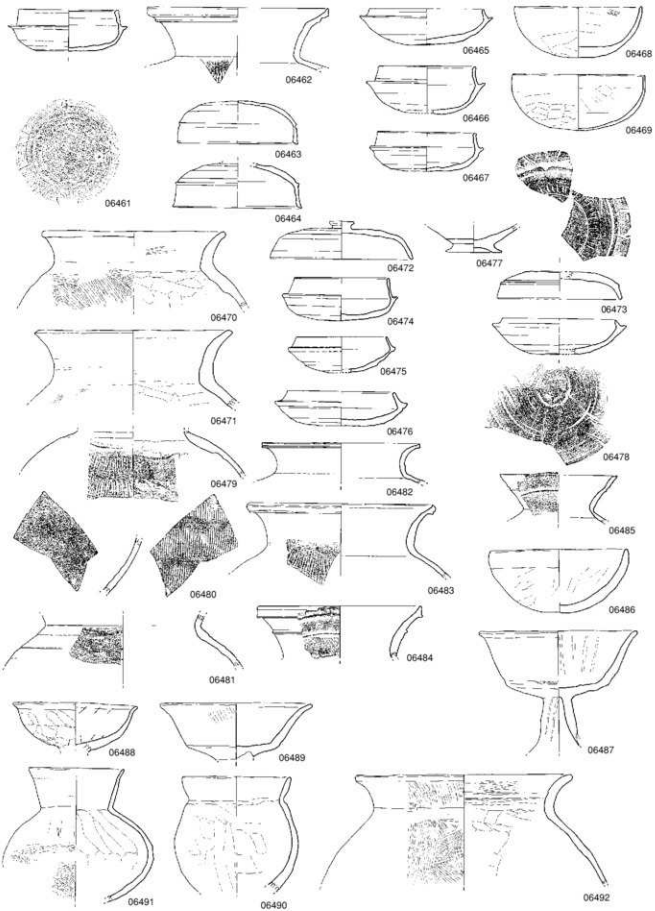


Fig.39　溝出土遺物実測図 6 （Ⅰ・Ｊ－11・12 SD01）（1/4）

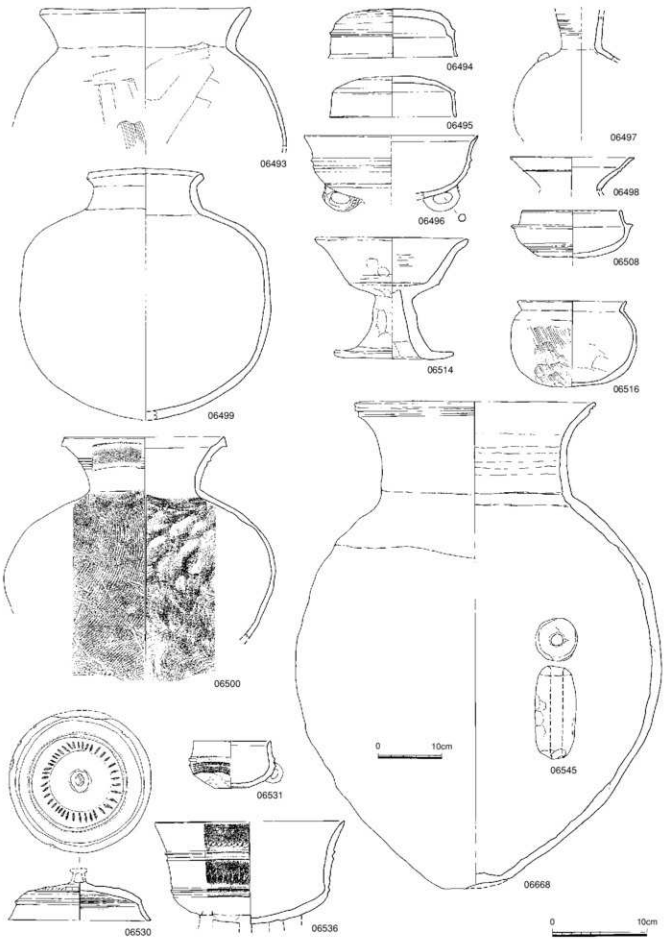


Fig.40 溝出土遺物実測図７（Ⅰ・Ｊ－11・12 SD01）（1/4、1/6）

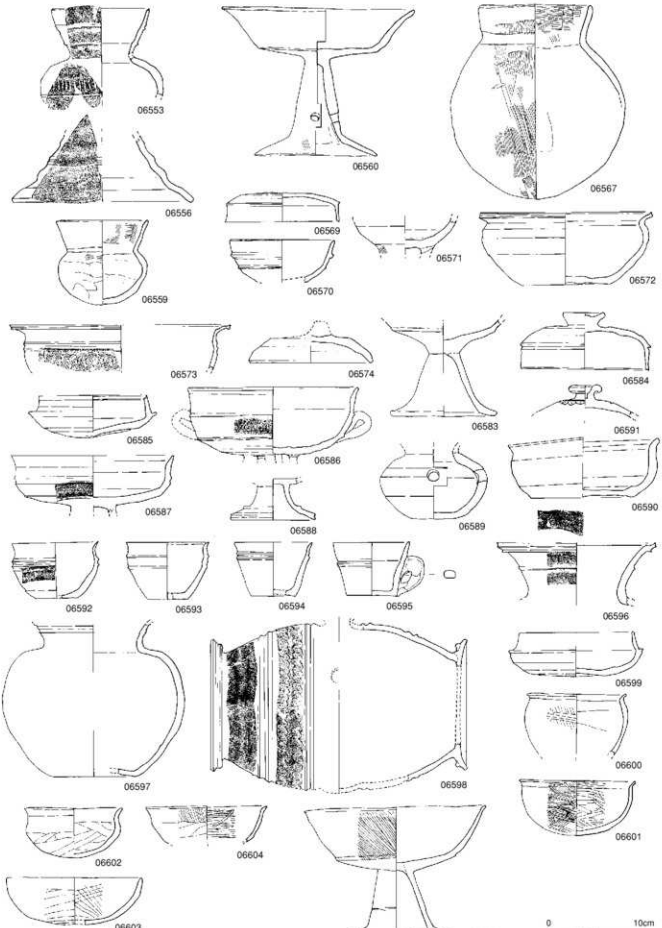


Fig.41　溝出土遺物実測図８（Ⅰ・Ｊ－11・12 SD01、５号水路SD01・02、３号水路SD02）(1/4)

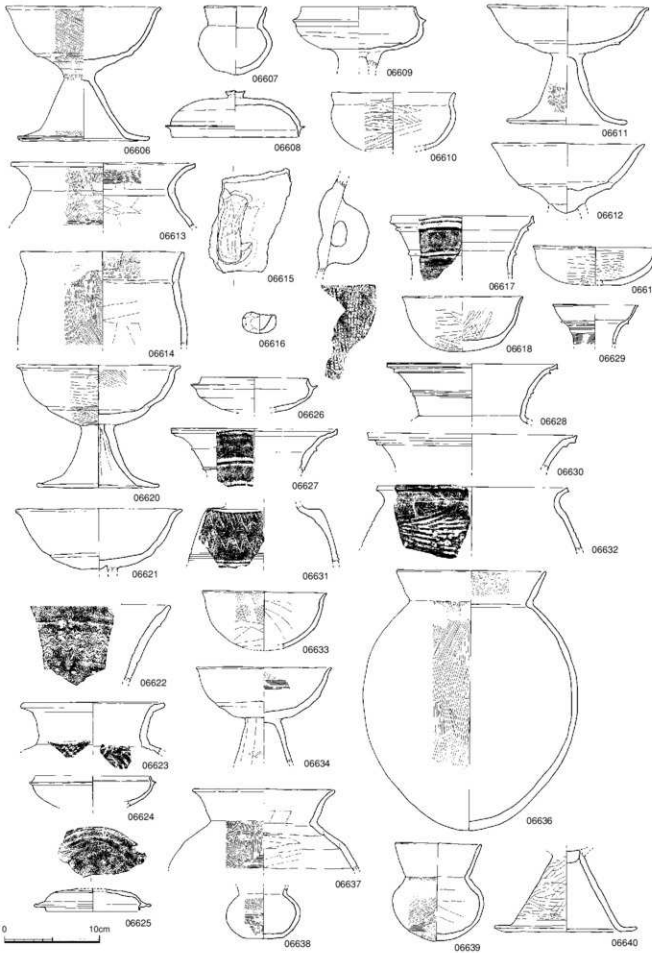


Fig.42　溝出土遺物実測図９（３号水路SD02・03、Ｌ－８・９SD01）（1/4）

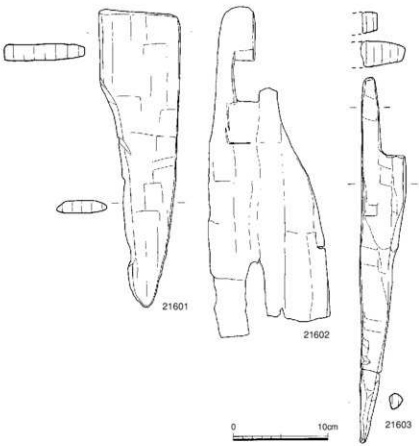


Fig.43　4次L－8・9地区SD01溝出土木器実測図（1/4）（又鍬）

溝の覆土は全体に灰褐色砂質粘土で、遺物は大量の土器類と木製品とである。

（土器類） 須恵器では、高杯で、立ち上がりの無い06404・短脚長方形透かしの06443・小型短脚の06444・環状把手を付す06496・大型で、深い杯部に波状文を巡らし、脚部に長方形透かしを施した06536や長脚小型の06437がある。

また、杯蓋では、器高の低い06414～06417や天井頂部に摘みを付す06419、口縁部の非常に低い06451、天井部と口縁部との境の突帯が顕著な06455・06464や沈線を巡らす06463、体部が半球状をなす06457、天井部が平坦で、周囲に原体圧痕文を放射状に巡らす硬質の06473、口縁部が直線的で定型的な06494・06495等がある。他に天井部に摘みを付すものでは、平坦な摘みの06472や口縁部が外に踏ん張り、原体圧痕文を巡らす赤褐色の韓国伽耶系土器06530がある。

Fig.44　4次2号支線道路SD02溝出土木器実測図（1/4）（又鍬）

須恵器杯身では、身が深く、高い口縁部と内面端部に段を有し、底部のヘラケズリが全面に及ぶ古式の06449・06450・06461・06466・06467・06508や身が浅く、口縁部の内傾化が著しく、底部のヘラケズリも一部にとどまるやや新しい型式の06418・06474・06475・06476・06465・06478等が見られる。

また、須恵器甕類は、広口の中型のものが多く出土している。口縁部形態では、端部外面が肥厚し、内面が跳ね上げ状となり、口縁直下に突帯を巡らすⅠ類ものが多く、その他の形態のⅡ類が少量混じている。

Ⅰ類には、大小が見られるが、口縁直下に波状文を施した06422・06432・06484・06500がある。胴部の外面は全面平行タタキを残し、この後指による擬似的な平行線を施す。また、内面は大振りの青海波文を施し、一部ナデ消す処理を行う。口縁部を欠失するが、同タイプの甕と考えられる06479・06480もある。

また、口縁下に波状文のないタイプには、06462・06482・06483があり、大型の06407も混じる。

Ⅱ類には、無文で低い突帯を巡らす06405や口縁断面が円棒状をなし、多条突帯の間に細かい波状文を巡らす甕06421、口縁を欠くが、胴部に平行タタキ後平行沈線を巡らす甕06481がある。また、SD01の東岸のSE01井戸付近で出土した06668は、大型の長胴

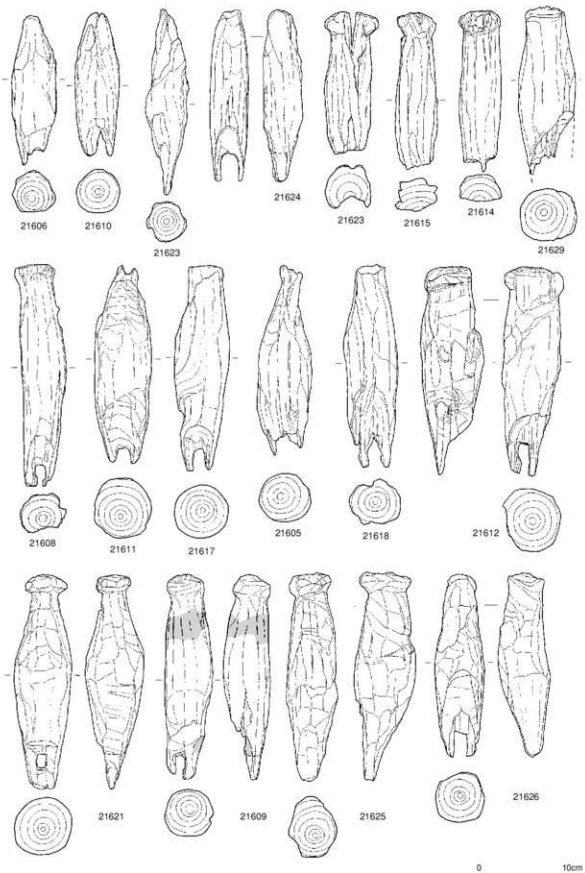


Fig.45　4次8号支線道路SD01・02溝出土木器実測図1（1/4）（木鍾）

甕で、直立する頸部から緩やかに外開する口縁を有し、端部には不安定な２条沈線を巡らす。全体に瓦質で、焼成は軟質である。

また、球状胴部に短かい頸部を持つ06431・器壁が薄く、上部にカキ目を巡らす甕06439等が見られる。06499は、器面調整を完全に磨り消した中型の甕である。短い頸部に小さく開く口縁部を有し、肩部は強く張り、胴部は膨らまない。器壁は、やや肉厚である。

須恵器には、他の器形に、胴部に沈線を巡らす無文の大型器台06406、やや小型の把手付き器台06456、やや大型のジョッキ型土器06420や小型で円環状把手を付した06531、外面の調整を磨り消した大型の俵壺06458、器面が黒色に光沢を放つ台付き壺かと考えられる06477がある。

また、はそうには、06485のように頸部に１条沈線を巡らし、以下に波状文を施すものや大きく開く口縁を持つ06498などがある。

また、やや長い口縁部を有し、頸部にボタン状貼付を施した提瓶06497も数少ないが見られる。

次に**土師器**では、甕類が最も多く、他に高杯、マリ等が出土した。溝出土の土師器は、器面の磨滅が少なく、器面調整が細部まで良く観察することができる。

高杯は、全体的に杯部が浅く、口縁付近を緩やかに引き出し、中空の筒部に裾が開く脚が特徴である。中には短脚で、やや器壁の厚い椎描な造りの06409・06514も見られるが、全体的には長脚で、定型化した印象をもつものが多く、06408・06411・06412・06424・06425・06426・06434・06441・06453・06487・06488・06489等が知られる。また、杯部が浅いマリ状をなす06410も見られる。

土師器甕では、半球状の胴部に短く開く甕06428・06490を除くと、頸部がよくしまり、胴部が半球状に膨らむ長胴甕が多く、06454・06470・06471・06492・06493がこれにあたる。

また、土師器把手付き大型甕では、06413のように底部が花弁状の窄孔を特徴とするものや、胴部に縄目のタタキを施し、端部を端切るような把手を付した寸胴の大型甕も見られる。

また、土師器丸底壺では、小型の06435や中型の精緻な造りの06445・06491がある。

また、土師器マリでは、06436・06440・06446。06447・06459・06486が知られる。

また、土師器鉢では、形態は異なるが、椀形の06448・06516、甕形の06452が見られる。

また、小型の二重口縁壺06427も数少ないが出土した。

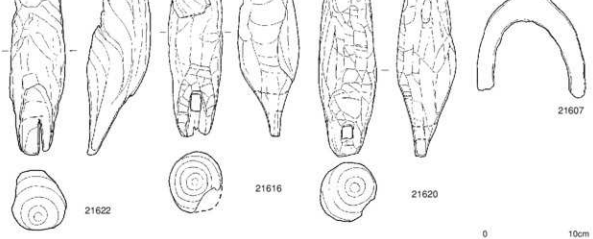


Fig.46　４次８号支線道路SD02溝出土木器実測図２（木錘・又鍬）（1/4）

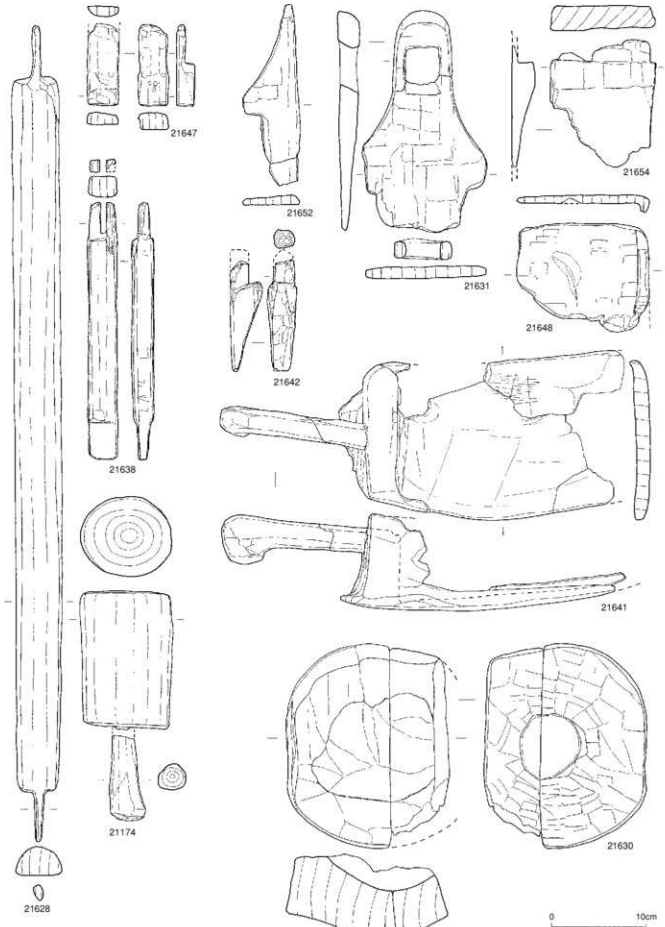


Fig.47　4次3号水路SD02・03溝出土木器実測図（鋤・平鍬・梭・梯子・鍬柄等）（1/4）

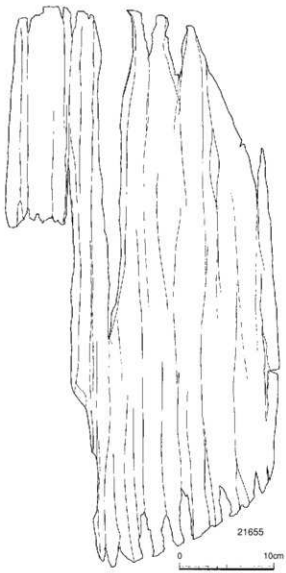


Fig.48　4次5号水路SD02溝出土木器実測図
（ねずみ返し）（1/4）

また、土製品等では、算盤玉形紡錘車06429・06460、大型管状土錘06438・06545、小型鉄滓06430が出土した。

（**木製品**、Fig.54・55）

SD01溝では、土器に比較すると木器の出土数はそれほど多くない。

21673は小型の栓かと考えられる不明木製品である。また、最も目立つのは木錘状製品としたもので、頭部の周辺に抉りを入れ、帽子状に整形し、下端部は両面からそぎ落として楔状に整形している。また、その中央には長方形の細かい孔を穿っている。完形品の21668は、長さ22cm、厚さ6cmを測る。

頭部の抉りは緊縛の解けないための工夫と考えられ、下端部の穿孔は同一サイズのものを連続して繋ぎ止める細工と考えられる。素材の樹種は不明であるが、水中では簡単に沈没することから、松材の可能性もある。完形のものは少ないが、部分的には特徴があり、21671・21675・21674・21670・21669も同種の製品であろう。

また、柄部が反って長い楯21672、鍬柄21677、犂い柄の二又鋤21676が出土した。

また、全長84cmを測る不明木製品21678が出土している。

柄部は湾曲しており、先端部の長方形造りだし部には下側に溝が切られており、ソケットとして鉄器等が挿入された可能性がある。

第5号水路調査区（Fig.3・41・48、PL.15）

SD01溝（Fig.3・41）

調査区を東西方向に流れる浅い自然流路で、西側のものである。また、北側の岸辺は未検出である。

調査区の範囲が限られているため、出土遺物は多くないが、土器類と木製品がある。

土器類では、中型の須恵器丸底壺或いは小型はそうの06553、06556は瓦質須恵器の高杯脚か。また、杯部が浅く、長く裾広がりの脚部に円形透かしを持つ高杯06560、胴部ヘラケズリの土師器小型丸底壺06559、内湾気味の短い口縁部を持つ中型甕06567が見られる。

SD02溝（Fig.3・41・48）

調査区を東西方向に流れる浅い自然流路で、東側のものである。また、北側の岸辺は未検出である。

出土遺物は、多くない。土器類のうち、須恵器は、器高が低く、口縁が直に立つ杯蓋06569、薄手の無蓋高杯06570、やや厚ぼったい椀形の杯部を持ち、外面光沢を持った黒色を呈する06571、同様に、外面が銀灰色を呈し、底径が大きく、短い口縁の鉢06572、杯部に緩い波状文を巡らす精緻な造りの

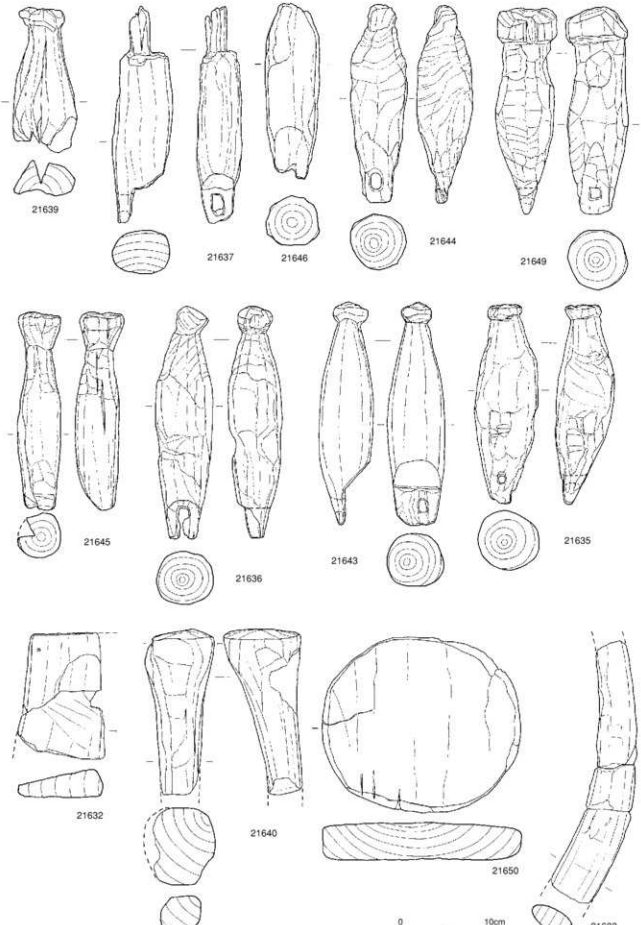


Fig.49　4 次 3 号水路SD02溝出土木器実測図 1 （木錘・鍬柄・円盤）（1/4）

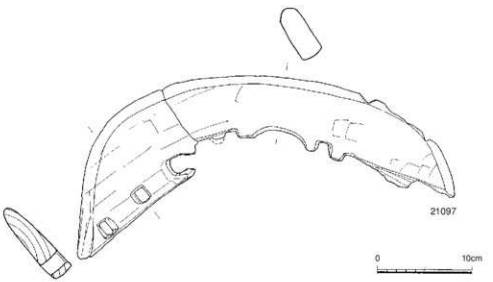


Fig.50　4次3号水路SD02溝出土木器実測図2（鞍前輪）（1/4）

大型器台06573、天井部に低い台状の摘みを付し、器色が銀灰色を呈する蓋06574等が見られる。また、木器では、長辺が58cmを測るネズミ返し21655が出土している。調査後に収縮した。

第3号水路調査区（Fig.3・41・42・47・49～52、PL.13・14・46）

SD02溝（Fig.3・41・42・47・49～52）

調査区中央に検出された南北溝で、幅40m程度の浅い自然流路である。限られた調査区ではあるが、大量の土器類とともに木器類がまとまって出土した。

（土器類）（Fig.41・42）

土器類のうち、須恵器では、立ち上がりが低く、いびつな杯身06585・安定した底部の杯身06599・低い立ち上がりの杯身06626・06624がある。杯蓋では、大型の摘みを付す06584・天井部にボタン状摘みを付し、口縁部との境に上向きの突帯を巡らす06608・低いかえりのある06625等である。また、天井部摘み下にコンパス文を巡らす新羅土器06591も見られる。

また、高杯には、大型で杯下端に摘みを有し、方形透かしを施した無蓋高杯06586、やや杯部が浅い無蓋高杯06587や短脚高杯06588、浅い杯部に内傾する口縁部を持つ有蓋高杯06609等が見られる。はそうは、やや厚手の製品06589や樽形を呈し、突帯間に精緻な波状文を巡らす大型資料06598や頸部にカキ目を施す小型資料06629がある。また、鉢には、底径の大きい軟質の06590がある。

また、小型のジョッキ型土器は4点が知られ、いずれも底部は安定し、突帯下に波状文を巡らす06592や無文の06593・06594・06595がある。

また、甕類は、口縁形態が多様である。端部が角張り、跳ね上げとなり、頸部に波状文を二段に巡らす06596、肩部が張り、無文の06597、頸部が立ち、二段に波状文を施す精緻な造りの06617、無文の06628や直立し小さく外開する口縁を有し、外面格子叩きを施した06623、端部が跳ね上げ状となる06627が見られる。

また、06622は、幅広の波状文を施す須恵器で、形態的には器台脚の可能性もある。

次に土師器では、高杯が目立っている。高杯は、形態的には小さい差異が見られる。

杯部はやや丸味を帯び、下端部に段をなす。中空の脚部は裾部で大きく開く形態が多い。

器面調整は、脚部・杯部にも一部にタテハケメを残し、他は横・縦方向のヘラナデを施している。

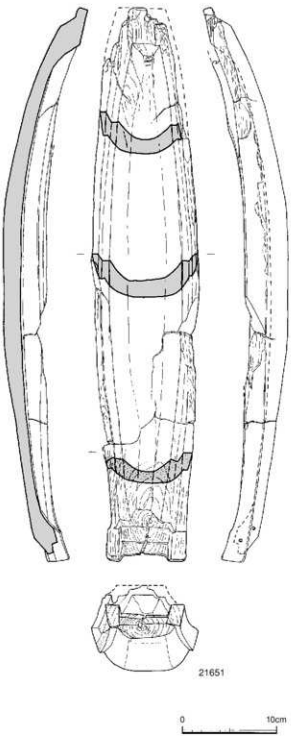


Fig.51　4次3号水路SD02溝出土木器実測図3
（準構造模造船）（1/4）

06583・06605・06606・06611・06612・06620・06621などの出土資料が見られる。

また、鉢では小さく開く口縁部を持つ06620や06601・06602・06603・06604・06610・06619・06618などが見られる。

また、甕類では、頸部がしまり、外開する06613や緩く開く口縁を持つ06614等が見られる。

また、小型丸底壺は、胴部下半にヘラケズリを加えた06607が見られる。

その他、暗赤褐色を呈し、外面に格子叩きを施し、円環状把手を付した甑破片06615や小型手捏ね土器06616が見られる。

（木器類）（Fig.47・49～52）

木器類は、種類が非常に豊富である。

21628は、全長85cmを越える梯である。両側の突起は長さ5cm、体部は蒲鉾形をなし幅5cm、厚さ3cmを測る。また、やや小型の梯21627も見られる。

21174は、全長24cmを測る木槌である。把手の下端は径3cmを測る。また槌部は径が10cm程度の丸材を使用する。

鍬類では、ナスビ形製品の破片と考えられる21652や柄穴の大きい平鍬21631が見られる。

また、槽では、端部の立ち上がりが残る21648や長い把手を付した21641が見られる。21641は、把手を除くと27cm以上のサイズとなるが、両側に把手が付かず、現在の舟アカ繰り用の道具であった可能性もある。

21630は、刳り物の未製品と考えられる。残りは隅丸長方形を呈し、一部が破損する。底部の整形と内面を刳っていることから小型の槽の可能性もある。

次に、木錘状製品とした木器がまとまって出土している。頭部は、周辺に抉りを加えて冠帽形として、下端部に両面より切り落とし、中央に方形孔を穿つもので、完形の21649や下端部抉りが片面しかない21643などが見られる。他に、21629・21639・21637・21646・21634・21645・21636・21635等完形ではないが、これらの特徴を備えた類品と考えられる。また、21632は、角部の一端に小孔を穿つ不明製品である。また、鍬柄と考えられる21640・21633が見られる。円盤状製品21650もある。

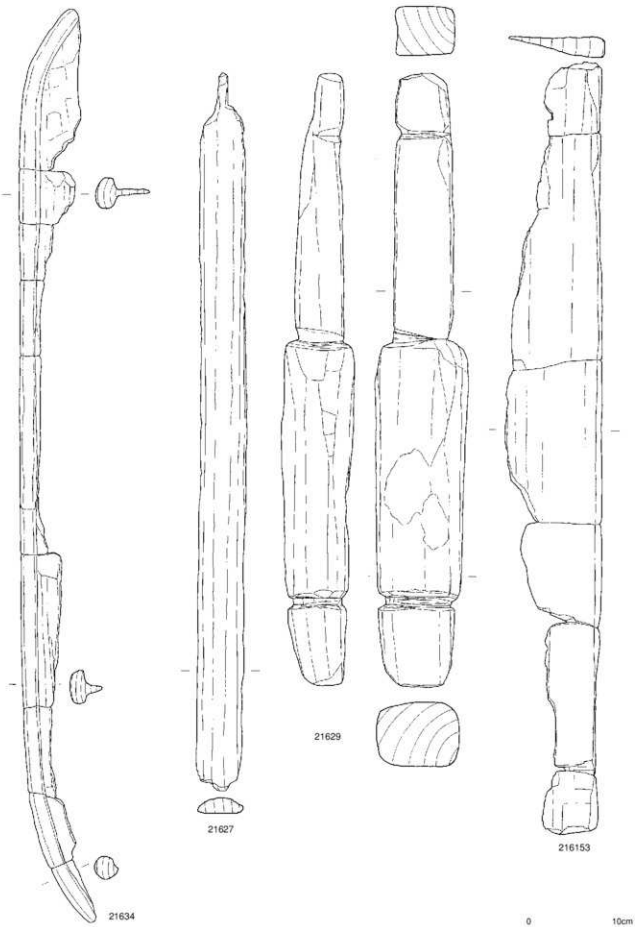


Fig.52　4次3号水路SD02溝出土木器実測図4（楯・桧等）（1/4）

また、木製鞍の前輪と考えられる21097や芯持ち材使用の一木造りで全長58.5cm、最大幅11.3cm、船底から舷側板までが4.6cmを測る準構造船21651がある。さらに、全長97cmを測り、両面周囲を扁円形に整形した楯ではないかと考えられる21634や建築部材と思われる21629・21653が出土した。

SD03溝（Fig.3・42・47）

調査区東側に検出された自然流路の南北溝である。土器類とともに木器類が少量出土した。

（**土器類**）（Fig.42） 土器類のうち、須恵器では、口縁端部が跳ね上げ状となり、直下に鋭い突帯1条を巡らす広口甕06630や大型器台の筒部破片で原体圧痕文と荒い波状文を施した06631がある。

また、土師器では、口縁端部を緩く外方に引き出し、深い鉢06633や同様の鉢に脚を付した高杯06634がある。また、硬質で外面に荒い平行タタキを残し、外面と内面の一部に丹を塗布した06632が見られる。

（**木器類**）（Fig.47） 木器では、梯子21654の断片が出土した。

L－8・9調査区（Fig.3・42・43、PL.46）

SD01溝（Fig.3・42・43・60）

調査区中央に検出された東西の大溝で、底面の凹凸が著しい自然流路である。

出土遺物では、土器類・木器が少量見られる。このうち土器類は、土師器を主体とする。短く直線的に開く口縁と球形胴部を持つ甕06636や口縁部が長く外方に伸びる甕06637、小型丸底壺06638・06639、脚部にヘラミガキを加えた高杯脚部が出土した。

次に、木器では、破片ながら又鍬と考えられる21601・21602・21603等が出土した。

第2号支線道路調査区（Fig.3・44・60、PL.4・46）

SD02溝（Fig.3・44・60）

調査区中央に検出された東西溝である。出土遺物では、土器類・木器が少量出土した。

（**土器類**）（Fig.60） 土器類では、大型の土師器二重口縁壺06641や受け部が小さく立ち上がりの大きい須恵器杯身06646や宝珠状摘みを持つ同杯蓋06666、口縁下に二条の低い突帯を巡らすジョッキ形土器06656がある。

また、短い口縁を有し、外面に平行タタキを施す須恵器中型甕06657や、杯部が深く、外面に二段の波状文を巡らし、中位に把手を付す無蓋高杯06655ややや浅い杯部の無蓋高杯06649が見られる。

（**木器類**）（Fig.44） 溝内からは又鍬破片と考えられる21604が出土した。

以上、溝の出土遺物を中心に報告を行って来たが、それらは全体からすれば一部であり、特に土器資料は未図化のものを多く残している。

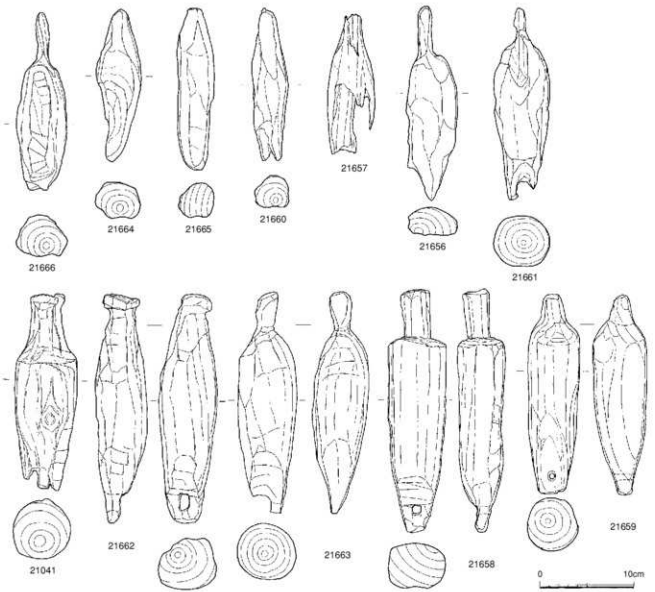


Fig.53　4次G～Ⅰ－11・12表採、G－11SK57土壙、F－11SK76土壙、Ⅰ－11SD01溝、
H－11SD－03溝、SP－41柱穴出土木器実測図（木錘）（1/4）

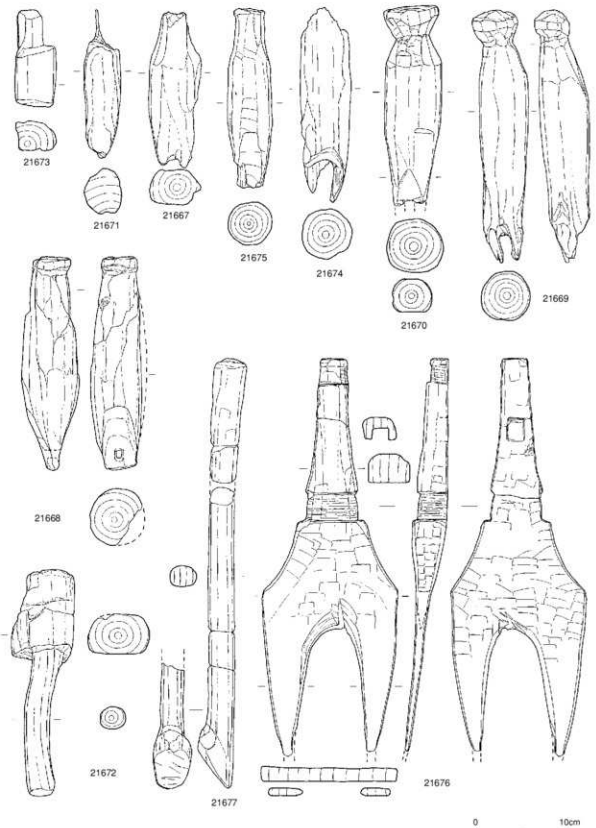


Fig.54　4次Ⅰ－12地区SD01溝出土木器実測図1（木錘・鍬柄・木槌・鋤）（1/4）

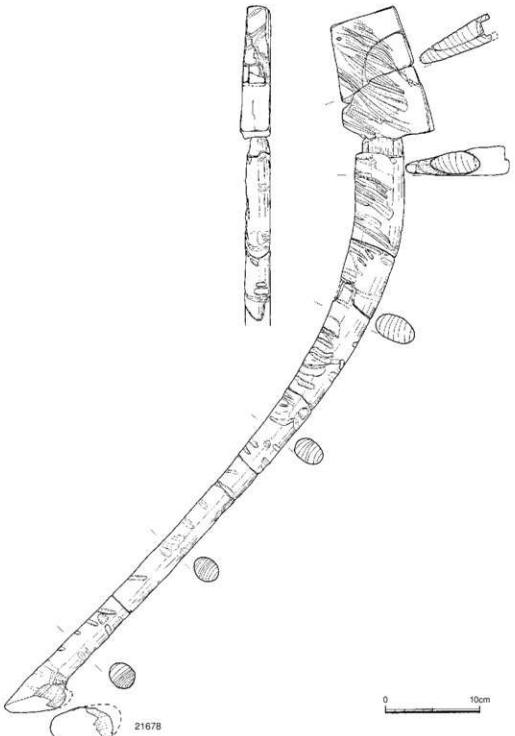


Fig.55　4次Ⅰ－12地区SD01溝出土木器実測図２（不明木器）（1/4）

4．掘立柱建物（Fig.3・56～66、PL.27～43）

掘立柱建物と考えられる遺構は、4次調査で44基が検出された。Ⅰ・Ｊ－11・12地区を中心に広く分布し、規模的には２×２間、２×３間の倉庫と考えられる総柱建物や２×４間、４×４間の側柱建物等が見られる。建物は一部には建て替えなどにより重複するものもあるが、多くは単期の所産ではないかと考えられよう。以下個別の建物について説明を加えるが、図中の柱穴では、アミ掛けしたものが、埋土中より何らかの遺物の出土したものである。

SB01建物（Fig.56・57・64）

26－１地区で検出した２×２間規模の建物で、柱間は２ｍを測る。柱穴３より杯蓋06677が出土した。倉庫と考えられる。

SB02建物（Fig.56・57・64）

８号支線道路調査区西側で検出した２×２間規模の南北建物で、柱間は梁間1.5m、桁行き２ｍを測る。柱穴２より甕06678・同３より甕06679が出土した。倉庫と考えられる。

SB03建物（Fig.56・57）

Ｋ－12地区で検出した２×４間規模の東西建物で、柱間は不揃いながら梁間２ｍ、桁行き1.5mを測る。柱穴１・２より土器破片が出土した。

SB04建物（Fig.56・57・64）

Ｋ－12地区で検出した２×２間規模の建物で、柱間は２ｍを測る。柱穴１からマリ破片06680が出土した。倉庫と考えられる。

SB05建物（Fig.56・57）

Ｋ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物で、柱間は２ｍを測る。倉庫と考えられる。

SB06建物（Fig.56・57・64）

Ｋ－12地区で検出した２×２間規模の建物で、柱間は２ｍ前後を測る。柱穴３からマリ破片06681が出土した。

SB07建物（Fig.56・57・64）

Ｊ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物で、柱間は２ｍ前後を測る。柱穴６から天井部の低い須恵器の杯蓋破片06682が出土した。倉庫と考えられる。

SB08建物（Fig.56・57）

Ｊ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物で、ややいびつであるが、柱間は２ｍ前後を測る。柱穴２・４から土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB09建物（Fig.56・58）

Ｊ－12地区で検出した１×２間規模の建物で、ややいびつであるが、柱間は２ｍ前後を測る。柱穴１・２・３から土器破片が出土した。

SB10建物（Fig.56・58・64）

Ｊ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物で、柱間は２ｍ前後を測る。柱穴１から須恵器甕口縁部の破片06683が出土した。倉庫と考えられる。

SB11建物（Fig.56・58・64）

Ｊ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物で、ややいびつである。柱間は２ｍ前後を測る。柱穴４から擬宝珠摘み06687、同６から杯蓋06685・06686が出土した。倉庫と考えられる。

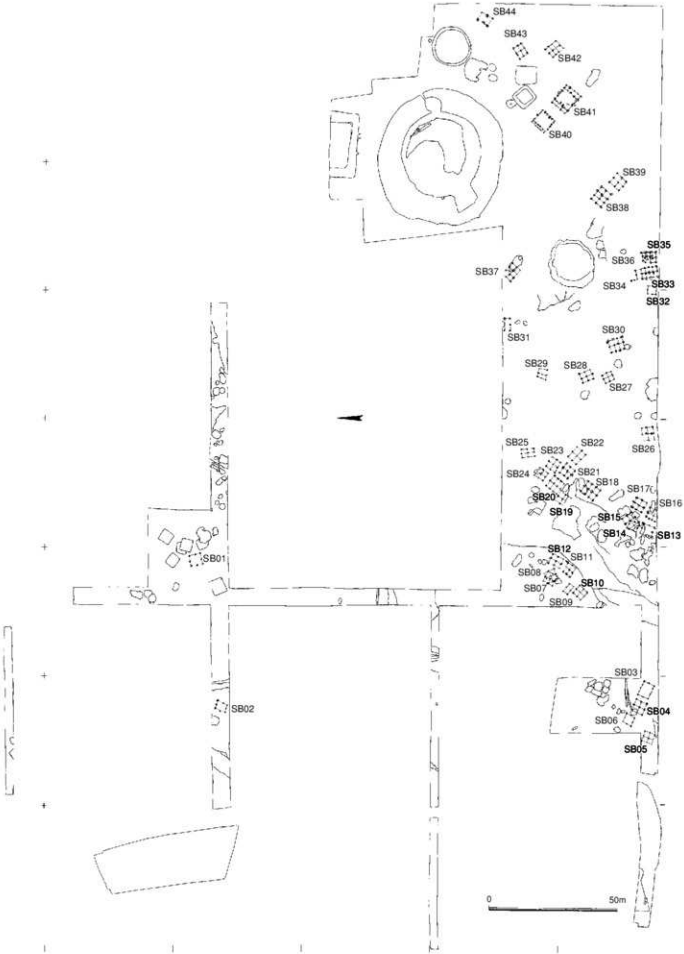


Fig.56　4次調査掘立柱建物群全体図

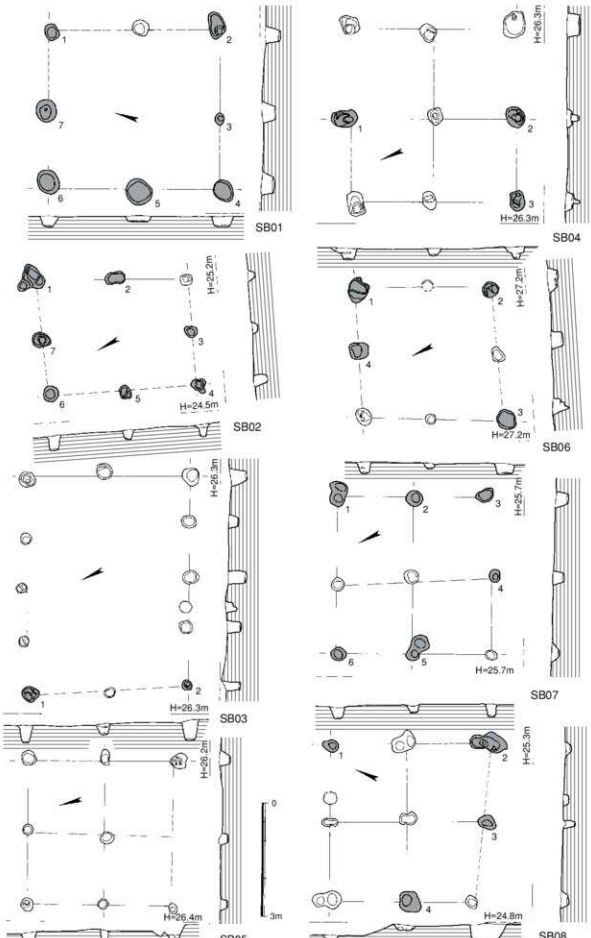


Fig.57　4次SB01～08建物出土状況実測図（1/100）

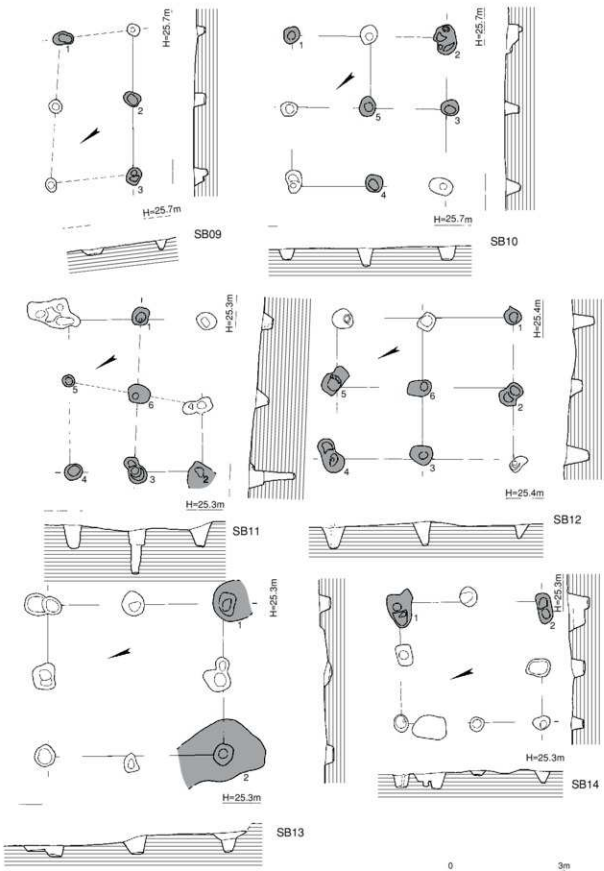


Fig.58　4次SB09～14建物出土状況実測図（1/100）

SB12建物（Fig.56・58・64）

Ｊ－12地区で検出した２×２間規模の総柱南北棟建物である。柱間は２m強を測る。柱穴１より須恵器甕06688・同４より小型ジョッキ型土器06690・同５より土師器高杯06691・同６より須恵器杯蓋06689が出土した。倉庫と考えられる。

SB13建物（Fig.56・58・64）

Ｉ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物である。柱間は２m前後を測る。柱穴２より浅い須恵器杯身06692・脚破片06693が出土した。

SB14建物（Fig.56・58）

Ｉ－12地区で検出した２×２間規模の建物である。ややいびつであるが、柱間は1.5m前後を測る。柱穴１・２より土器破片が出土した。

SB15建物（Fig.56・59）

Ｉ－12地区で検出した２×２間規模の建物である。柱間は２m弱を測る。倉庫と考えられる。

SB16建物（Fig.56・59）

Ｉ－12地区で検出した２×３間規模の建物である。柱間は２m強を測る。柱穴１～６より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB17建物（Fig.56・59）

Ｉ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物である。柱間は２mを測る。倉庫と考えられる。

SB18建物（Fig.56・59・64）

Ｉ－12地区で検出した２×３間規模の総柱の南北棟建物である。柱間は、梁間２m強・桁行き２mを測る。柱穴１鉢形土器06694が出土した。倉庫と考えられる。

SB19建物（Fig.56・59・64）

Ｉ－12地区で検出した２×２間規模の総柱南北棟建物である。柱間は、梁間２m・桁行き2.5mを測る。柱穴４より杯身06695・杯06696が出土した。倉庫と考えられる。

SB20建物（Fig.56・59・64）

Ｉ－12地区で検出した２×３間規模の総柱南北棟建物である。柱間は、梁間２m・桁行き2.5mを測る。柱穴１より弥生後期複合口縁壺06697が出土した。倉庫と考えられる。

SB21建物（Fig.56・61・64）

Ｉ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物である。ややいびつである。柱間は、２mを測る。倉庫と考えられる。

SB22建物（Fig.56・61）

Ｉ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物である。ややいびつである。柱間は、２mを測る。倉庫と考えられる。

SB23建物（Fig.56・61）

Ｉ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物である。柱間は、２mを測る。柱穴１～６より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB24建物（Fig.56・61）

Ｉ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物である。柱間は、２mを測る。倉庫と考えられる。

SB25建物（Fig.56・61）

Ｉ－12地区で検出した２×２間規模の総柱南北棟建物である。柱間は、梁間1.5m強、桁行き2.5mを測る。柱穴１・２より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

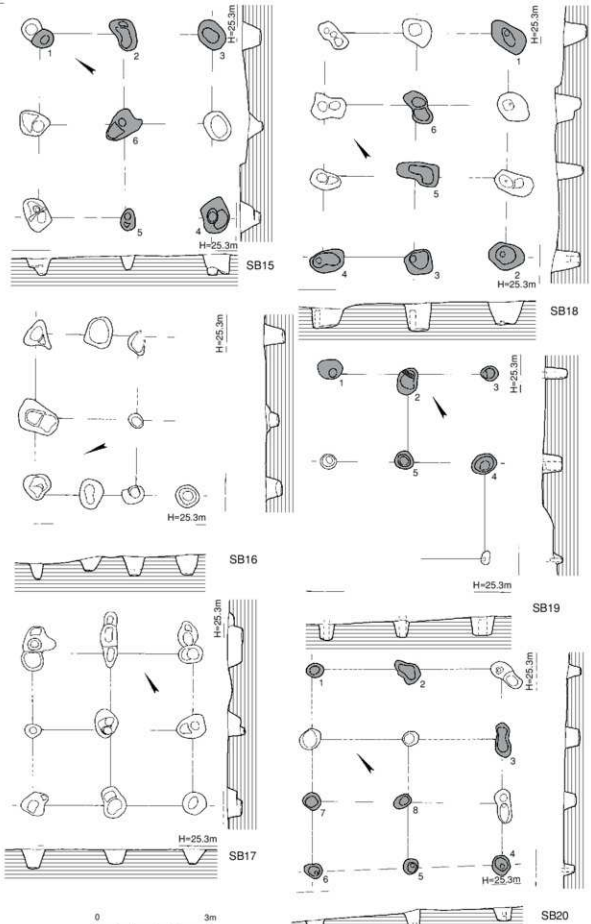


Fig.59　4次SB15～20建物出土状況実測図（1/100）

SB26建物（Fig.56・61・64）

Ⅰ－12地区南端で検出した２×２間規模の総柱建物である。柱間は、２m強を測る。柱穴１より土師器小型甕口縁部破片06699が出土した。倉庫と考えられる。

SB27建物（Fig.56・62・64）

Ｈ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物である。小型で、ややいびつである。柱間は、1.5mを測る。柱穴１より土師器鉢06700・同高杯06702、同３より土師器甕06701が出土した。倉庫と考えられる。

SB28建物（Fig.56・62・64）

Ｈ－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物である。柱間は、２mを測る。柱穴４より須恵器杯身06705・同高杯06706、同５より土師器高杯06704・須恵器広口甕06703、同６より土師器マリ06711・同甕06710、同７より土師器甕06709・須恵器器台脚06708、同８より土師器マリ06707が出土した。倉庫と考えられる。

SB29建物（Fig.56・62・64）

Ｈ－11地区で検出した２×２間規模の建物である。ややいびつである。柱間は、1.5～２m強を測る。柱穴１より平行タタキに指で平行線を描く大型甕破片が出土した。

SB30建物（Fig.56・62・64）

Ｈ－12地区で検出した２×３間規模の総柱南北棟建物である。柱間は、梁間2.5m・桁行き２mを測る。柱穴１より大型の土師器甕破片06713が出土した。倉庫と考えられる。

SB31建物（Fig.56・62）

Ｈ－11地区で検出した１×２間規模の東西棟建物である。柱間は、梁間2.5m・桁行き２m強を測る。柱穴１より土器破片が出土した。

SB32建物（Fig.56・62・64）

Ｇ－12地区で検出した２×２間規模の建物である。柱間は、1.5mを測る。柱穴２土師器甕破片06714が出土した。

SB33建物（Fig.56・62・64）

Ｇ－12地区で検出した２×４間規模の総柱南北建物である。柱間は、梁間2.5m、桁行き２mを測る。柱穴５より土師器高杯脚破片06715が出土した。大型倉庫と考えられる。

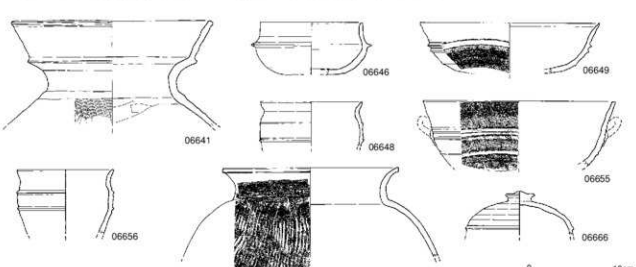


Fig.60　溝出土遺物実測図10（Ｌ－８・９SD01、２号支線道路SD02）（1/4）

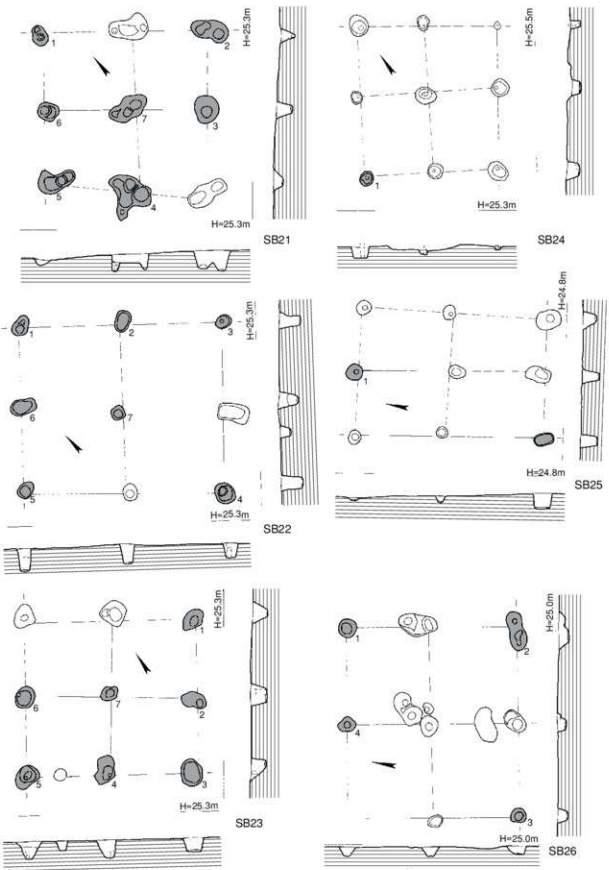


Fig.61　4次SB21～26建物出土状況実測図（1/100）

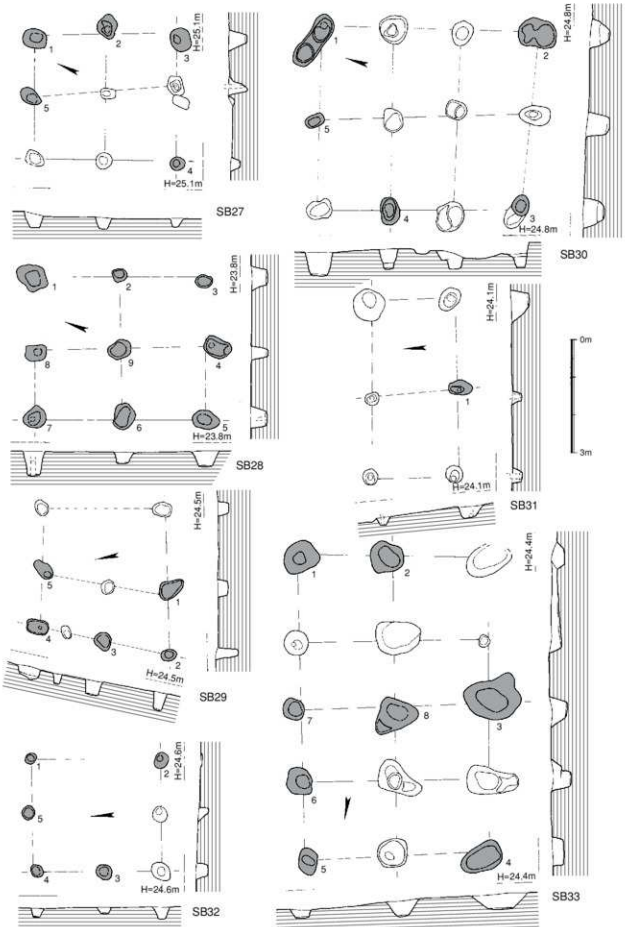


Fig.62　4次SB27～33建物出土状況実測図（1/100）

SB34建物（Fig.56・63）

G－12地区で検出した２×２間以上の規模と考えられる建物である。北側を欠く。柱間は、２～1.5mを測る。柱穴１～４より土器破片が出土した。

SB35建物（Fig.56・63・64）

G－12地区で検出した２×２間規模の総柱建物である。柱間は、2.5m強を測り、掘り方もやや大きい。柱穴１より須恵器小型高杯脚破片06716が出土した。倉庫と考えられる。

SB36建物（Fig.56・63）

G－12地区南端で検出した２×２間規模の総柱建物である。ややいびつである。柱間は、２m強を測る。柱穴１～６より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB37建物（Fig.56・63）

G－11地区で検出した２×３間規模の総柱南北棟建物である。掘り方規模は、小さい。梁・桁長ともに２mを測る。倉庫と考えられる。

SB38建物（Fig.56・63）

G－12地区南端で検出した２×３間規模の総柱南北棟建物である。柱間は、梁間2.5m、桁行き２mを測る。柱穴１～６より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB39建物（Fig.63）

F－12地区北側で検出した２×２間規模の建物である。柱間は、2.5mを測る。倉庫と考えられる。

SB40建物（Fig.56・64・65）

F－12地区北側で検出した５×６間規模の側柱南北棟建物である。柱間は、不安定で２～１m強を測る。梁間６m弱、桁行き６mの規模である。柱穴６より口縁の肥厚する大型鉢破片06718、同７より土師器高杯杯部破片06717が出土した。住居と考えられる。

SB41建物（Fig.56・64・65）

F－12地区北側で検出した５×４間規模の側柱南北棟建物であり、両妻の１間分の張り出しは庇と考えられる。柱間は、不安定で2.5～1.5m強を測る。梁間７m弱、桁行き６mの規模である。柱穴３より土師器甕破片06724、同13よりマリ06720・06721、同15より土師器甕06719、同20より土師器甕06723が出土した。住居と考えられる。

SB42建物（Fig.56・64・66）

F－12地区北側で検出した２×３間規模の総柱南北棟建物である。ややいびつである。掘り方はやや小さい。柱間は、不安定で２m前後を測る。柱穴３より土師器甕破片06724が出土した。倉庫と考えられる。

SB43建物（Fig.56・66）

F－11地区南側で検出した２×２間規模の総柱南北棟建物である。ややいびつである。柱間は、不安定であるが、梁間２m、桁行き2.5m前後を測る。柱穴１～９より土器破片が出土した。小型の倉庫と考えられる。

SB44建物（Fig.56・66）

F－11地区東側で検出した１×２間規模の南北棟建物である。ややいびつである。柱間は、不安定であるが、梁間３m、桁行き2.5m前後を測る。柱穴１～６より土器破片が出土した。

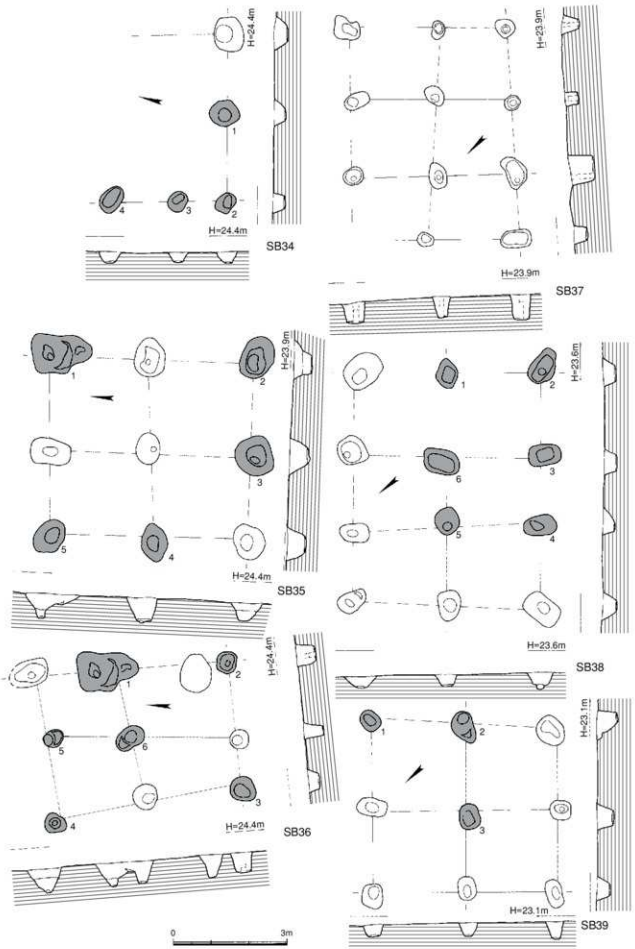


Fig.63　4次SB34～39建物出土状況実測図（1/100）

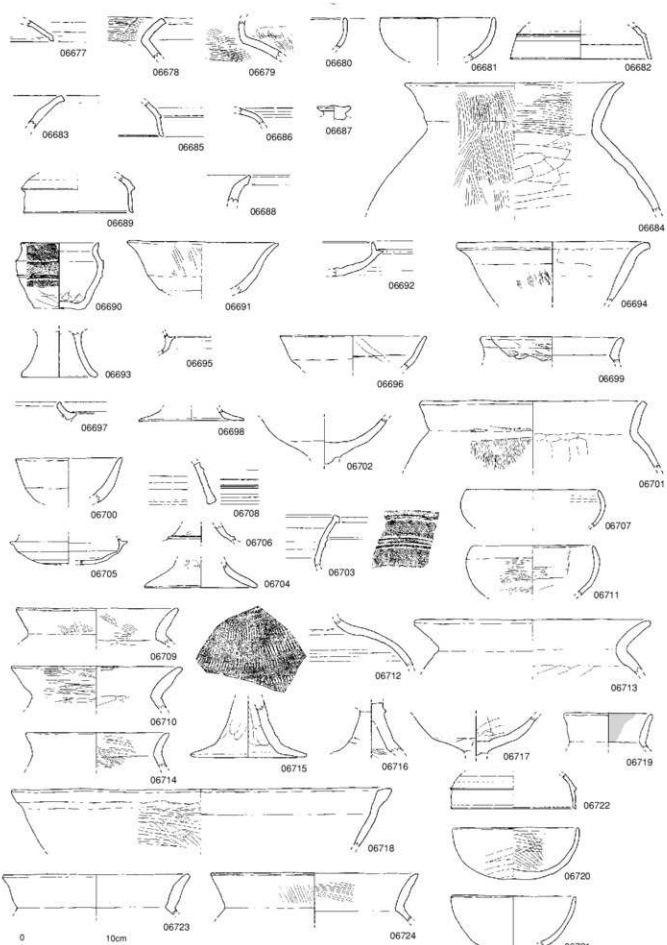
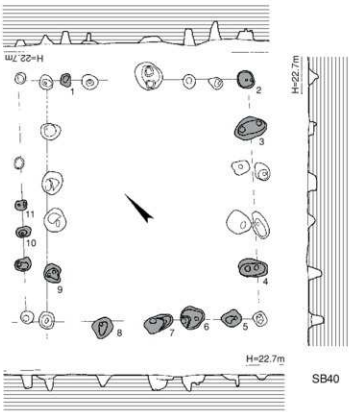


Fig.64　建物掘方出土遺物実測図（1/4）



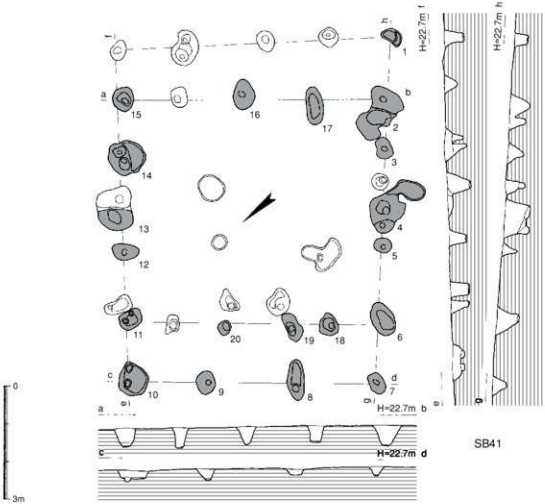


Fig.65　4次SB40・41建物出土状況実測図（1/100）

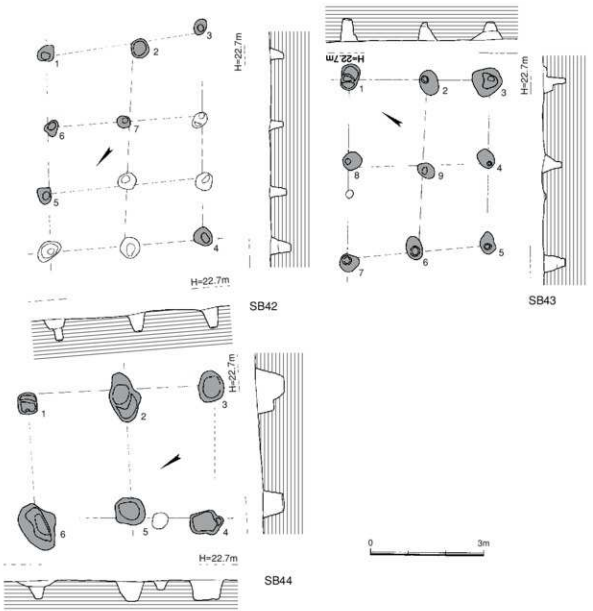


Fig.66　4次SB42・43・44建物出土状況実測図（1/100）

第四章　第６次調査報告

概　要　第６次調査は、前年度を上回る面積約36,000㎡の調査を行った。対象となったのは吉武遺跡群の南端区域の東西部分である。広大な面積のため航空測量による遺構実測図の作成なども行われた。６次調査で検出された古墳時代遺構は、既報告の竪穴住居跡を除けば、土壙117基（SK139～255）、溝状遺構15条（第Ⅰ区３条・第Ⅱ区５条・第Ⅲ区７条）、掘立柱建物40棟（SB45～84）などである。

しかしながら、遺構の密度や多数の柱穴の存在から建物跡などについては更にその数は増えるものと考えられる。以下個別遺構と出土遺物について説明を加えて行く。

１．土　壙（Fig.67～91、PL.38・44）

土壙は、調査区の第Ⅰ区西側から第Ⅱ区を中心に分布し、特に第Ⅱ区北側には建物と共に集中する傾向にある。特に大型のものは無いが、形状は様々であり、全体に削平を強く受けている。

以下、個別土壙とその出土遺物について述べる。

SK139土壙（Fig.68）　Ⅰ区東側道路調査区で検出したバチ形をなす小型土壙である。

SK140土壙（Fig.68）　Ⅰ区１号幹線道路調査区で検出した不整形の小型土壙である。

SK141土壙（Fig.68）　Ⅰ区東端側で検出した不整長方形の土壙である。溝状に伸びるか。

SK142土壙（Fig.68）　Ⅰ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK143土壙（Fig.68）　Ⅰ区東端側で検出した不整長方形の土壙である。

SK144土壙（Fig.68・73）　Ⅰ区北端側で検出した不整形の小土壙である。埋土中より須恵器杯蓋07002が出土した。

SK145土壙（Fig.68）　Ⅰ区北端側で検出した不整形の小土壙である。

SK146土壙（Fig.68）　Ⅰ区北端側で検出した不整円形の小土壙である。

SK147土壙（Fig.68・73）　Ⅰ区中央側で検出した不整形の大型土壙である。埋土中より須恵器杯蓋07003～07006、杯身07007・07008、高台07009、高杯07010・07013、甕07011・07012がある。また、土師器は、蓋07014、甕07016・07018・07017、高杯07015が出土した。

SK148土壙（Fig.69）　Ⅰ区中央側で検出した不整長方形の小型土壙である。

SK149土壙（Fig.69）　Ⅰ区中央側で検出した不整形の小型土壙である。

SK150土壙（Fig.69）　Ⅰ区中央側で検出した不整形の小型土壙である。

SK151土壙（Fig.69・73）　Ⅰ区中央側で検出した不整形の大型土壙である。埋土中より立ち上がり内面に段を有する深い杯身07019が出土した。

SK152土壙（Fig.69・73）　Ⅰ区中央側で検出した不整形のやや大型の土壙である。

SK153土壙（Fig.69）　Ⅰ区中央側で検出した不整形の小型土壙である。

SK154土壙（Fig.69）　Ⅰ区中央側で検出した隅丸長方形の小型土壙である。

SK155土壙（Fig.69）　Ⅰ区南端側で検出した大型の不整形の土壙である。

SK156土壙（Fig.71・73）　Ⅱ区東端側で検出した不整形の大型土壙である。埋土中より立ち上がり内面に段を有する深い杯身07021、はそう07022、大型器台脚07024、土師質で黒色顔料を塗布した椀07025が出土した。

SK157土壙（Fig.71・73）　Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中より立ち上がりの小さい須恵器杯蓋07026が出土した。

SK158土壙（Fig.71・73） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中より立ち上がりの小さい須恵器杯蓋07027が出土した。

SK159土壙（Fig.71） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK160土壙（Fig.71・73） Ⅱ区東端側で検出した長辺が4.5mを越す長楕円形の大型土壙である。埋土中より須恵器摘み付き杯蓋07028、杯身07029・07030、無蓋高杯07031や土師器マリ07032、算盤玉形紡錘車07033が出土した。

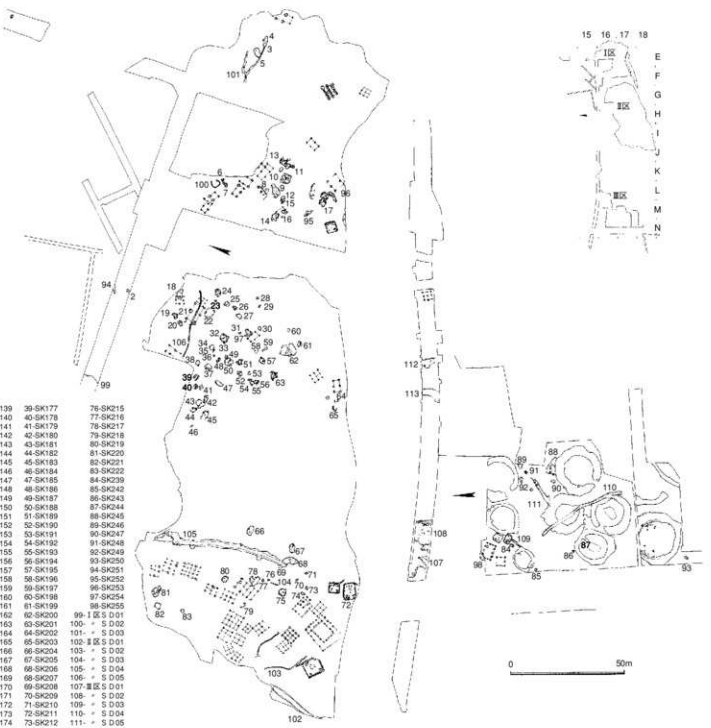


Fig.67 第６次調査全体図

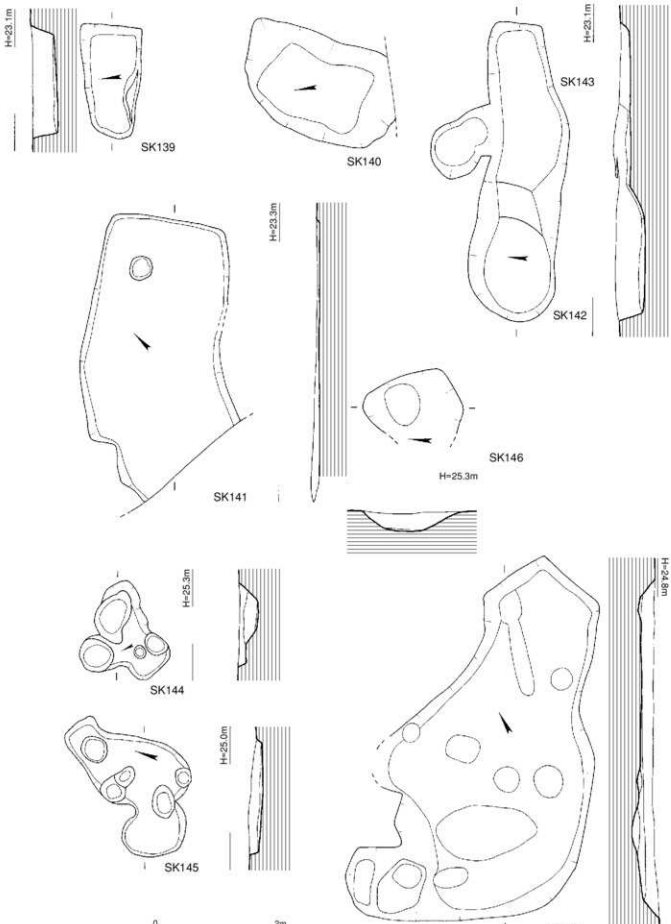


Fig.68　6次SK139～147土壙出土状況実測図（1/60）

SK161土壙（Fig.71） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK162土壙（Fig.71・73） Ⅱ区東端側で検出した不整形の土壙である。埋土中より土師器甕07034が出土した。

SK163土壙（Fig.71） Ⅱ区東側で検出した不整円形の小型土壙である。

SK164土壙（Fig.72・73） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中より弥生中期土器甕07035が出土した。

SK165土壙（Fig.72・76） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中より土師器マリ07036・同甕07037・同小型甕07038が出土した。

SK166土壙（Fig.72） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中より土師器マリ07036・同甕07037・同小型甕07038が出土した。

SK167土壙（Fig.72） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK168土壙（Fig.72） Ⅱ区東端側で検出した不整楕円形の小型土壙である。

SK169土壙（Fig.72） Ⅱ区東端側で検出した不整円形の小型土壙である。

SK170土壙（Fig.72・76） Ⅱ区東端側で検出した不整な隅丸方形に近い大型土壙である。埋土中より須恵器甕破片07039・土師器大型甕07040が出土した。

SK171土壙（Fig.72） Ⅱ区東端側で検出した長方形形の小型土壙である。

SK172土壙（Fig.72・76） Ⅱ区東端側で検出した不整な隅丸方形に近い中型土壙である。埋土中より口縁部の屈曲の著しい土師器甕07041・07042が出土した。

SK173土壙（Fig.72・76） Ⅱ区東端側で検出した不整な長方形に近い小型土壙である。埋土中より器高の低い須恵器杯蓋07043・07044、立ち上がりの短い杯身07045・07046、方形透かしの高杯07047、土師器マリ07048、同甕07049が出土した。

SK174土壙（Fig.72） Ⅱ区東端側で検出した不整な長方形小型土壙である。

SK175土壙（Fig.72） Ⅱ区東端側で検出した不整な長方形の大型土壙である。

SK176土壙（Fig.72） Ⅱ区東端側で検出した不整な方形に近い中型土壙である。

SK177土壙（Fig.72・76） Ⅱ区東端側で検出した不整な方形に近い中型土壙である。埋土中より立ち上がりの大きい須恵器杯身07050、高杯07051・07052、土師器マリ07053、同甕07055が出土した。

SK178土壙（Fig.74） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK179土壙（Fig.74・76） Ⅱ区東端側で検出した不整円形の小型土壙である。埋土中より土師器大型甕07056が出土した。

SK180土壙（Fig.74） Ⅱ区東端側で検出した不整長方形の小型土壙である。

SK181土壙（Fig.74） Ⅱ区東端側で検出した不整形の大型土壙である。埋土中より須恵器小型はそう07058、土師器盤07059、土師器小型甕07060が出土した。

SK182土壙（Fig.74） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK183土壙（Fig.74） Ⅱ区東端側で検出した不整な長方形の大型土壙である。

SK184土壙（Fig.74） Ⅱ区東端側で検出した不整な長方形の中型土壙である。

SK185土壙（Fig.74・76） Ⅱ区東端側で検出した不整な長方形の大型土壙である。埋土中より深く、立ち上がりの小さい須恵器杯身07063が出土した。

SK186土壙（Fig.74） Ⅱ区東端側で検出した不整な長方形の小型土壙である。

SK187土壙（Fig.75） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK188土壙（Fig.75） Ⅱ区東端側で検出した不整円形の大型土壙である。埋土中より土師器マリ

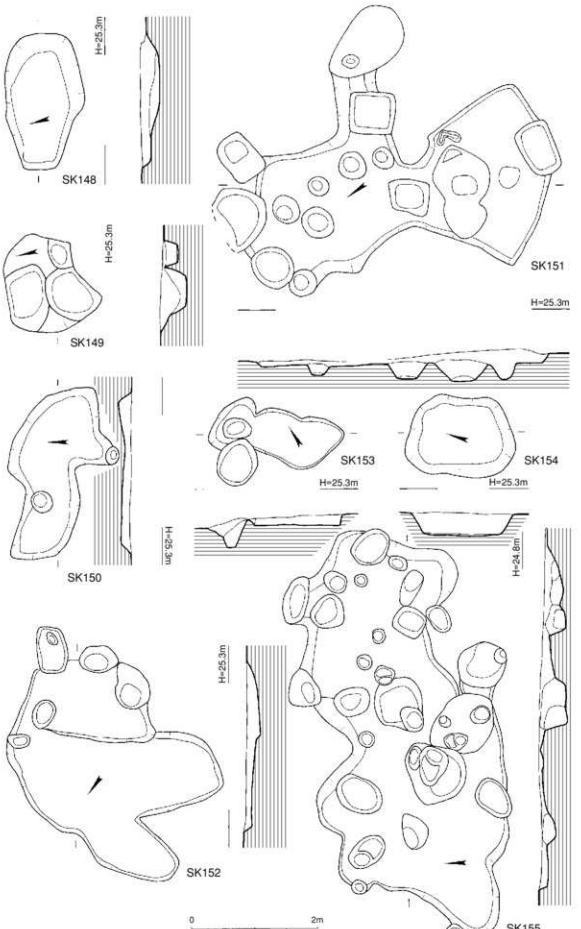


Fig.69　6次SK148～155土壙出土状況実測図（1/60）

07064、同高台杯椀07065、同高杯07066、同甕07067が出土した。

SK189土壙（Fig.75・76） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中より須恵器無蓋高杯07068、土師器甕07069が出土した。

SK190土壙（Fig.75・76） Ⅱ区東端側で検出した不整方形の中型土壙である。埋土中より浅い須恵器杯身07070が出土した。

SK191土壙（Fig.75） Ⅱ区東端側で検出した不整円形の小型土壙である。

SK192土壙（Fig.75） Ⅱ区東端側で検出した不整円形の小型土壙である。

SK193土壙（Fig.75） Ⅱ区東端側で検出した不整長方形の中型土壙である。

SK194土壙（Fig.75） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK195土壙（Fig.75） Ⅱ区東端側で検出した不整形の中型土壙である。

SK196土壙（Fig.75・77） Ⅱ区東端側で検出した不整形の中型土壙である。埋土中より器高の低い須恵器杯蓋07071が出土した。

SK197土壙（Fig.75・77） Ⅱ区東端側で検出した長方形の土壙である。埋土中より器高の低い須恵器杯蓋07072、土師器マリ07073が出土した。

SK198土壙（Fig.75） Ⅱ区東端側で検出した隅丸長方形の小型土壙である。

SK199土壙（Fig.77） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK200土壙（Fig.77・78） Ⅱ区東端側で検出した不整でやや深い、大型の土壙である。埋土中より須恵器杯蓋07074・07075・07076や立ち上がりの内傾化の著しい同杯身07077・07078・07079、無蓋高杯07080、長頸のはそう07081、甕類07082・07083・07084がある。また、土師器マリ07085・07086、同高杯07087・07088、同甕07089・07090、把手付き甑07091・07092がある。他に算盤玉形紡錘車07093・07094が伴う。

SK201土壙（Fig.77） Ⅱ区東端側で検出した不整形の大型土壙である。埋土中より立ち上がりの高い須恵器杯身07095が出土した。

SK202土壙（Fig.77） Ⅱ区東端側で検出した円形の小型土壙である。

SK203土壙（Fig.77） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK204土壙（Fig.79・83） Ⅱ区東端側で検出した不整形の小型土壙である。

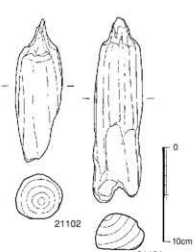


Fig.70　6次SK01・09土壙出土木器実測図（1/4）（木錘）

SK205土壙（Fig.79・83） Ⅱ区西端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中より玉縁口縁を有する須恵器甕07096が出土した。

SK206土壙（Fig.79・83） Ⅱ区西端側で検出した長円形の大型土壙である。埋土中から須恵器杯蓋07101、同大型甕07102が出土した。

SK207土壙（Fig.79・83） Ⅱ区西端側で検出した不整形の大型土壙である。埋土中より摘み付き須恵器杯蓋07104、同須恵器杯身07105、同高杯07109・07106、同大型器台07107、同甕07108が出土した。

SK208土壙（Fig.79・83） Ⅱ区西端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中から須恵器杯蓋07110、同杯身07111、土師器マリ07112が出土した。

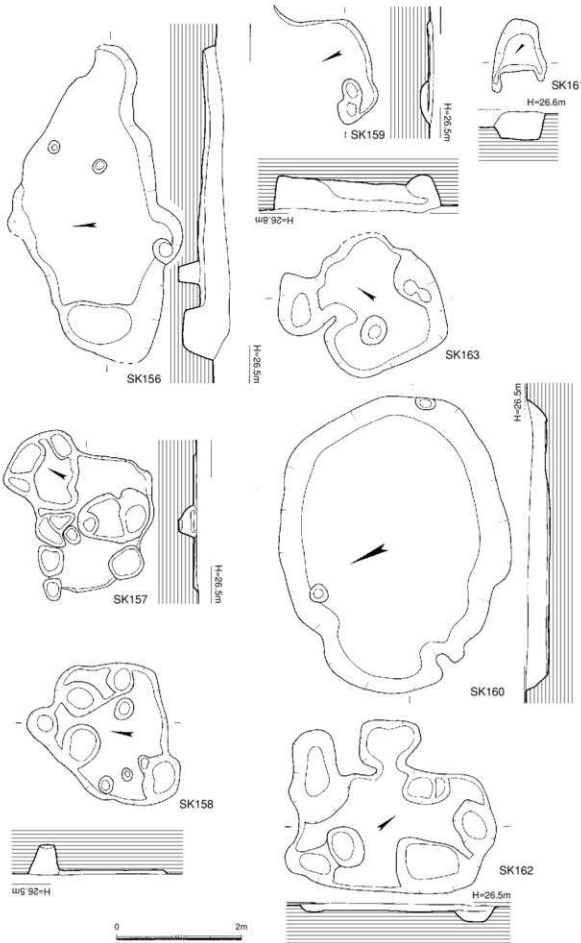


Fig.71　6次SK156～163土壙出土状況実測図（1/60）

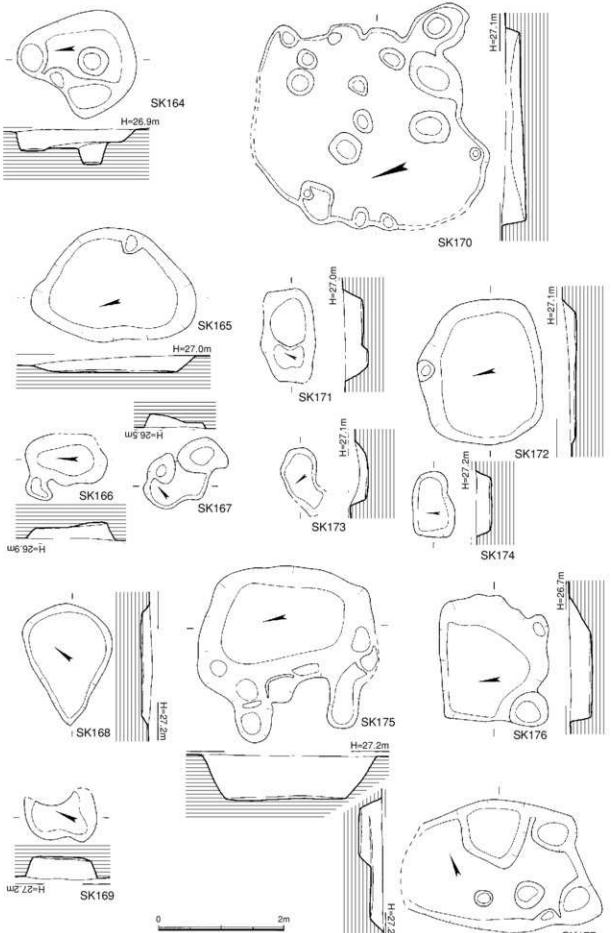


Fig.72　6次SK164～177土壙出土状況実測図（1/60）

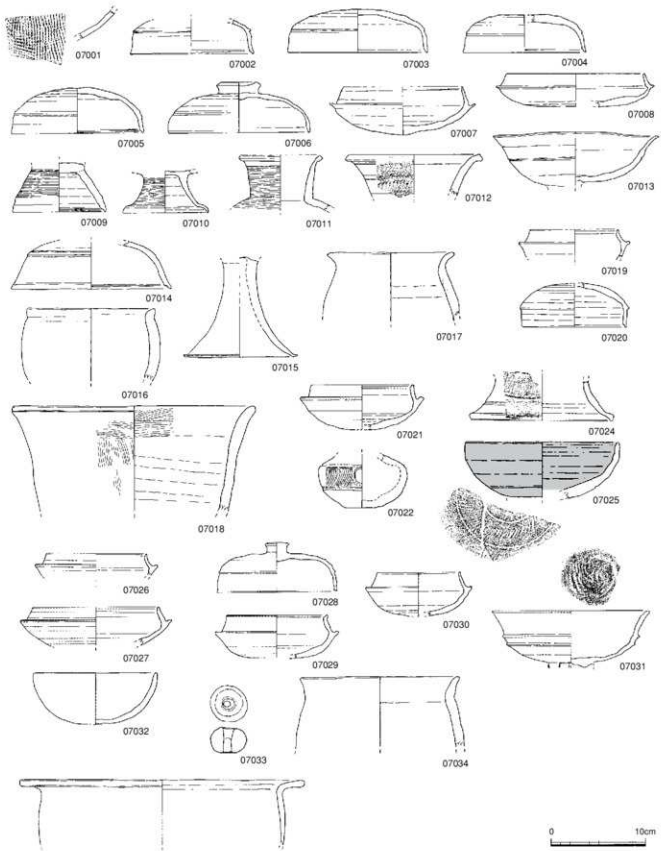


Fig.73　土壙出土遺物実測図1（SK144・147・151・156～158・160・162・164）（1/4）

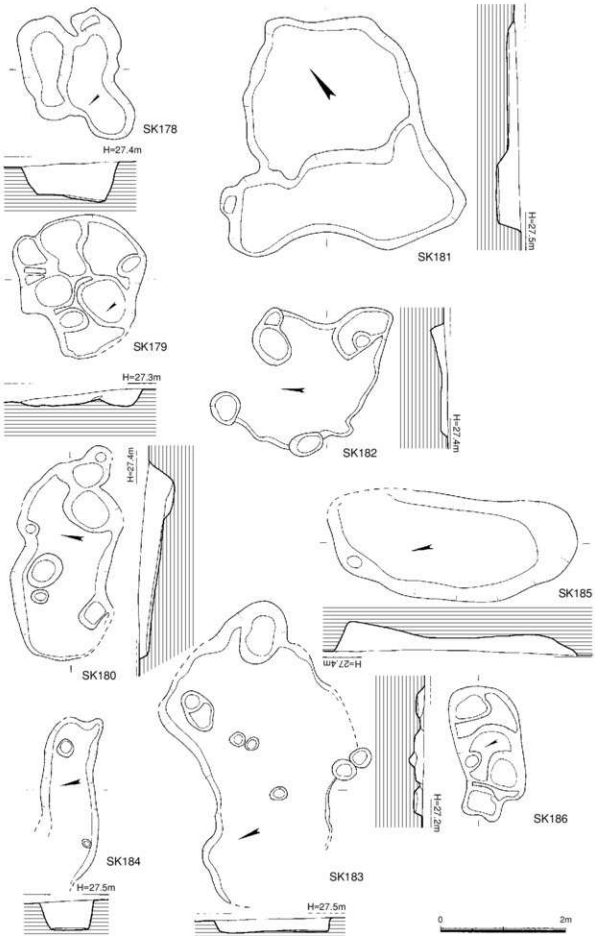


Fig.74　6次SK178～186土壙出土状況実測図（1/60）

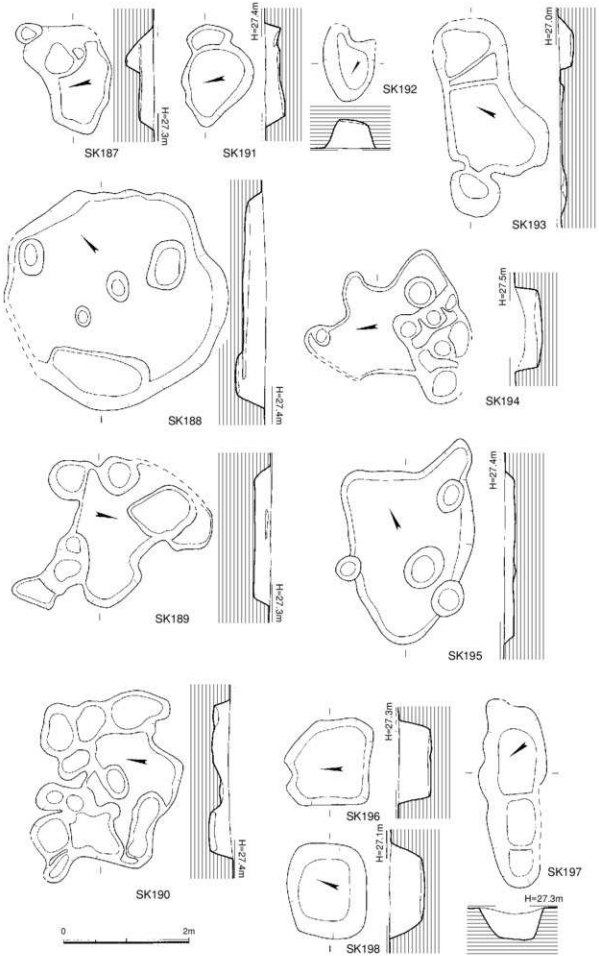


Fig.75　6次SK187～198土壙出土状況実測図（1/60）

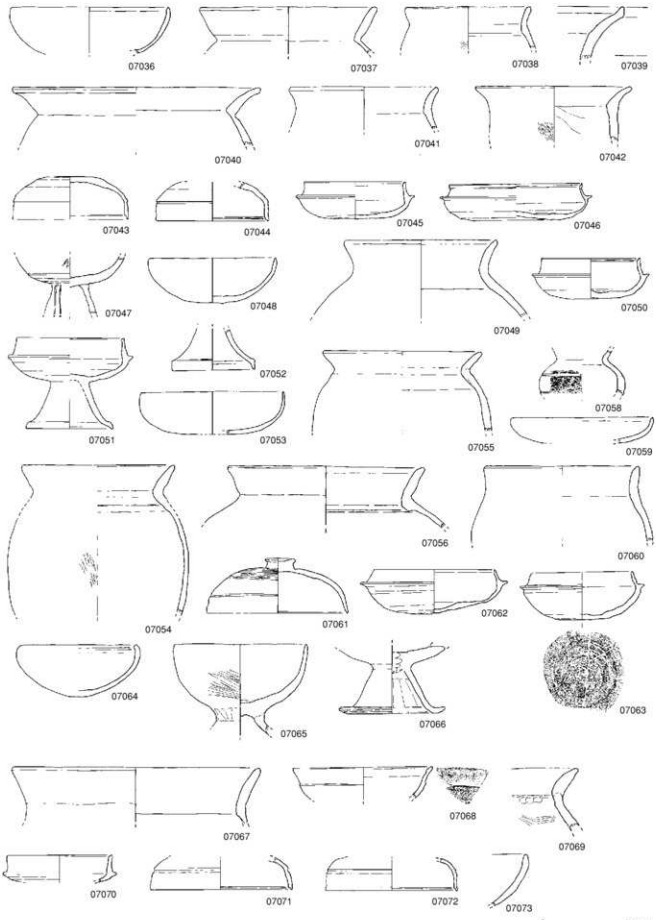


Fig.76　土壙出土遺物実測図２（SK165・170・172・173・177・179・181・183・185・188～190・196・197）（1/4）

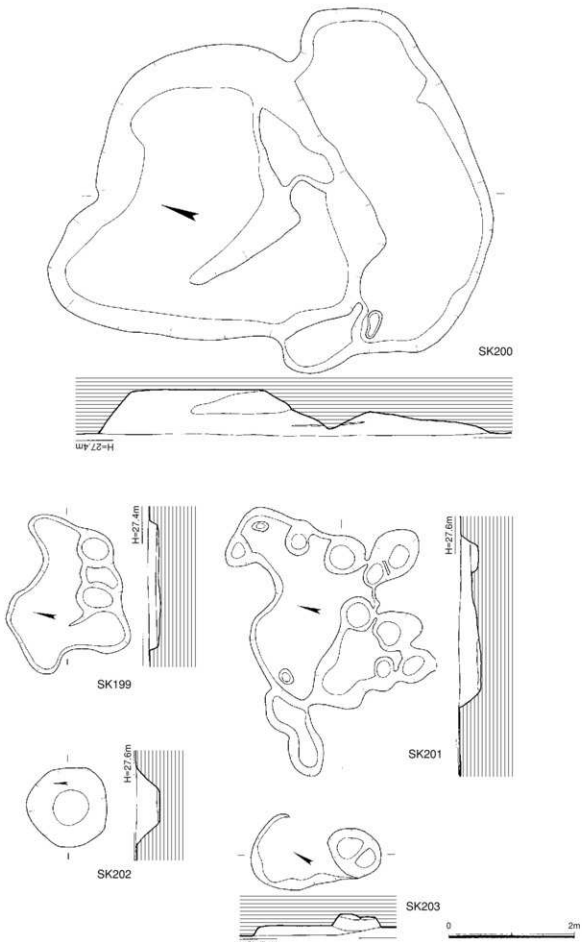


Fig.77　6次SK199～203土壙出土状況実測図（1/60）

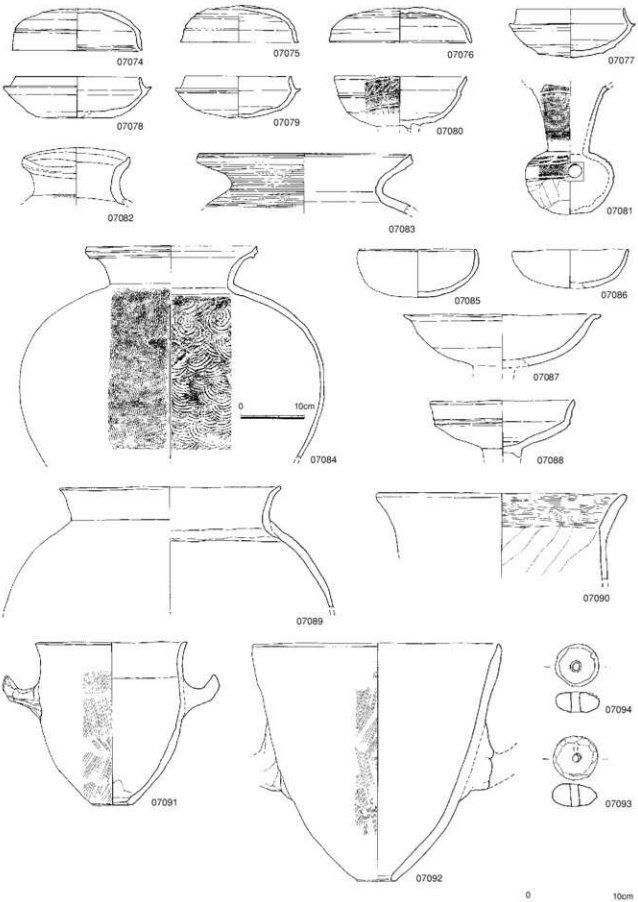


Fig.78　土壙出土遺物実測図３（SK200）（1/4、1/6）

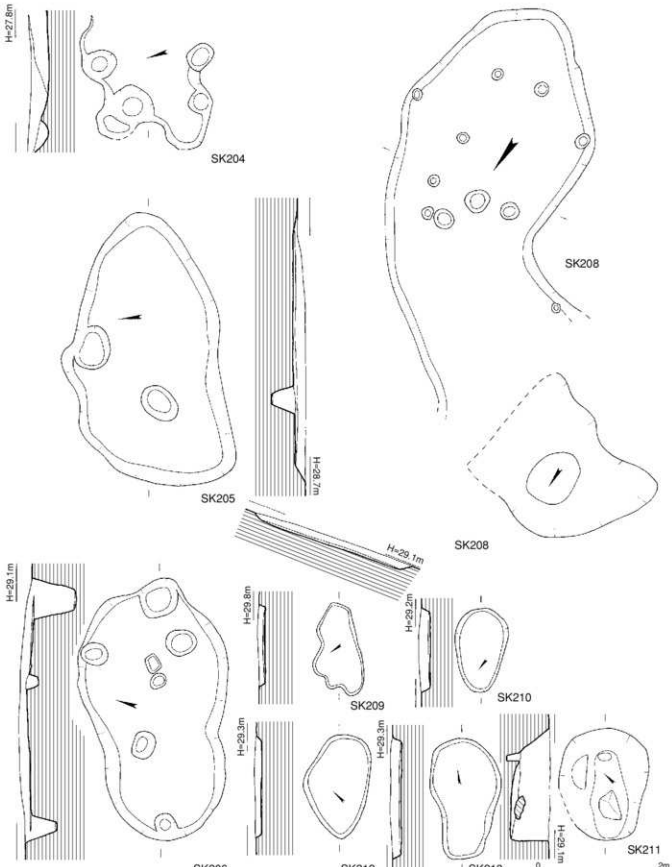


Fig.79　6次SK204～213土壙出土状況実測図（1/60）

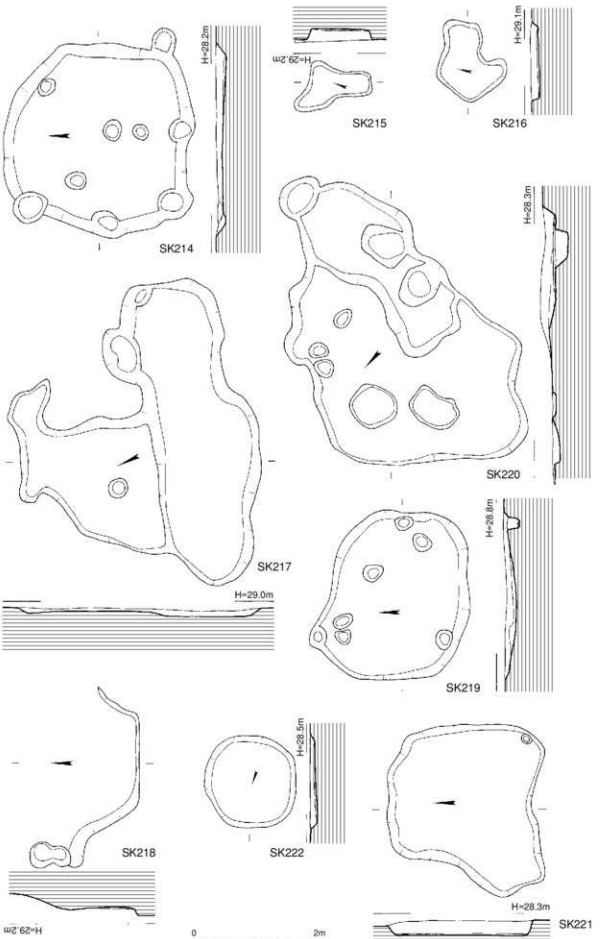


Fig.80　6次SK214～222土壙出土状況実測図（1/60）

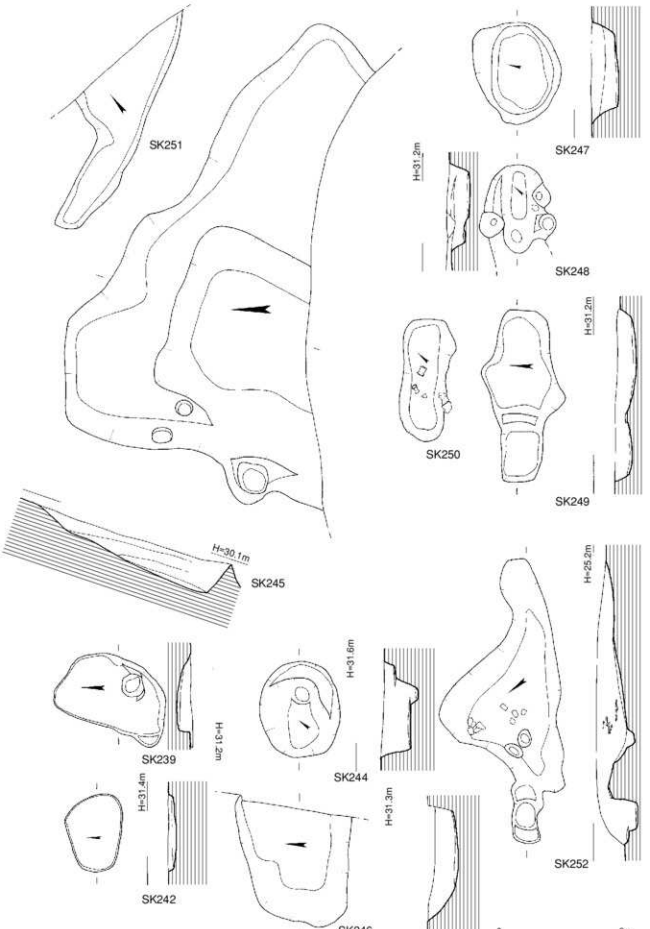


Fig.81　6 次SK239・242・244～252土壙出土状況実測図（1/60）

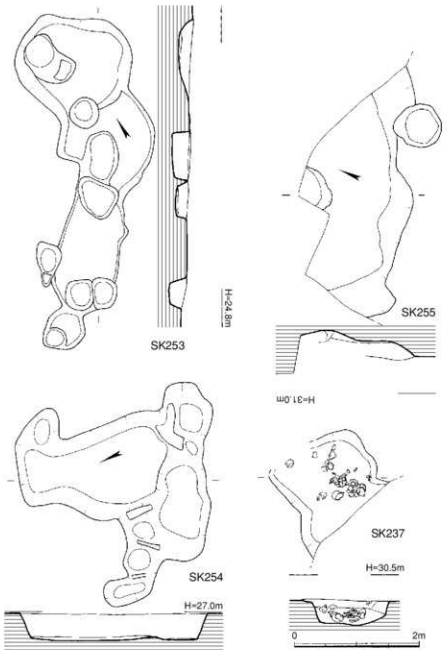


Fig.82　6次SK237・253～255土壙出土状況実測図（1/60）

SK209土壙（Fig.79）　Ⅱ区西端側で検出した円形の小型土壙である。

SK210土壙（Fig.79）　Ⅱ区西端側で検出した円形の小型土壙である。

SK211土壙（Fig.79）　Ⅱ区西端側で検出した長円形の小型土壙である。

SK212土壙（Fig.79）　Ⅱ区西端側で検出した長円形の小型土壙である。

SK213土壙（Fig.79・83）　Ⅱ区西端側で検出した長円形の小型土壙である。埋土中より須恵器甕07115が出土した。

SK214土壙（Fig.80・83）　Ⅱ区西端側で検出した長方形の大型土壙である。埋土中より須恵器杯身07117、土師器高台07118、同甕07120・07119が出土した。

SK215土壙（Fig.80・83）　Ⅱ区西端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中より土師器甕07121が出土した。

SK216土壙（Fig.80・83）　Ⅱ区西端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中より土師器マリ07122が出土した。

SK217土壙（Fig.80・83）　Ⅱ区西端側で検出した不整形の大型土壙である。埋土中より須恵器杯身07123・07124、同有蓋壺07125、同器台07126・07127、土師器高杯07128～07130が出土した。

SK218土壙（Fig.80・84）　Ⅱ区西端側で検出した不整形の小型土壙である。埋土中より須恵器杯蓋07131、同無蓋高杯07132が出土した。

SK219土壙（Fig.80）　Ⅱ区西端側で検出した長方形の土壙である。

SK220土壙（Fig.80・84）　Ⅱ区西端側で検出した不整形の大型土壙である。埋土中より須恵器杯蓋07133、同杯身07134、同高杯07135、同はそう07136、同大型器台07137が出土した。

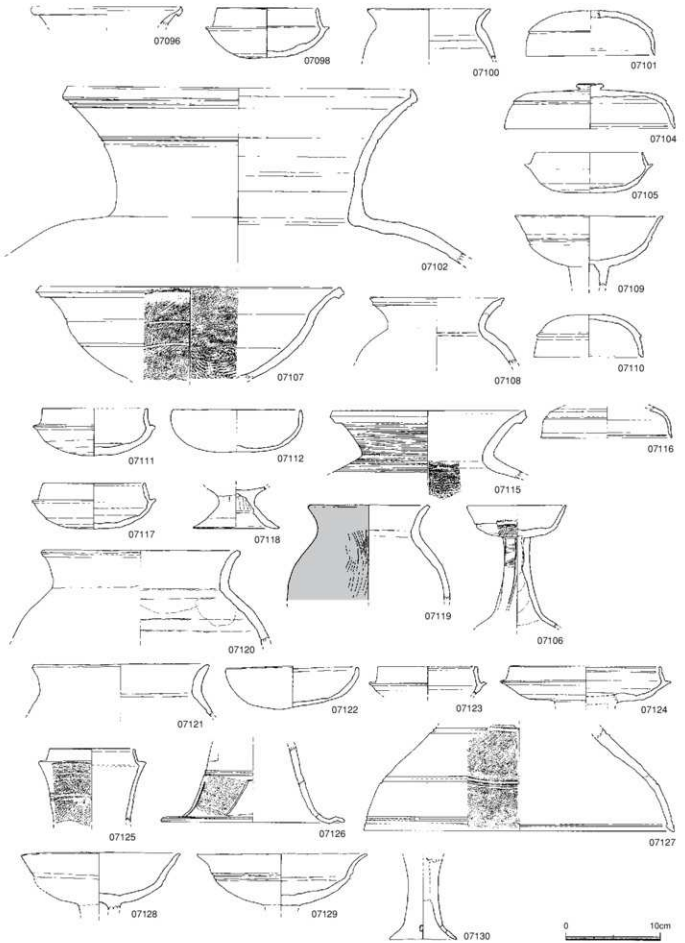


Fig.83　土壙出土遺物実測図 4（SK201・204～208・213～217）（1/4）

SK221土壙（Fig.80） Ⅱ区西端側で検出した不整形の小型土壙である。

SK222土壙（Fig.80） Ⅱ区西端側で検出した円形の小型土壙である。

SK223・224・225・226・230・232・236・237・238土壙（Fig.67・84・85） Ⅱ区西端側で検出した土壙群である。各土壙から須恵器・土師器の土器類が出土した

SK239土壙（Fig.81） Ⅱ区西端側で検出した不整長方形の小型土壙である。埋土中より須恵器杯身07159が出土した。

SK242・244・246～250・252～255土壙（Fig.81・82・85） Ⅱ区西端側・Ⅲ区で検出した土壙群である。これらに伴う遺物類も少量ではあるが出土した。

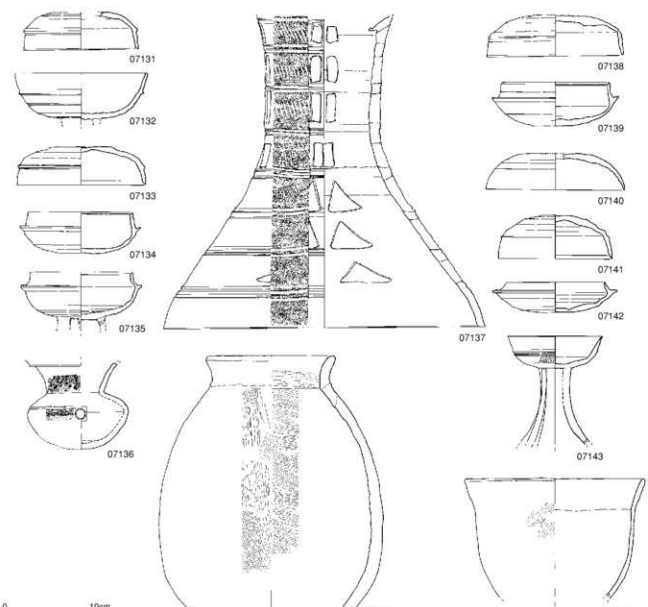


Fig.84 土壙出土遺物実測図５（SK218・220・224～226）（1/4）

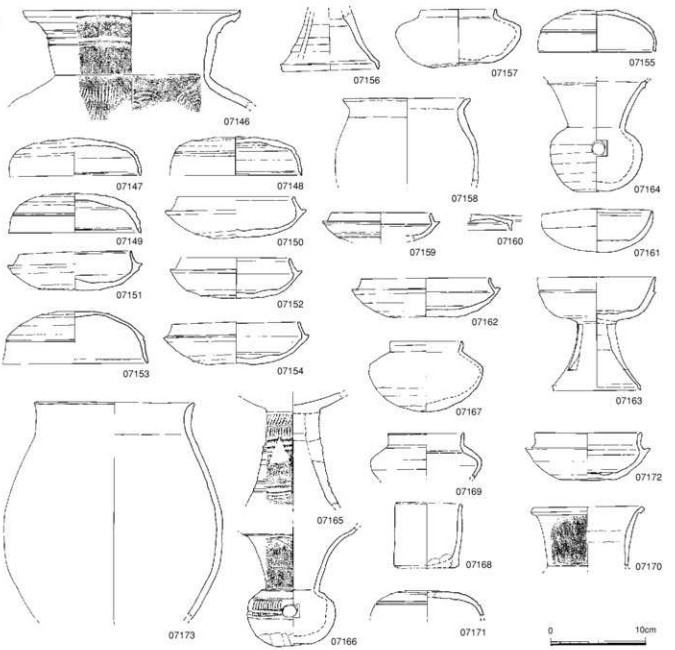


Fig.85　土壙出土遺物実測図６（SK230・232・235～237・239・240・245・250・253・254）（1/4）

２．溝状遺構（Fig.86～91、PL.38・44～46）

古墳時代の溝は、調査区第Ⅰ区で３条、第Ⅱ区５条、第Ⅲ区７条の計15条が検出された。

溝は、建物等の排水溝や集落内の排水或いは区画溝と考えられる。

（第Ⅰ区）（Fig.86・90）

SD01～03の３条である。大型のSD03溝、細い排水状の小溝SD02、樹枝状に伸びるSD03などで、それぞれに須恵器杯蓋・広口甕が伴っている。

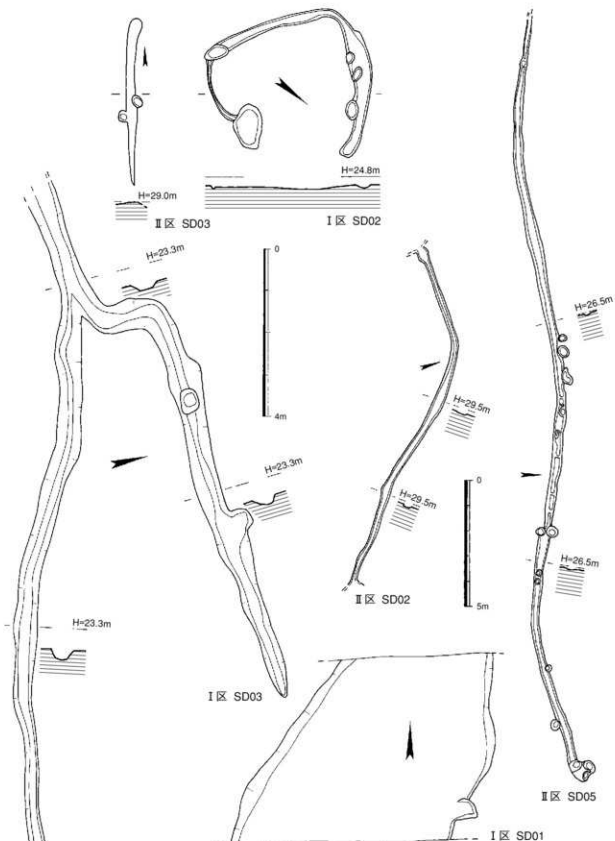


Fig.86　6次Ⅰ区－SD01・02・03、Ⅱ区－SD02・03・05溝出土状況

（第Ⅱ区）（Fig.86・87・90）

SD01～05溝がこれにあたる。このうち、SD01溝、SD04溝はⅡ区西端部の竪穴住居・掘立柱建物群の集中する区域にあり、これらを区画或いは排水も兼ねた施設である可能性がある。

各溝内からは、須恵器杯類や高杯、大型器台などが多く出土し、集落の中心区域の一つと考えることができる。

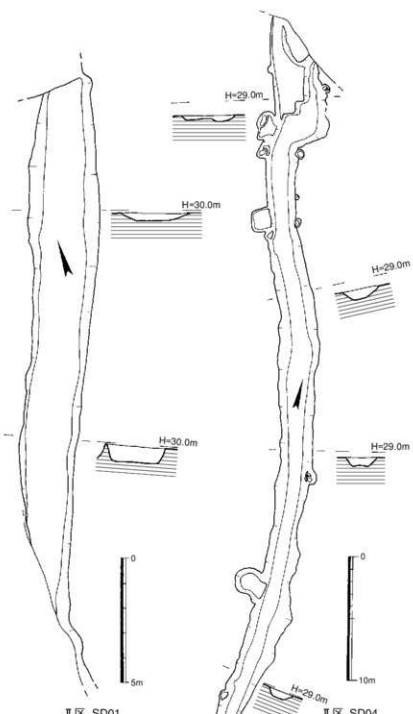


Fig.87　6次Ⅱ区－SD01・04溝出土状況

（第Ⅲ区）（Fig.88・89・90・91）

SD01～07溝がこれにあたる。このうち、SD04溝は、古墳と切り合う。他も排水溝や古墳周溝の一部の可能性が高い。

各溝内からは、須恵器杯類や高杯、大型器台、鉢、土師器甕などが多く出土した。

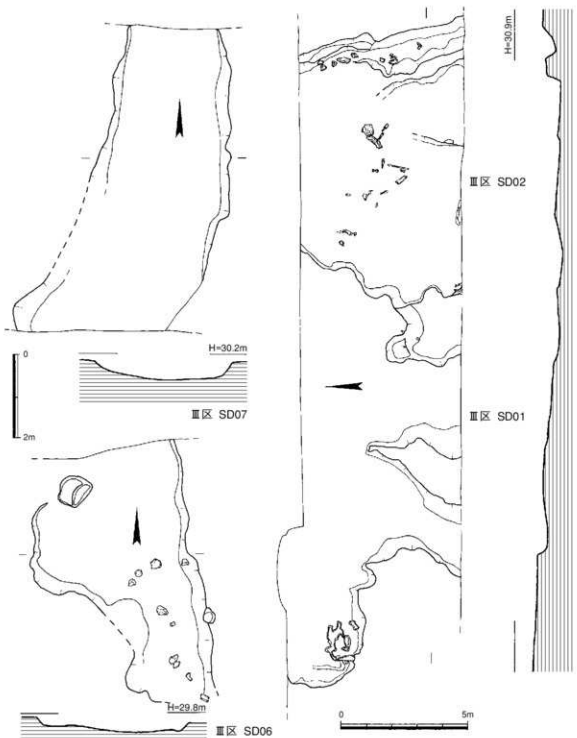


Fig.88　6次Ⅲ区－SD01・02・06・07溝出土状況

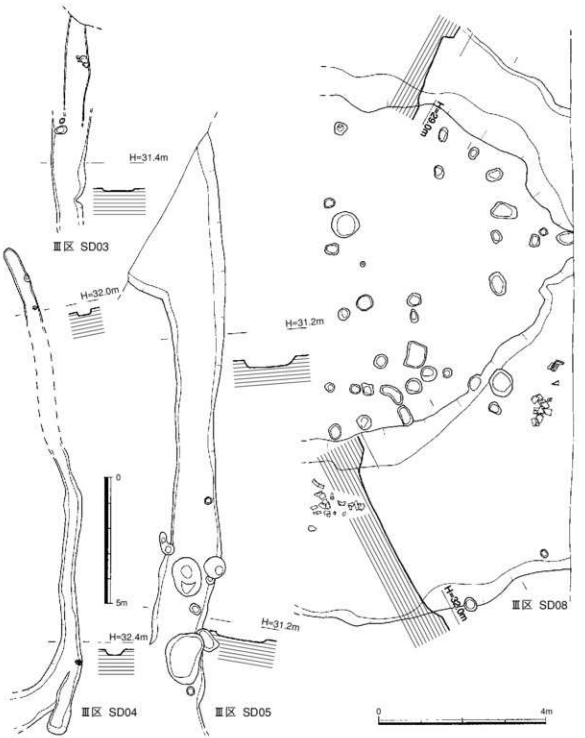


Fig.89　6次Ⅲ区－SD03～05・08溝出土状況

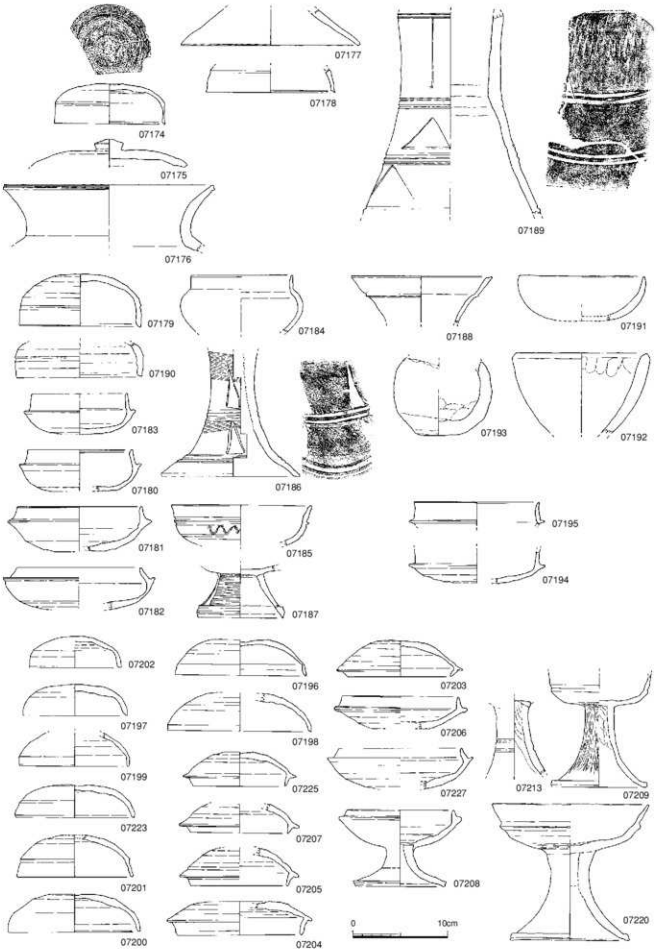


Fig.90　溝出土遺物実測図１（Ⅰ区－SD01～03、Ⅱ区－SD01・03～05、Ⅲ区－SD01・02）(1/4)

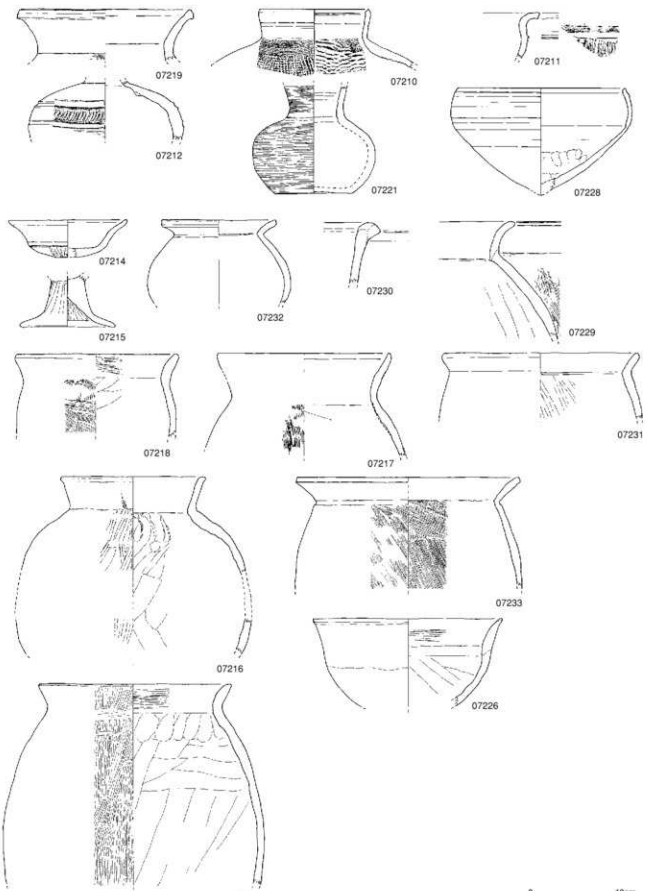


Fig.91　溝出土遺物実測図２（Ⅱ区－SD01・02・04・05）（1/4）

3．掘立柱建物（Fig.67・92～96、PL.38～43・46）

掘立柱建物と考えられる遺構は、4次調査で40基が検出された。第Ⅱ調査区を中心に東西の調査区に広く分布し、規模的には2×2間、2×3間の倉庫と考えられる総柱建物や2×5間、3×4間の側柱建物等が知られる。建物は一部には建て替えなどにより重複するものもあるが、多くは単時期の所産ではないかと考えられよう。以下個別の建物について説明を加えるが、図中の柱穴では、アミ掛けしたものが、埋土中より何らかの遺物の出土したものである。なお、紙面の都合から6次調査建物は1/200で図示した。また、アミ掛け部分のピットからは土器片などの遺物が出土した。

SB45建物（Fig.92・93）

第Ⅰ区南側で検出した1×2間以上の規模と考えられる建物である。柱間は2.5mを測る。柱穴1～4より土器破片が出土した。

SB46建物（Fig.92・93・95）

第Ⅰ区東端で検出した2×3間規模の南北棟建物である。掘り方は、布掘りである。長さ5～6m、幅0.7～0.8の平行する溝を掘削し、4本の柱を各個に配している。柱間は1.8mを測る。柱穴2より須恵器杯身07234が出土した。倉庫と思われる。

SB47建物（Fig.92・93）

第Ⅰ区南端で検出した2×2間規模の総柱建物である。掘り方は、やや小さい。柱間は1.5m前後を測る。柱穴1～7より土器破片が出土した。倉庫と思われる。

SB48建物（Fig.92・93）

第Ⅰ区南側で検出した1×2間規模の建物である。掘り方は、やや小さい。柱間は2.5mを測る。柱穴1～4より土器破片が出土した。

SB49建物（Fig.92・93）

第Ⅰ区中央で検出した不整な2×3間規模の東西棟建物である。いびつな造りである。掘り方は、不安定である。柱間は2.5mを測る。柱穴1～4より土器破片が出土した。

SB50建物（Fig.92・93）

第Ⅰ区中央で検出した不整な2×3間規模の東西棟建物である。いびつな造りである。掘り方は、不安定である。柱間は2.5～3mを測る。柱穴1～6より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB51建物（Fig.92・93）

第Ⅰ区中央で検出した1×2間以上の南北棟建物である。掘り方は、不安定である。柱間は2.5～3mを測る。柱穴1～4より土器破片が出土した。

SB52建物（Fig.92・93）

第Ⅰ区北側で検出した1×2間の東西棟建物である。掘り方は、不安定である。柱間は2.5mを測る。柱穴1～4より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB53建物（Fig.92・93）

第Ⅰ区北側で検出した1×2間の東西棟建物である。掘り方は、不安定である。柱間は2.5mを測る。柱穴1～4より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB54建物（Fig.92・93）

第Ⅰ区北側で検出した1×2間の東西棟建物である。ややいびつである。掘り方は、不安定である。柱間は2mを測る。柱穴1～5より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB55建物（Fig.92・93）

第Ⅰ区西側で検出した１×２間の小規模建物である。ややいびつな柱配りである。柱間は、梁間1.5m、桁行き3.5mを測る。柱穴１～５より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB56建物（Fig.92・93・95）

第Ⅱ区北側で検出した２×２間の小規模建物である。柱間は、梁間1.5m、桁行き1.5mを測る。柱穴７より土師器甕07236、同７より須恵器杯身07235が出土した。

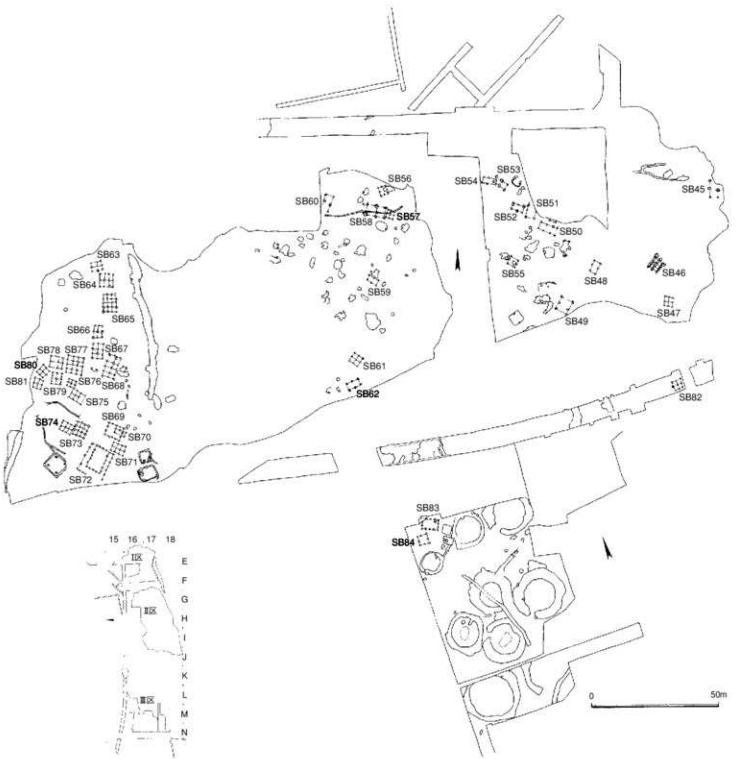


Fig.92　第６次調査掘立柱全体図

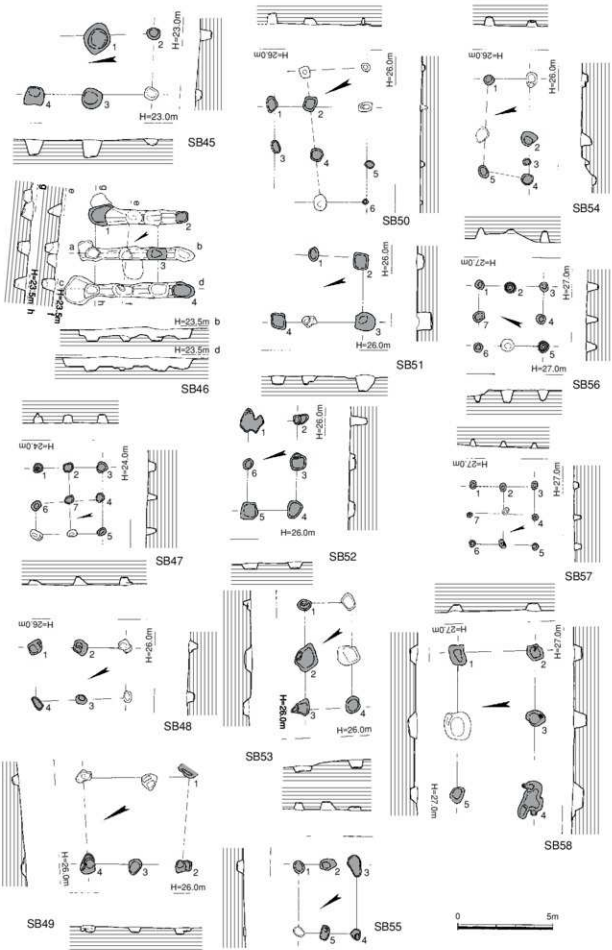


Fig.93　6次SB45～58建物出土状況実測図（1/200）

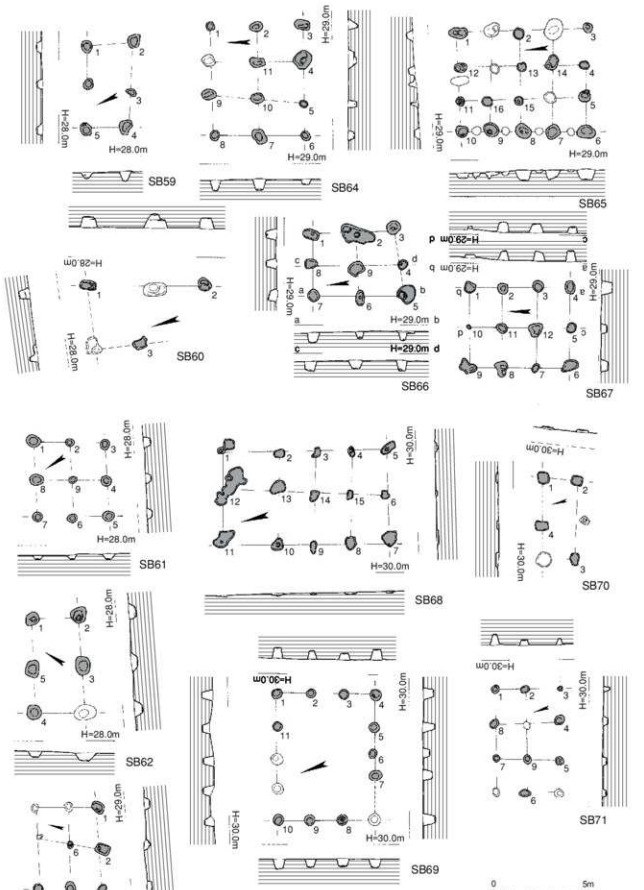


Fig.94　6次SB59～71建物出土状況実測図（1/200）

SB57建物（Fig.92・93）

第Ⅱ区北側で検出した２×２間の小規模建物である。柱間は、梁間1.5m、桁行き1.5mを測る。柱穴１～７より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB58建物（Fig.92・93・95）

第Ⅱ区北側で検出した１×２間の東西棟建物である。規模はやや大きい。柱間は、3.5mを測る。柱穴５より黒曜石製剥片鏃17001や１～５より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB59建物（Fig.92・94・95）

第Ⅱ区東側で検出した１×２間の東西棟建物である。規模はやや小さい。柱間は、２mを測る。柱穴２より土師器甕07242・07241、須恵器杯蓋07238・杯身破片07237、同５より土師器甕07243が出土した。倉庫と考えられる。

SB60建物（Fig.92・94・95）

第Ⅱ区北端側で検出した１×２間規模の南北棟建物である。規模はやや小さい。柱間は、3.5mを

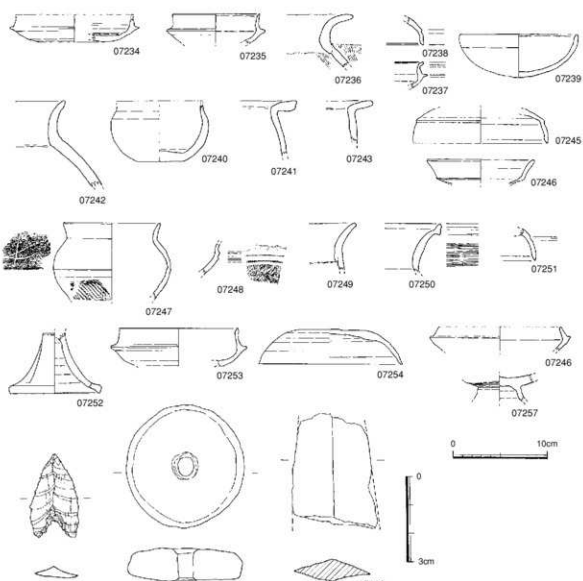


Fig.95　６次建物掘方出土遺物実測図（1/4、3/4）

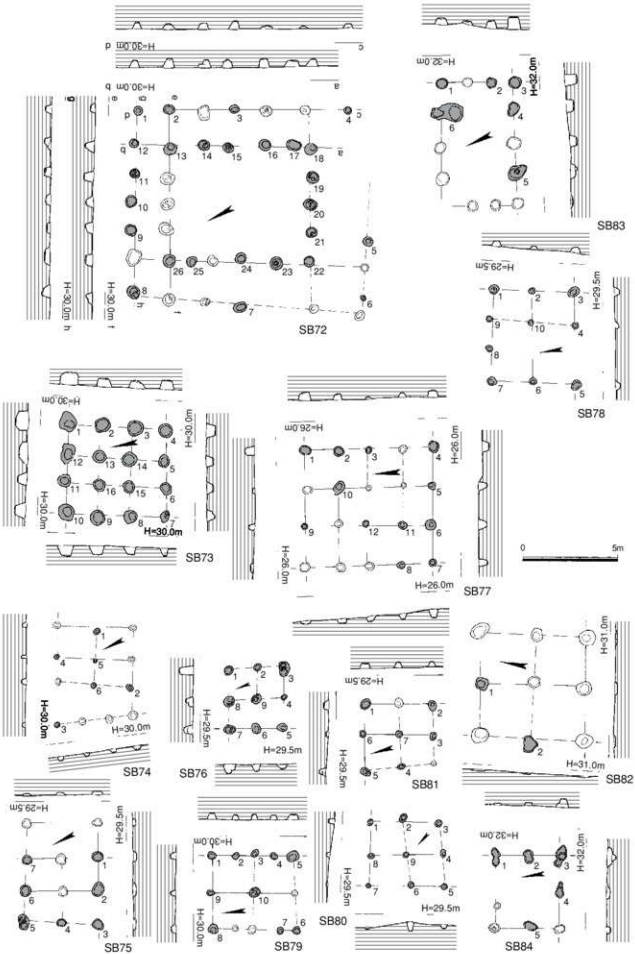


Fig.96　6次SB72～84建物出土状況実測図（1/200）

測る。柱穴２より土製紡錘含車07244や１～３より土器片が出土した。倉庫と考えられる。

SB61建物（Fig.92・94）

第Ⅱ区北端側で検出した２×２間規模の建物である。規模はやや小さい。柱間は、２mを測る。柱穴６より須恵器杯蓋07245・小型高杯07246が出土した。倉庫と考えられる。

SB62建物（Fig.92・94）

第Ⅱ区南端側で検出した１×２間規模の南北棟建物である。柱間は、2.5mを測る。柱穴１～４より土器片が出土した。倉庫と考えられる。

SB63建物（Fig.92・94）

第Ⅱ区西端側で検出した２×２間規模の東西棟建物である。規模はやや小さい。柱間は、２m弱を測る。柱穴１～５より土器片が出土した。倉庫と考えられる。

SB64建物（Fig.92・94・95）

第Ⅱ区西端側で検出した２×３間規模の東西棟建物である。柱間は、1.5m強を測る。柱穴10より須恵器直口壺破片07247が出土した。倉庫と考えられる。

SB65建物（Fig.92・94・95）

第Ⅱ区西端側で検出した３×４間規模の南北棟建物である。西の側柱間には間柱がおかれる。柱間は、1.5m強を測る。柱穴８より須恵器小型器台破片07248が出土した。大型の倉庫と考えられる。

SB66建物（Fig.92・94・95）

第Ⅱ区西端側で検出した２×２間規模の建物である。柱間は、梁間1.5m、桁行き2.5mを測る。柱穴１より土師器甕破片07249が出土した。倉庫と考えられる。

SB67建物（Fig.92・94）

第Ⅱ区西端側で検出した２×３間規模の南北棟建物である。柱間は、２mを測る。柱穴１～12より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB68建物（Fig.92・94）

第Ⅱ区西端側で検出した２×４間規模の南北棟建物である。柱間は、梁間2.5m、桁行き２mを測る。柱穴１～15より土器破片が出土した。大型の倉庫と考えられる。

SB69建物（Fig.92・94）

第Ⅱ区西端側で検出した３×４間規模の東西棟建物である。柱間は、ほぼ２mを測る。柱穴１～11より土器破片が出土した。

SB70建物（Fig.92・94）

第Ⅱ区西端側で検出した１×２間規模の東西棟建物である。やや小型である。柱間は、ほぼ2.5mを測る。柱穴１～４より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB71建物（Fig.92・94）

第Ⅱ区西端側で検出した２×３間規模の東西棟建物である。掘り方は小振りである。柱間は、ほぼ1.8mを測る。柱穴１～８より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB72建物（Fig.95・96）

第Ⅱ区西端側で検出した５×５間規模の東西棟建物である。周辺４面には建物を囲む柱列が配される。柱間は、ほぼ1.5m程度を測る。柱穴26須恵器甕口縁部破片07250が出土した。主要な倉庫と考えられる。

SB73建物（Fig.92・96）

第Ⅱ区西端側で検出した３×３間規模の建物である。掘り方は小振りである。整然とした柱配りで

ある。柱間は、ほぼ2mを測る。柱穴5より須恵器杯蓋07251が出土した。倉庫と考えられる。

SB74建物（Fig.92・96）

第Ⅱ区西端側で検出した2×3間規模の建物である。形状はいびつである。掘り方は小さい。柱間は、ほぼ1.5mを測る。柱穴2より石剣破片17002や土器破片が出土した。

SB75建物（Fig.92・96）

第Ⅱ区西端側で検出した2×3間規模の建物である。柱間は、ほぼ1.5mを測る。柱穴1～7より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB76建物（Fig.92・96）

第Ⅱ区西端側で検出した2×2間規模の小型建物である。柱間は、ほぼ1.5mを測る。柱穴1～7より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB77建物（Fig.92・95・96）

第Ⅱ区西端側で検出した3×4間規模の小型建物である。柱間は、ほぼ2mに統一されている。柱穴10より小型須恵器高杯脚破片07252が出土した。倉庫と考えられる。

SB78建物（Fig.92・96）

第Ⅱ区西端側で検出した2×3間規模の建物である。柱間は、ほぼ1.5mに統一されている。柱穴1～10より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB79建物（Fig.92・96）

第Ⅱ区西端側で検出した2×2間規模の建物である。東西側柱間には間柱が配される。柱間は、ほぼ2mに統一されている。柱穴1～10より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB80建物（Fig.92・96）

第Ⅱ区西端側で検出した2×2間規模の建物である。掘り方は小さい。柱間は、ほぼ1.8mに統一されている。柱穴1～9より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB81建物（Fig.92・96）

第Ⅱ区西端側で検出した2×2間規模の建物である。掘り方は小さい。柱間は、ほぼ2mに統一されている。柱穴1～7より土器破片が出土した。倉庫と考えられる。

SB82建物（Fig.92・95・96）

第Ⅱ区西端側で検出した2×2間規模のやや大型の建物である。柱間は、ほぼ3mに統一されている。柱穴2須恵器杯身07253が出土した。倉庫と考えられる。

SB83建物（Fig.92・95・96）

第Ⅱ区西端側で検出した3×4間規模のやや大型の建物である。柱間は、ほぼ1.5mに統一されている。柱穴5より須恵器杯蓋07254・杯身07256、同6より短脚高杯破片06257が出土した。

SB84建物（Fig.92・96）

第Ⅱ区西端側で検出した2×2間規模の建物である。柱間は、ほぼ2mを測る。柱穴1～5より土器破片が出土した。

以上掘立柱建物について記して来たが、一部の大型側柱建物を除き殆どが倉庫としての建物と考えられる。

第五章　おわりに

今回、吉武遺跡群第４・６次調査で検出した古墳時代生活遺構のうち、平成15年度に報告を行った竪穴住居跡を除く土壙・掘立柱建物、溝状遺構について報告を行ってきた。

古墳時代集落は、圃場整備にかかる１～９次にわたる調査では、約40ha規模の遺跡群全域に検出された。(Fig.97)

集落は、時期的には５世紀後半～６世紀前後を中心とするもので、竪穴住居跡・掘立柱建物・廃棄土壙・井戸からなり、遺構は第９次調査地点の竪穴住居跡群を主に分布する。周辺部では小型の住居跡とともに２×２間・２×３間規模の倉庫と考えられる総柱建物群が広く分布する。

また、他に４次調査SB40建物（５×６間）・SB41建物（５×４間）や６次調査SB72建物のように５×５間規模の住居かと考えられる大型の側柱建物などが知られ、集落単位の中心的建物の可能性が高いと考えられる。さらに、数的には少ないが、井戸を中心とする集落単位も想定できよう。

また、集落から出土した遺物の構成から考えると、集落は北側がより古く、南側に従って新しくなる傾向である。

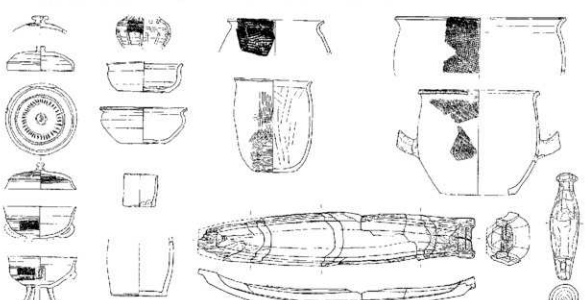
その他、出土遺物のうち特徴的なものについて記す。

①木製模造船　４次調査３号水路調査区出土の舷側板を明瞭に表現した「準構造船」である。他に農具・機織具・多量の木錘が共伴する。右舷側の中央部分には刃物で切りつけた痕跡があり図示はしていないが、付近で滑石製子持ち勾玉の出土があり、祭祀にともなう一連の遺物と考えられる。

②木錘　４次調査８・３号支線道路SD02溝や周辺廃棄土壙、６次調査廃棄土壙からも出土した。形状は、一端を全周から抉って冠帽状に整形し、一端は両面からそぎ落として中央に長方形の孔を穿った楔形を呈する。ほぼ同サイズで、全長20cm強・厚さ５cm強を測る。複数を連結して使用する道具と考えられ、漁網のおもりである可能性もある。類品が無く、将来の発見を待ちたい。

③陶質土器・軟質土器・算盤玉形紡錘車　４次調査区の８号支線道路SD02溝やSK109などの土壙を中心に須恵器・土師器に共伴して出土している。

④長方形透かしのはそう　４次調査SK35土壙出土のはそう06070で、焼成前に胴部上下に長方形透かしを施す。沖ノ島祭祀品にも類品がある。６世紀前半期の所産か。



出土陶質土器・軟質土器・木器類

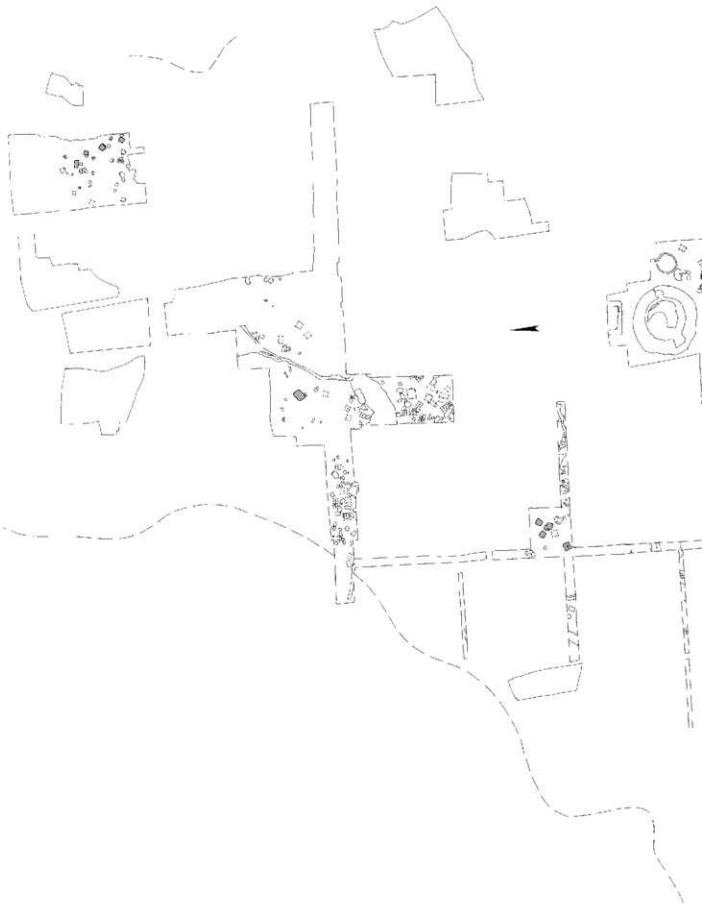


Fig.97　吉武遺跡群における古墳時代遺構全体図

0
100m

개요

요시타케 유적군은, 후쿠오카시 서부의 사가라 평야에 소재하는 대규모 줄여가며 꿰매어 나무입니다.

유적은, 구석기시대 후기의 세석기 문화기부터 개시된 취락입니다만, 특히 야요이 시대 전기말부터 고분 시대전시기에 걸친 옛날 건축의 잔존물이 매우 농후합니다.

야요이 시대에서는, 기원 전 2세기경의 전기 후반에 취락이 형성되어 전기말에는 유적군전역으로 확대합니다.

또, 취락에 수반하는 묘지는, 옥관무덤·도기로 된 독을 사용한 관무덤을 주로 한 공동묘지이다.

여기에서는, 타카기·오오이시의 두 지방구로 대형의 도기로 된 독을 사용한 관무덤이나 옥관무덤에 수반하고, 다수의 한반도제 청동 무기, 다유세문경, 천이나 비취제 곡옥, 벽옥제 관옥등이 출토했습니다.

이러한 묘지의 상황은, 특히 동시기의 북부 큐슈 연안 지역의 코다이라들에서 볼 수 있어 요즘에는 초기적인「쿡」이 형성되고 있던 것을 알 수 있습니다.

또, 이것 이후, 도기로 된 독을 사용한 관 묘지는 대규모가 되어, 기원 전후의 야요이 시대 중기 후반에는 분구를 가지는 묘지「분구묘」이 형성되었습니다.

분구묘의 도기로 된 독을 사용한 관에서는, 중국한대의 청제 무기, 전 한경등의 부장품이 출토해, 요즘에는 사가라 평야를 단위로 한 소「쿡」이 성립한 것이라고 생각할 수 있습니다.

그리고, 기원 후의 야요이 시대 후기에는, 유적의 밀도는 급속히 쇠약해져서 갑니다.

다음에, 본유적이 중성이 되는 것은, 고분 시대 전기말~중기 초의 기원5세기 이후가 됩니다.

고분 시대 취락은, 동서로 흐르는 자연 유로의 사이의 구릉지에 수단위로 나누어져 형성되고 있다.

그것은, 수혈 주거·굴립주창고·토광·우물등에서 구성되어 있습니다.

또, 취락에 수반하는 묘지는, 취락 동부로 전방 후원분·방분, 남부에 직경 10 m전후의 원분군(27기)이 있습니다.

원분군은, 횡혈식 석실을 주체로 해, 부장품에는 스에 토기·토사기·도질토기·옥류등과 함께 각종철 도끼, 철제의 화살촉, 철도, 철검·마구 등 다수의 철제 무기·공구·농구류가 있었습니다

이러한 철기류는, 그 대부분이 한반도 남부로부터 초래 된 제품이다.

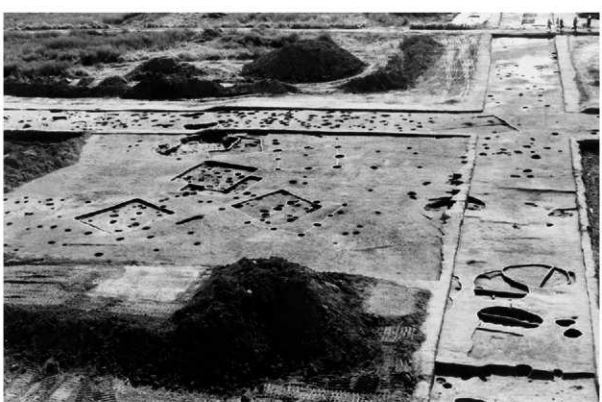
이것은, 기원6 세기 처음무렵의 사가라 호족과 가야 지방과의 문화적 교류를 생각하는데 있어서, 매우 중요한 문물이다고 할 수 있습니다.

第６次調査Ⅱ区調査状況（西から）
－前方建物は四箇田団地－

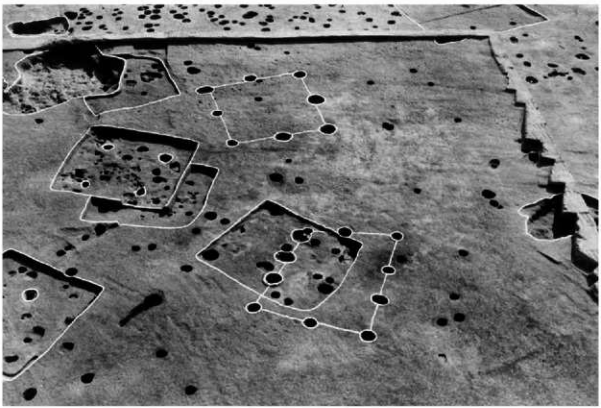
図　　版

PLATES

1．Ｌ－８・９地区SD01溝出土状況（東から）



2．26－１地区調査区全景（北から）



1．26－1地区竪穴住居・建物出土状況（北から）

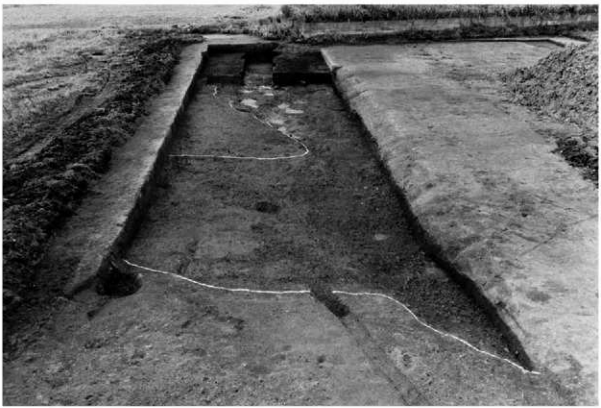
2．26－1地区SK109土壙・SB01建物出土状況（北から）

2号支線道路全景（北から）

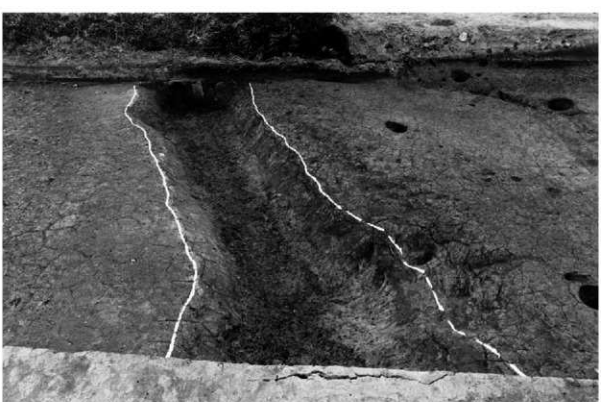
1．２号支線道路SD03溝井堰出土状況（南から）

2．２号支線道路SH04・SK106・107土壙出土状況（東から）

3．２号支線道路SK108土壙出土状況（東から）

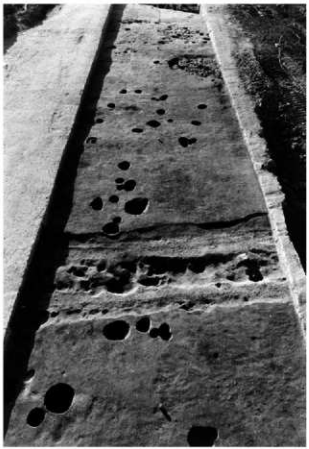


1．７号支線道路SD01溝出土状況（東から）



2．７号支線道路SD02溝出土状況（北から）

8 号支線道路全景（東から）



1．8号支線道路遺構出土状況（東から）

2．8号支線道路遺構出土状況（西から）

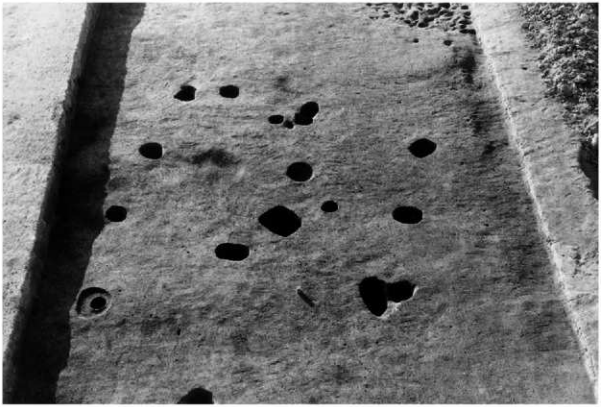
3．8号支線道路SD02・SK132土壙出土状況（西から）

4．8号支線道路SD01溝東辺遺物出土状況（西から）

1．8号支線道路SD01溝土器類一括出土状況（東から）

2．8号支線道路SD01溝土器類一括出土状況（南から）

1．8号支線道路SD05溝出土状況（東から）



2．8号支線道路SB02建物出土状況（東から）

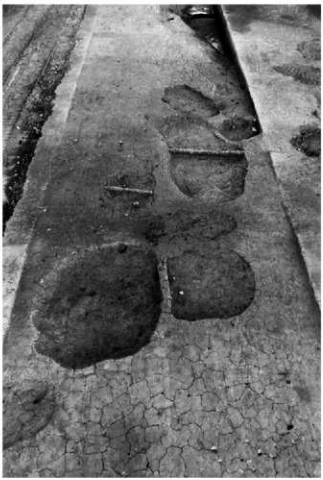
1．8号支線道路SK113・114・115土壙出土状況（南から）

2．8号支線道路SK117～120土壙・SD04溝・SE03井戸出土状況（西から）

1．8号支線道路SK118～120土壙・SD04溝・SE03井戸出土状況（西より）

2．8号支線道路SK121～124土壙出土状況（西から）

1．8号支線道路SK123～128土壙出土状況（西から）



2．8号支線道路SK126～131土壙・SD02溝出土状況（西から）

3．8号支線道路SE03井戸出土状況（南から）

4．8号支線道路SE03井戸完掘状況（西から）

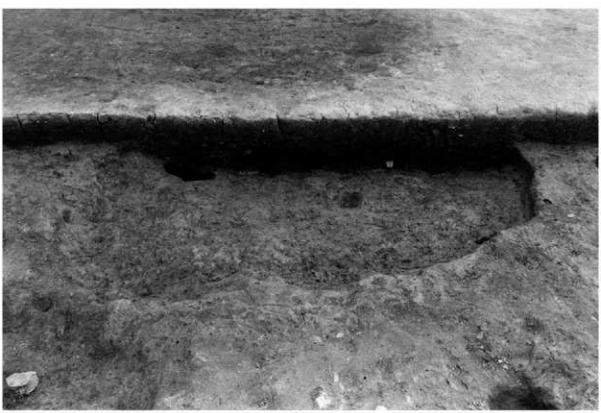
1．３号水路SD02溝出土状況（西から）

2．３号水路SD02溝内木製品出土状況（南から）

1．３号水路SD02溝内杭列出土状況（南から）

2．３号水路SD02溝内木製鞍出土状況（北から）

1．5号水路SK104土壙出土状況（南東から）

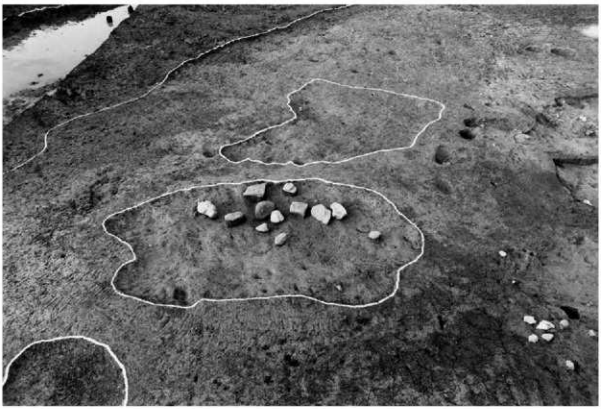


2．5号水路とSK105土壙出土状況（南から）

K－12地区遺構検出作業全景（西から）

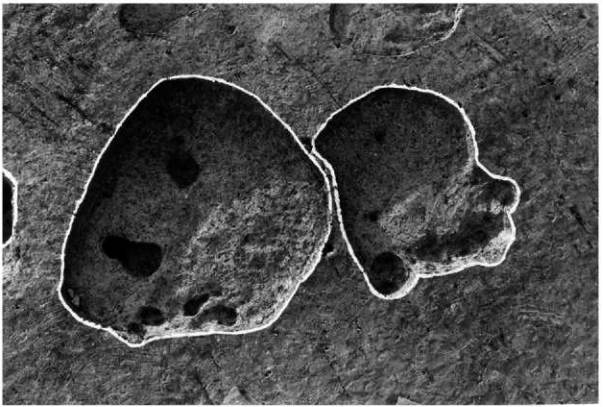
1．Ⅰ・Ｊ－11・12地区SD01溝出土状況（東から）

2．Ⅰ・Ｊ－11・12地区SD01溝木製フォーク出土状況（南から）



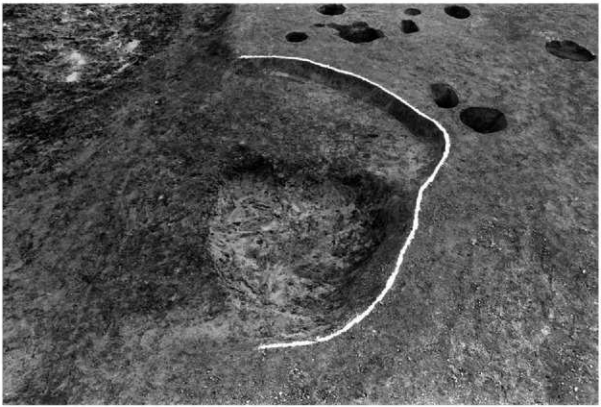
1．Ｊ－12地区SK02・03土壙出土状況（南から）

2．Ｋ－12地区土壙出土状況（東から）

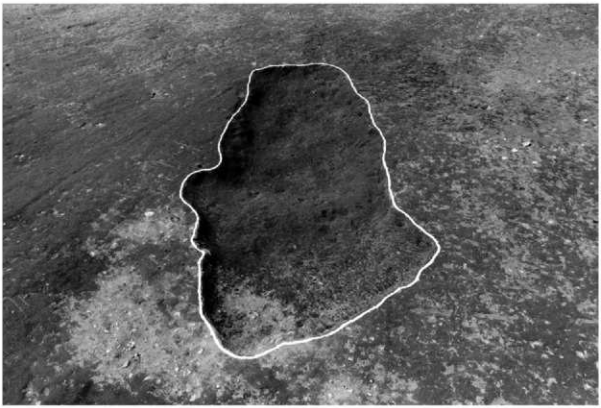


1．Ｊ－12地区SK05・06土壙出土状況（東から）

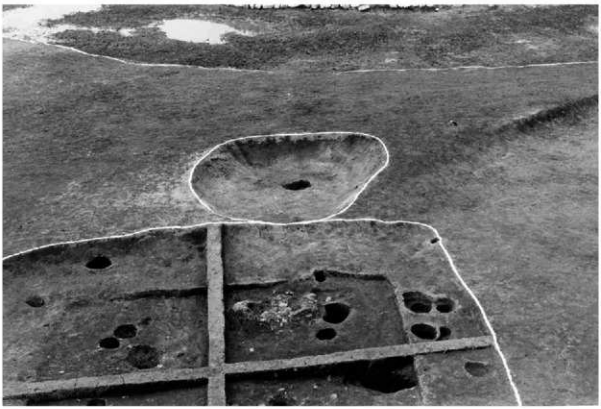
2．Ｊ－12地区SK08・09土壙出土状況（南から）



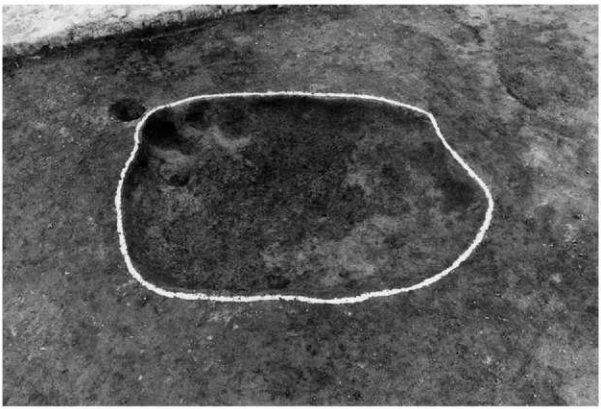
1．G－12地区SK61土壙出土状況（北から）



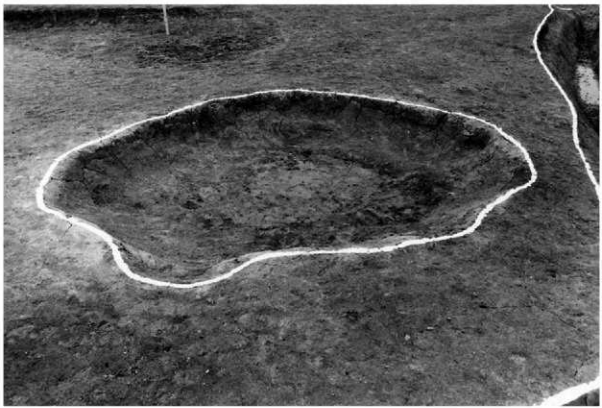
2．F－12地区SK63土壙出土状況（南東から）



1．Ｆ－11地区SK64土壙出土状況（南東から）



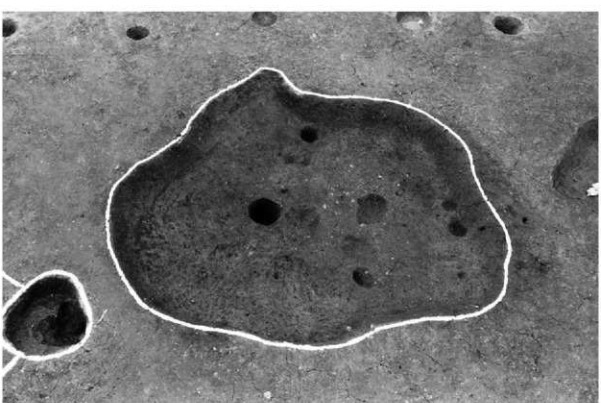
2．Ｆ－11地区土壙出土状況（南から）



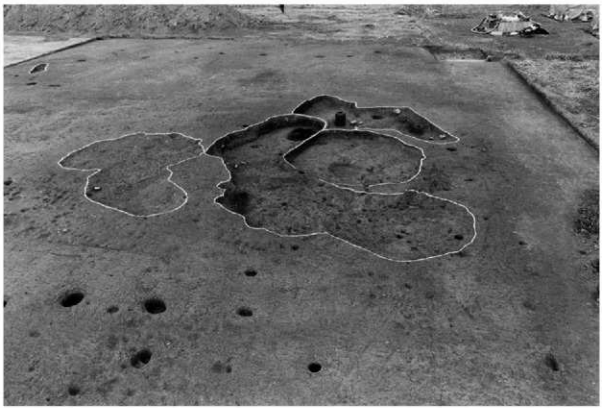
1．Ｆ－11地区SK65土壙出土状況（南東から）

2．Ｆ－11地区SK66土壙出土状況（南から）

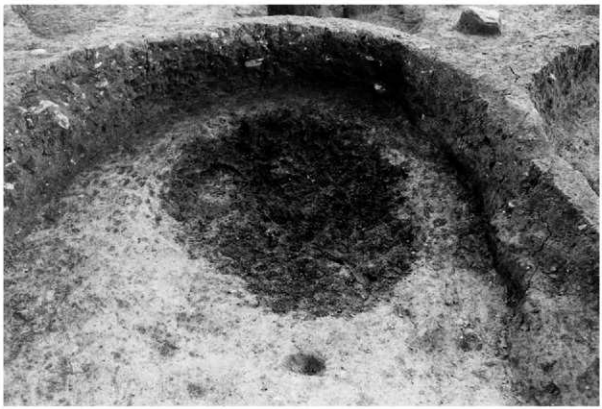
1．F－11地区SK76土壙出土状況（北東から）



2．F－11地区土壙出土状況（南から）



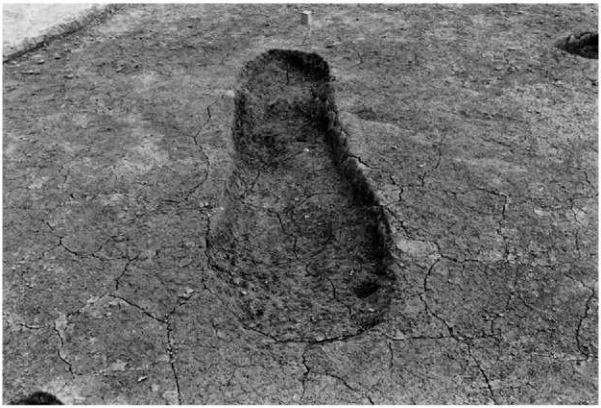
1．K－12地区SK90～96土壙出土状況（南から）



2．K－12地区SK93土壙出土状況（南から）

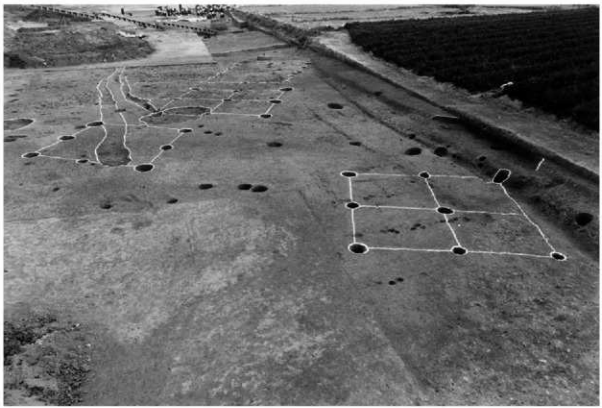
1．K－12地区SK97土壙出土状況（南東から）

2．K－12地区SK99土壙出土状況（北から）

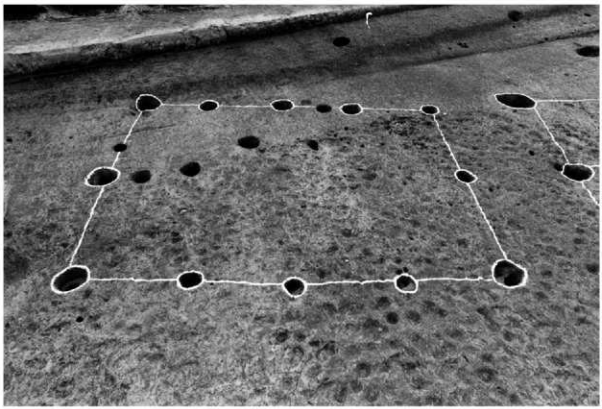


1．K－12地区SK101土壙出土状況（南東から）

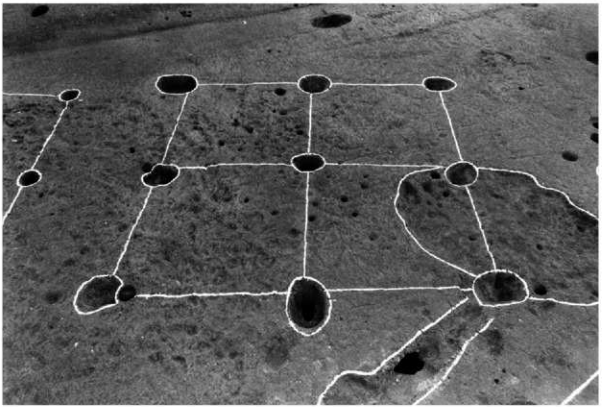
2．K－12地区SK102土壙出土状況（南から）



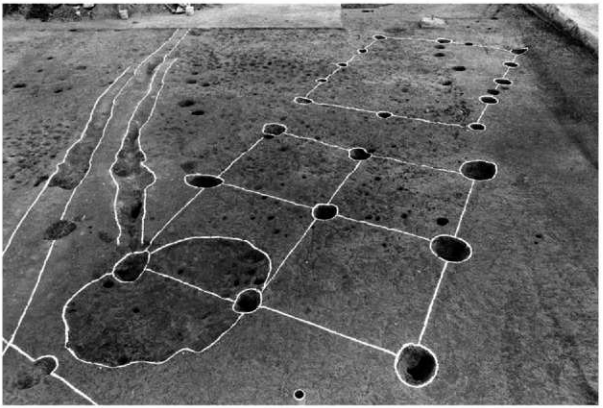
1．K－12地区建物群出土状況（西から）



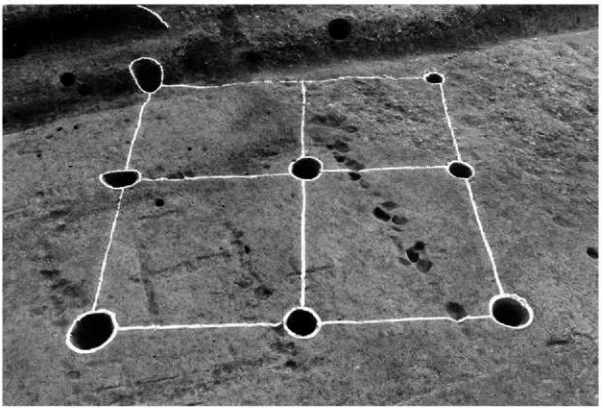
2．K－12地区SB03建物出土状況（北東から）



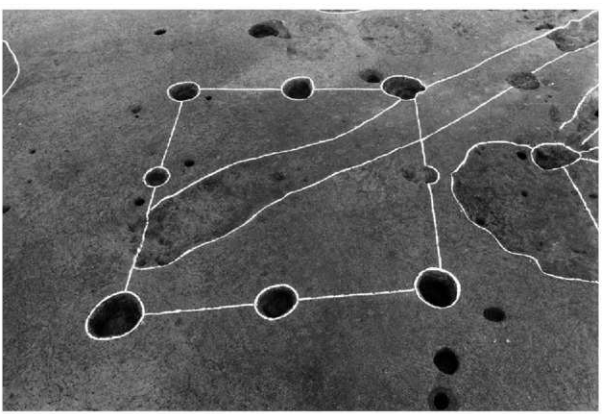
1．K－12地区SB04建物出土状況（北から）



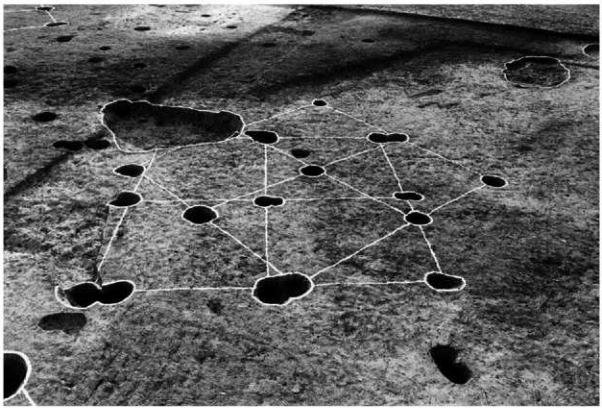
2．K－12地区SB03・04建物、SK98土壙出土状況（西から）



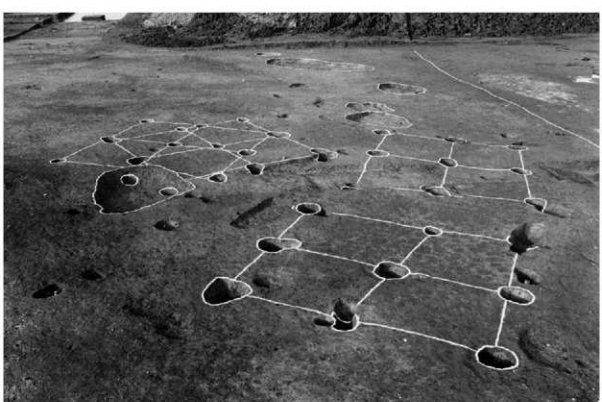
1．K－12地区SB05建物出土状況（北から）



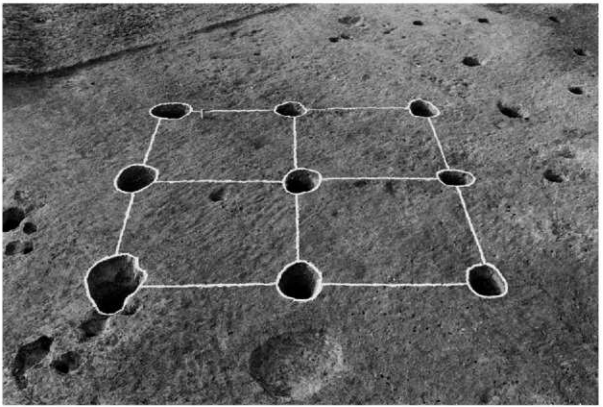
2．K－12地区SB06建物出土状況（南から）



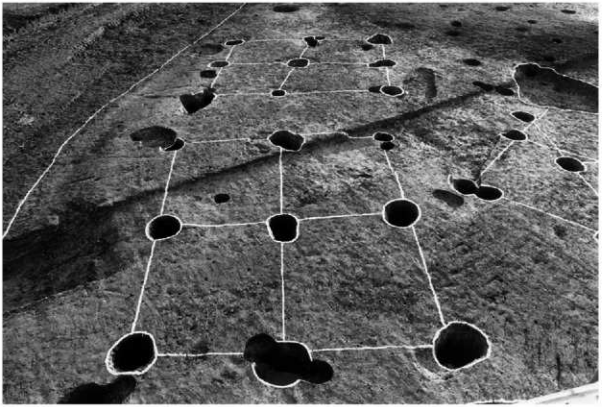
1．J－12地区SB07・08建物出土状況（北東から）



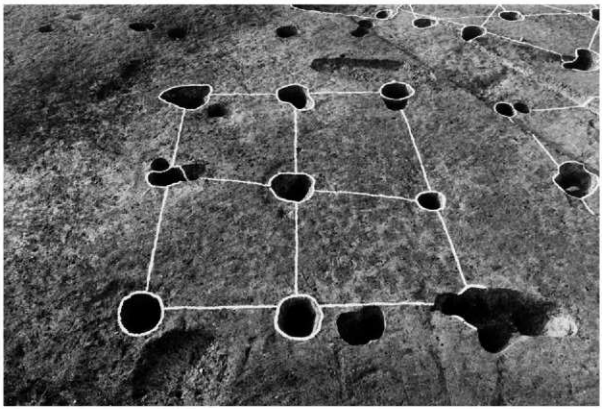
2．K－12地区SB07・08・11・12建物出土状況（南から）



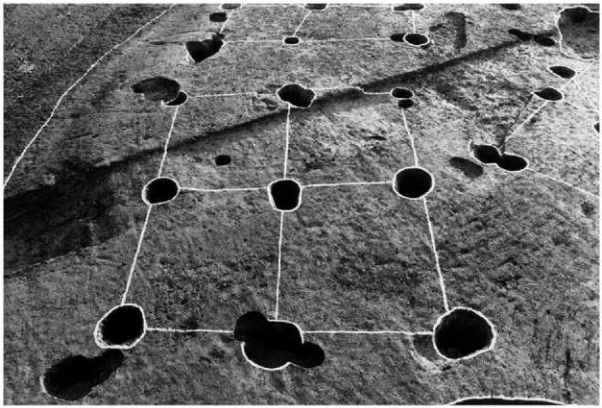
1．Ｊ－12地区SB10建物出土状況（南東から）



2．Ｊ－12地区SB11・12建物出土状況（北東から）

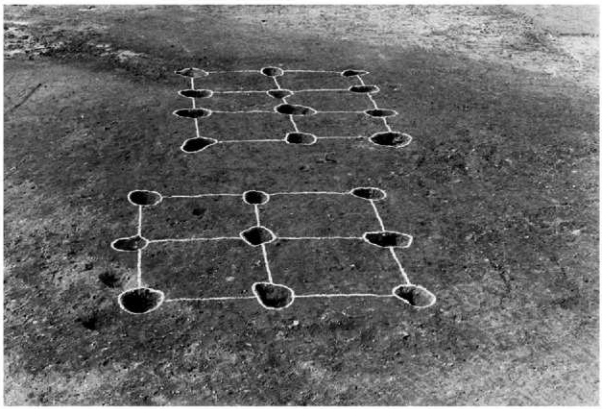


1．Ｊ－12地区SB11建物出土状況（南東から）

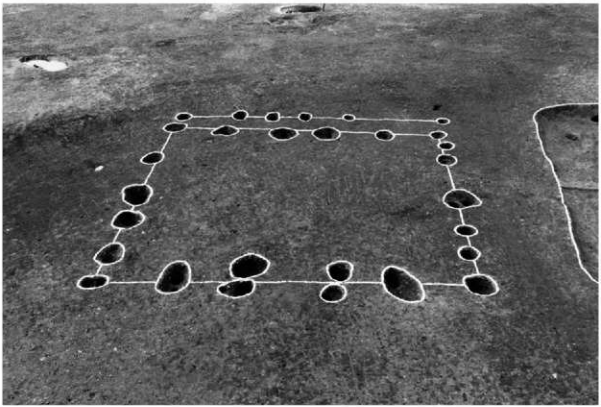


2．Ｊ－12地区SB12建物出土状況（北東から）

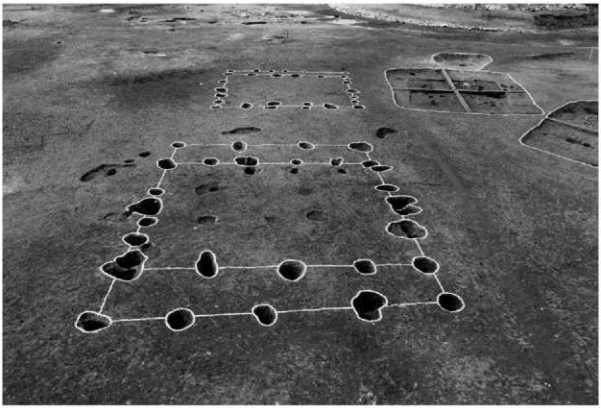
1．G－11地区SB37建物、SK57土壙出土状況（南東から）



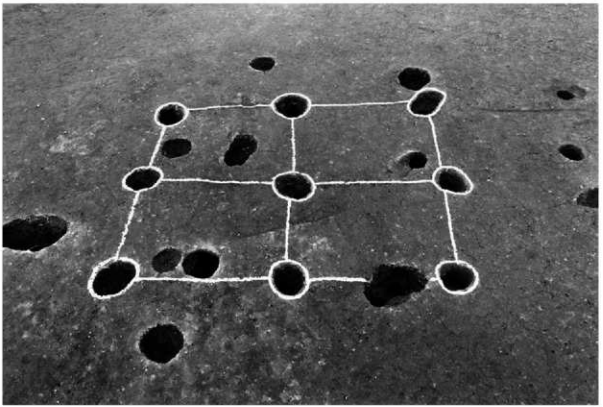
2．G－12地区SB38・39建物出土状況（南東から）



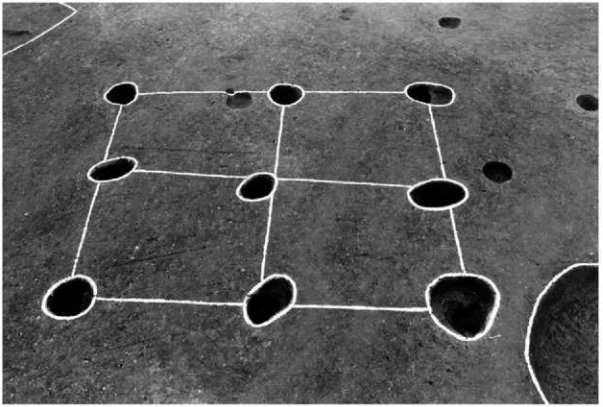
1．Ｆ－11地区SB40建物出土状況（南東から）



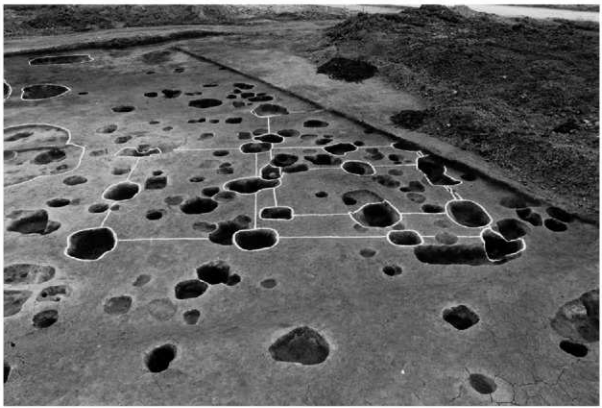
2．Ｆ－11・12地区SB40・41建物出土状況（南東から）



1．Ｆ－12地区SB42建物出土状況（南東から）



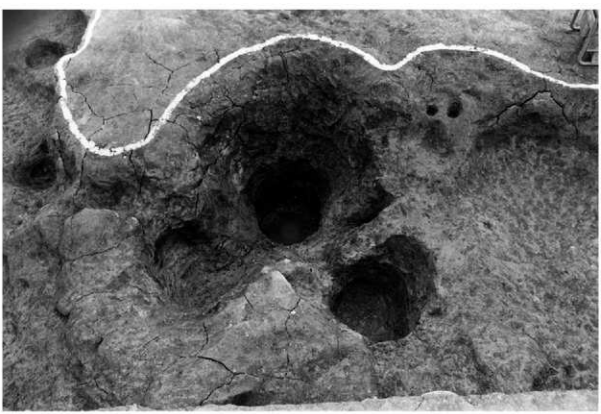
2．Ｆ－11地区SB43建物出土状況（南東から）



1．Ｆ－11地区SB44建物出土状況（北西から）

2．Ｉ－12地区SE01井戸及び須恵器大甕出土状況（西から）

1．Ⅰ－12地区SE01井戸出土状況（西から）



2．Ｆ－11地区SE02井戸出土状況（南から）

第６次調査Ⅰ・Ⅱ区全景（東から）

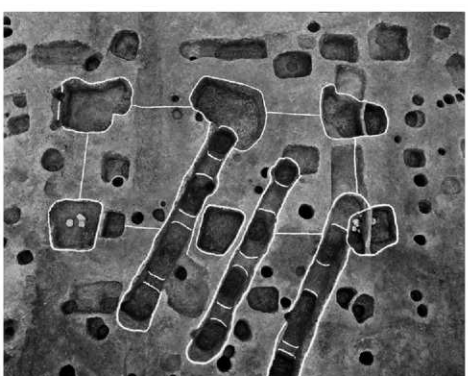
1．Ⅱ区西部地区建物群出土状況（西から）

2．Ⅱ区南部地区建物群出土状況（北から）

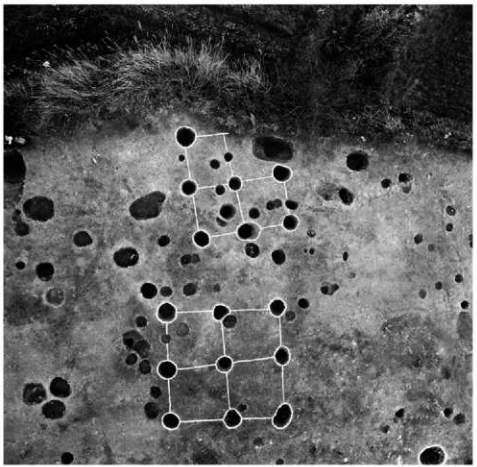
1．Ⅱ区西部地区建物群出土状況（西から）

2．Ⅱ区西部地区建物群出土状況（南西から）

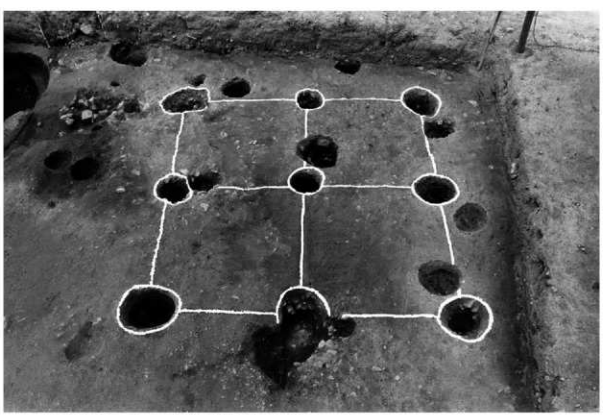
1．F～J地区建物群出土状況（北西から）



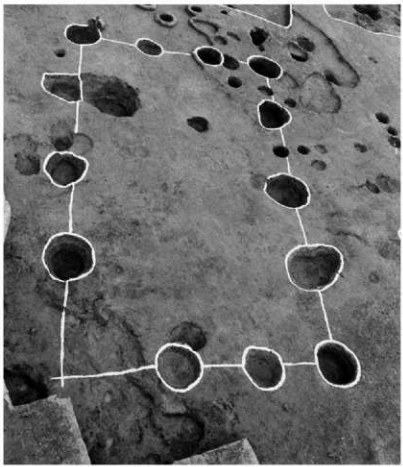
2．D・E－16・17地区
SB46建物出土状況
（南から）



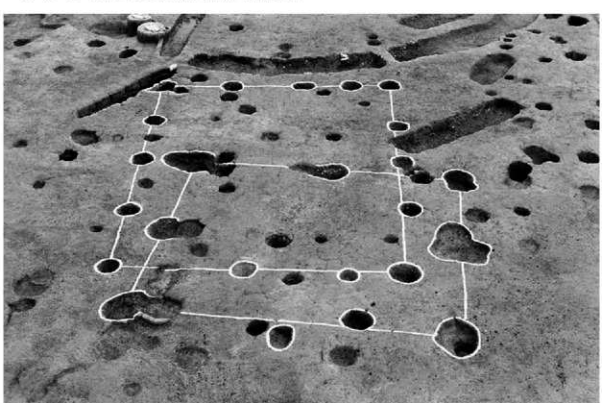
1．D・E－16・17地区SB47建物出土状況（北から）



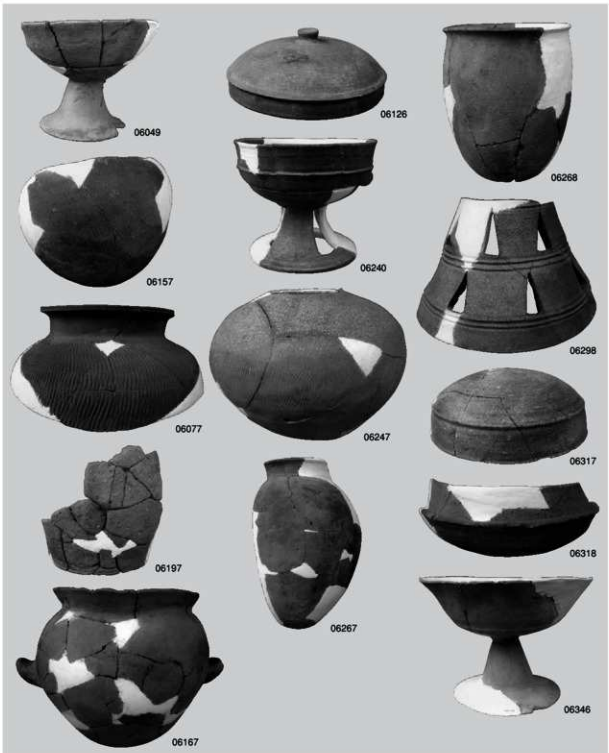
2．1号幹線道路2区SB82建物出土状況（西から）



1．M・N－17地区SB83建物出土状況（北西から）



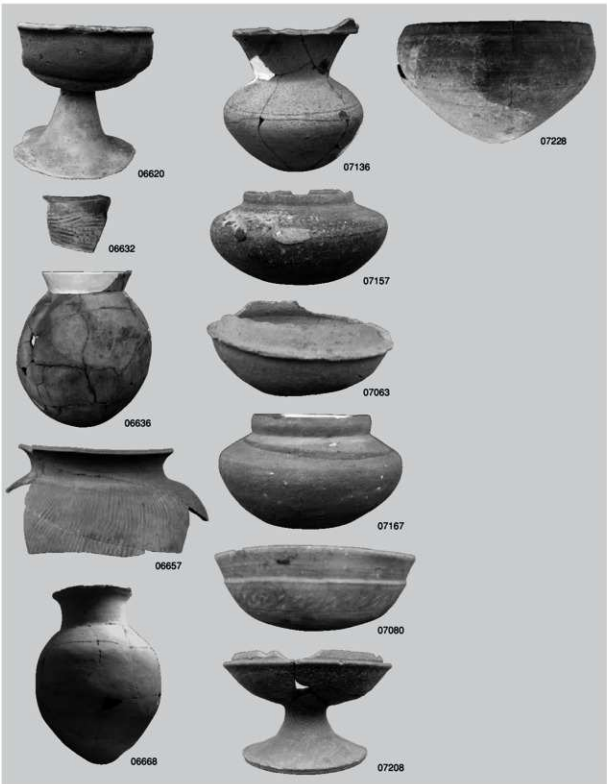
2．M・N－17地区SB84建物出土状況（北から）


06049
06126
06268
06157
06240
06298
06077
06247
06317
06197
06267
06318
06167
06346

第 4 次調査出土遺物

06362
06388
06424
06369
06393
06431
06380
06402
06439
06373
06404
06449
06418
06447

第 4 次調査出土遺物



第 4 次・6 次調査出土遺物

報 告 書 妙 録

ふりがな	よしたけいせきぐん
書　　名	吉武遺跡群
副 書 名	飯盛吉武地区圃場整備事業関係調査報告書12 －古墳時代集落遺構編３－
巻　　次	Ⅷ
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書第911集
シリーズ番号	第12集
編 著 者 名	横山邦継
編 集 機 関	福岡市教育委員会　文化財部埋蔵文化財課
所　在　地	〒810-0043 福岡市中央区天神一丁目８番１号　Tel. 092－711－4667
発行年月日	2006年３月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
吉武遺跡群	福岡県福岡市 西区大字飯盛 吉武地内	40132	8335 8446	33 32 27	130 19 13	1983.09.12 ～ 1985.03.20	51,000	圃場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉武遺跡群	集落 墓地 官衙	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世	甕棺墓多数 竪穴住居・ 建物群、古 墳群（円墳 ・前方後円 墳）など	青銅器・玉類鉄 器、埴輪・須恵 器・土師器・陶 質土器・木製鞍、 越州青磁・円面 硯など	外来系土器を出土する古墳 時代中期～後期の集落遺構

福岡市埋蔵文化財調査報告書第911集

吉武遺跡群Ⅷ

－飯盛吉武地区圃場整備事業関係調査報告書12－

発　行　2006年３月31日
福岡市教育委員会
〒810-8621
福岡市中央区天神一丁目８番１号
印　刷　正光印刷株式会社
福岡市西区周船寺三丁目28番１号